

1 教科等で育てる「確かな学力」「ふるさと上越を愛する心」

教科等の基本計画

基本計画・2本の柱

学力の向上

「確かな学力」の定着を目指し、改訂学習指導要領の趣旨及び、現在の上越市の児童生徒の学力実態の傾向等をもとに、どのような力を培うことが必要かという視点から、国語、算数・数学、理科における重点事項及び、モデルプランを提案します。

- ◆新学習指導要領の受け止め
- ◆教科の重点事項の設定
- ◆モデルプランの提示
- ◆年間指導計画例の提示
- ◆重点教科
 - ・国語科（小・中）
 - ・算数科，数学科
 - ・理科（小・中）
- ◆移行措置への対応 など

- ★活用場面での授業づくり
- ★基礎的・基本的な学習内容の確実な定着
- ★言語活動の充実

ふるさと学習

新市「上越」及び、各地域の「人」「環境」等の資源のうち、学年や教科等の指導内容を内包し、それを学ぶことにより、児童・生徒がふるさとのよさを感じ、愛着をもつことのできる学習活動を提案します。

【人】

- ・歴史上の人物 ・上越市出身の作家
- ・上越市ゆかりの人物
- ・施設の指導員，学芸員
- ・地域に住む〇〇の先生 など

【環境】

- ・自然 ・施設 ・文化財
- ・遺跡 ・観光 ・産業
- ・交通 ・風土 ・風習 など

◆モデルプランの提示

- ・社会科：「上杉謙信公学習」（小6）
- ・国語科：「杉みき子の世界」（小5）
を中心として

◆参考事例の提示

- ・理科，家庭科，音楽科，数学科，社会科，外国語科，体育科，図工・美術科，道徳，生活科 など

上越カリキュラム

「教科等の基本計画」では、改訂学習指導要領の趣旨や上越市の児童生徒の学力実態の傾向等をふまえ、各学校での指導計画等の作成や学習指導の指針となる内容を、上越市としての「教科の重点事項」や「ふるさと学習」の視点、また、「モデルプラン」として示しました。

☆確かな学力の定着を目指す「学力の向上」では、

- (1) 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をはぐくむ。
 - ① 活用場面で児童生徒が活用する知識・技能，考え方を明確にし，習得場面での確実な定着を図ること
 - ② 児童生徒に発揮させたい思考力・判断力・表現力を明確にし，知識・技能，考え方を活用する場面を構想すること
- (2) 基礎的・基本的な学習内容の確実な習得を図る。
- (3) 各教科での言語活動を充実する。

の3点から授業改善を図ることを提案しています。

重点教科としては、「国語科」「算数・数学科」「理科」を取り上げ、それぞれの教科で特に身に付けさせたい思考力・判断力・表現力を「重点事項」として示しました。事例としては、具体的な学年や単元を取り上げ、授業の流れや活用場面のとらえ、活用する知識・技能・考え方、思考力・判断力・表現力を発揮させるポイントなどをまとめました。ただし、事例としては、一部の学年の一例に過ぎません。今後、カリキュラム開発研究を継続していく中で事例を充実させていく予定です。各学校では、基本計画で示した「教科の重点事項」及び「モデルプラン」を自校の指導計画の編成や授業改善に役立てていただきたいと思います。

☆ふるさと上越を愛する心情をはぐくむ「ふるさと学習」では、市内の全小学校で必ず扱う必須教材として、国語科での「杉みき子の世界」（対象：小学校第5学年・「わらぐつの中の神様」＋5時間程度の発展学習）、社会科での「上杉謙信公学習」（対象：小学校第6学年・「3人の武将と天下統一」の学習の後、3時間程度 ※「総合的な学習の時間」及び「道徳」としての扱いは、各学校の実情に合わせて取り入れる。）を選定し、指導細案を示しました。その他の教科等についても参考事例として示し、各学校の実情に合わせてカリキュラムの中に取り入れられるようにしました。

☆Web上でのデータ配信とバインダー方式

「上越カリキュラム」は、Web上でのデータ配信とバインダー（ファイル形式）での配布を行います。「上越カリキュラム」の特性を生かすため、今後、そのバインダーに差し替えをしたり、追加分を加えたりしながら充実を図っていきます。また、各学校オリジナルの指導計画や開発単元、指導資料などを差し込んでいくことで、その学校独自のカリキュラム資料となっていきます。

☆学習指導要領完全実施までの流れ（予定）

年度	国	上越市	研修等	学校
平成19年度	中教審答申 学習指導要領 告示	上越カリキュラム開発研究 【一年次の推進とまとめ】 ・カリキュラムマネジメント指針 ・特色あるカリキュラムモデル ・教科等の基本計画＜ふるさと学習＞ (試案)	カリキュラム研修① カリキュラム研修② 授業力向上研修 学校力向上研修 教育フォーラム	学習指導要領の理解 上越カリキュラム開発研究の趣旨理解
平成20年度	学習指導要領 解説	上越カリキュラム開発研究 【二年次の推進とまとめ】 ・カリキュラムマネジメントプラン ・特色あるカリキュラムモデル ・教科等の基本計画＜第1期＞ ★学力の向上 ★ふるさと学習 移行措置への対応	カリキュラム研修① カリキュラム研修② 市学校教育研究会との連携 授業力向上研修 学校力向上研修 教育フォーラム 上越カリキュラム説明会	学習指導要領の移行措置及び上越カリキュラムの内容をふまえたカリキュラムの編成
平成21年度 平成22年度	移行措置 ◆小学校： 平成21年度～22年度 ◆中学校： 平成21年度～23年度	上越カリキュラム開発研究 ・教科等の基本計画＜第2期＞ ★学力の向上の取組 ★ふるさと学習の充実 ・雪、謙信カリキュラム等 ・視覚的カリキュラム 移行措置への対応	カリキュラム研修 授業力向上研修 学校力向上研修 教育フォーラム 上越カリキュラム説明会	カリキュラムマネジメント ・カリキュラムの編成、実施、評価、改善
平成23年度	学習指導要領 全面実施 【小学校】	上越カリキュラムプラン ・評価と改善、更新	↓	↓
平成24年度	学習指導要領 全面実施 【中学校】	↓		

2 学力の向上を目指した教科学習

(1) 新学習指導要領の改訂の基本的な考え方と上越市の児童・生徒

学習指導要領改訂の基本的な考え方

新学習指導要領では、現行の学習指導要領と同様に学校・家庭・地域が一体となって児童生徒に「生きる力」をしっかりとほぐくむことが示されています。

改訂の基本的な考え方として、次の3つが示されています。

一つは、教育基本法の改正で明確になった教育の理念を踏まえた教育内容の改善を行い「生きる力」を育成すること。二つは、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、それを活用するための思考力・判断力・表現力などをバランスよく育成することため、授業時数を増やし、言語活動や理数教育などを充実させること。三つは、道徳教育や体育などの充実によって、児童生徒の豊かな心や健やかな体を育成することです。

また、児童生徒の学力の状況からみて、「生きる力」で目指している思考力・判断力・表現力など知識・技能を活用する部分に課題があるとし、観察・実験やレポート作成・論述など、知識・技能を活用する学習活動を発達の段階に応じて充実させていく必要があるとしています。

上越市の児童生徒の学力実態

一方、上越市全体の学力実態の傾向を平成20年度の全国学力調査結果からまとめると、次のようになります。（上越市教育委員会「学力向上にかかわって～全国学力・学習状況調査の結果と課題～」より一部抜粋）*資料（表I）参照

まず、平成20年度調査の出題の特徴としては、平成19年度と比べて、「これまでの調査で課題の見られた内容の問題や解答に当たって、より正確な理解が必要な問題が多い出題」であり、全体としては、平成19年度と比べてやや難しい内容となっています。このため、上越市の平均正答率は、全国や新潟県と同様に昨年度を全体的に下回っています。

知識（A問題）と活用（B問題）との比較

上越市全体の学力実態については、知識（A問題）の平均正答率は70%前後であり、概ね知識・技能は定着していると考えられますが、今回出題された学習内容の定着に一部課題が見られます。活用（B）問題の平均正答率は中学校の国語が60%を上回りますが、他は約50%であり、知識・技能を活用する力に課題があります。

県や全国との比較

新潟県平均との比較では、知識（A問題）・活用（B問題）ともに、小中学校の国語・算数数学は県平均をやや上回っています。特に、中学校のポイントが高い結果を得ています。また、全国平均との比較では、知識（A問題）・活用（B問題）ともに、小学校の算数のみ僅かに下回っています。平成19年度との比較では、活用（B問題）で小学校の国語がやや下降しましたが、他は全体に向上が確認できます。特に中学校のポイントの伸びが顕著であることが分かります。

全体としては、小学校は全国平均・新潟県平均とほぼ同じであり、中学校がやや上回るという結果です。このことから、上越市の児童生徒の学力は全国水準を確保できているといえます。

資料（表1）

【知識（A問題）】平均正答率

※（ ）は平成19年度

項目	新潟県	全国	市-県の比較	市-全国の比較
小6年国語	67.0 (82.8)	65.4 (81.7)	↑	↑
小6年算数	71.9 (82.1)	72.2 (82.1)	↑	↓
中3年国語	73.6 (83.0)	73.6 (81.6)	↑	↑
中3年数学	62.8 (72.2)	63.1 (71.9)	↑	↑
A問題の単純 合計平均	68.83 (80.03)	68.58 (79.33)	↑	↑

【活用（B問題）】平均正答率

※（ ）は平成19年度

項目	新潟県	全国	市-県の比較	市-全国の比較
小6年国語	50.7 (64.0)	50.5 (62.0)	↑	↑
小6年算数	51.1 (63.6)	51.6 (63.6)	↑	↓
中3年国語	61.3 (73.0)	60.8 (72.0)	↑	↑
中3年数学	49.3 (60.6)	49.2 (60.6)	↑	↑
B問題の単純 合計平均	53.10 (65.30)	53.03 (64.55)	↑	↑

<全国学力調査>国語A・B問題におけるよさと課題

- ◆国語A（知識）：小学校では、「書くこと」に関する設問において、全国の正答率を下回るものが多く、また、「読むこと」では県の正答率を下回るものが見られました。「関心・意欲・態度」「話すこと・聞くこと」は、県や全国の正答率を上回りました。漢字の読みや書き、スピーチの組み立ての工夫をとらえることは多くの児童ができていましたが、文の構成や表現の効果を確かめ、正しく推敲することや目的や意図に応じて段落の内容をとらえることなどに課題があります。中学校では、「読むこと」「言語事項」に関する設問において、県や全国の正答率を上回るものが多く見られました。「書くこと」「書く能力」は、全国の正答率をやや下回りました。
- ◆国語B（活用）：「読むこと」「書く能力」に関する設問において、県や全国の正答率を下回るものが多く見られました。「関心・意欲・態度」「話すこと・聞くこと」は、県や全国の正答率を上回りました。相手や目的に応じた内容や質問する順序、話し手の意図を考えながら、聞くことは多くの児童ができていますが、目的に応じて必要な情報を取り出して効果的に書くことや二つの意見文を比べて文章の組み立ての違いをとらえることなど、PISA型読解力に課題が見られます。中学校では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」「言語事項」全ての領域で、県や全国の正答率を上回りました。文章の内容や登場人物の人間関係などを正確にとらえたり、表現の仕方や特徴、工夫をとらえたりすることは、多くの生徒ができていました。伝えたい事柄や自分の立場を明確にして書くことなどには課題が見られます。

＜全国学力調査＞算数・数学A・B問題におけるよさと課題

- ◆算数・数学A（知識）：小学校では、「数と計算」に関する設問において、県や全国の正答率を下回るものが多く見られました。「図形」については、県や全国の正答率を上回りました。整数、小数の四則計算、図形の定義や性質や円周率の意味などは、多くの児童ができていました。しかし、混合した計算、除法の活用の理解などには課題が見られます。
中学校では、「数と式」「図形」「数量関係」全ての領域で、県や全国の正答率を上回りました。方程式を解くなど、基礎的な計算問題は多くの生徒ができていました。しかし、文字式と事象と関連付けてよみとること、関係をグラフや式で表すことなどに課題が見られます。
- ◆算数・数学B（活用）：小学校では、「数学的な考え方」に関する設問において、県や全国の正答率を下回るものが見られました。「量と測定」「図形」は、県や全国の正答率を上回りました。グラフや表、式などを読み取ることは多くの児童ができています。しかし、発展的に考える場面において筋道を立てて考え、何かを判断し、その理由を言葉や式を使って表現することに課題が見られます。
中学校では、「数と式」「図形」「数量関係」全ての領域で、県や全国の正答率を上回りました。ただし、「数学的な表現・処理」については、県や全国の正答率を下回りました。複数の資料から課題解決に必要な情報を整理し、事象を数学的に解釈して説明することなどに課題が見られます。

上越市の児童生徒の学力向上の課題

上越市の児童生徒の学力実態は、全国平均とほぼ同じといえ、次の点が課題となります。

- 知識・技能の一層の活用を図ること。
- 知識を活用して課題を解決できる論理的な思考力や情報の取り出し・利用・熟考としての読解力・表現力などの一層の伸張を図ること。
- 国語では、特にPISA型読解力も含め、「読むこと」「読む能力」の指導を充実すること。
- 算数・数学では、特に小学校での知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力の指導を充実させること。

上越市の学力向上の課題は、基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と合わせて、児童生徒が学んだ知識・技能、考え方を活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力をはぐくむことです。上越カリキュラム基本計画部では、21年度の移行措置や学習指導要領の本格実施を見据え、校内研修の課題の一つとなる児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成のための授業づくりの視点を示します。

(2) 上越カリキュラム基本計画作成にあたって重視すること

上越市の児童生徒の学力実態の傾向から重視すること

上越カリキュラム基本計画部では、思考力・判断力・表現力の育成に当たり、活用場面での授業づくりの視点を示します。それは、児童生徒が学んだことを活用して課題を解決する過程で、課題とする思考力・判断力・表現力が発揮されるからです。また、活用場面での授業づくりと併せて基礎的・基本的な学習内容の確実な定着、さらに各教科での言語活動の充実を重視し、授業改善の具体的な方策を示します。

① 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をはぐくむ

学力向上に当たっては、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、学んだ知識・

技能，考え方を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をはぐくむことが必要です。

基本計画部では，授業を構想する際，児童生徒が課題解決の場面でどのような知識・技能，考え方を活用するのか，また，そこではどのような思考力・判断力・表現力が発揮されるのかについて明確にとらえることが大切と考えます。ここでは，児童生徒が課題を解決するためには，知識や技能に加え，それまでに培ったものの見方や考え方も活用する際に想起されるものととらえ，「知識・技能」に加え「考え方」も児童生徒の課題解決に必要な学力の要素としています。

思考力・判断力・表現力をはぐくむため，次のような授業づくりの視点を提案します。

ア 活用場面で児童生徒が活用する知識・技能，考え方を明確にし，習得場面での確実な定着を図る。

イ 児童生徒に発揮させたい思考力・判断力・表現力を明確にし，知識・技能，考え方を活用する場면을構想する。

児童生徒が学んだことを活用して課題を解決するには，教科の特性や学年の発達に応じた思考力・判断力・表現力の発揮が必要です。私たちは，活用する場面に焦点をあて，児童生徒がそこで，どのような思考力・判断力・表現力を発揮し，どのように知識・技能，考え方を活用するのか，自校の児童生徒の学習状況から具体的にとらえます。

教材や題材，学習過程に応じて児童生徒に習得させたい知識・技能，考え方，また，活用するために必要な思考力・判断力・表現力を明らかにすることで，児童生徒にどのような力を付けることができるか，指導の具体について見通すことができます。児童生徒が身に付けた知識・技能，考え方を積極的に活用することから，学習の有用性や楽しさを一層味わうことができることを期待します。

② 基礎・基本の確実な習得を図る

活用するために必要な思考力・判断力，表現力をはぐくむとき，まず，基礎的・基本的学習内容の定着状況をとらえることが必要です。学習内容の定着が，新たな問題場面での思考力・判断力・表現力の発揮に欠かせないからです。

上越市の児童生徒の学力実態は，全国平均と比較してほぼ同様といえます。しかし，基礎的・基本的な学習の定着状況が必ずしも満足すべき状況に至らない教科や単元が見られます。また，中学校では，学年が進むにつれて定着状況に低下が見られるという実態もあります。こうした状況を見る限り，まず自校の学力実態を的確にとらえた上で，基礎的・基本的な学習内容を定着させるために習得の場面での指導を徹底する必要があります。上越市のどの児童生徒にも活用するために必要な基礎的・基本的な学習内容の定着を保障するという立場から，繰り返しの学習や個に応じた指導を重視します。

③ 各教科での言語活動を充実する

上越市の児童生徒に身に付けてほしい学び方に，他者とかかわり相手に自分の考えを伝えたり，説明したりする学習活動があります。上越市の児童生徒は友達とかかわりながら学ぶ学習に消極的であることを，基本計画部会を進める中で，多くの委員が指摘しています。自分の意見や考えを表現することを苦手とする児童生徒の学習状況を改善する必要があります。相手にかかわり自分の考えを伝えたり，説明したりする活動を通して，コミュニケーション能力が高まり，思考力・判断力・表現力をはぐくむことが期待できます。

新学習指導要領では，各教科の中で「言語活動の充実」が示され，国語科だけではなく，各教科での「言葉の力の育成」を重視しています。学習指導要領の総則には，「言語活動の充実」は，「知識・技能，考え方を活用するための思考力・判断力，表現力の育成」と関連付けられて示されています。例えば，小学校の算数科では，友達に自分の課題解決の仕方を説明する場面があります。こ

ここでは、問題の解き方を相手に分かるように論理的に伝える活動を重視しています。算数での言語には、数、式、図、表、グラフも含まれます。児童に算数の言語を使って相手に伝える場を設定することから、学んだことを確かにし、自分の考えを筋道立てて説明する力をはぐくむことができます。

基本計画部では、児童生徒が他者と交流し、学び合う学習を身に付けさせるために各教科等の特性の応じた言語活動の場を重視します。小・中学校の実践例では、レポートにまとめたり、学んだことをもとに交流したりするといった言語活動例を提案します。

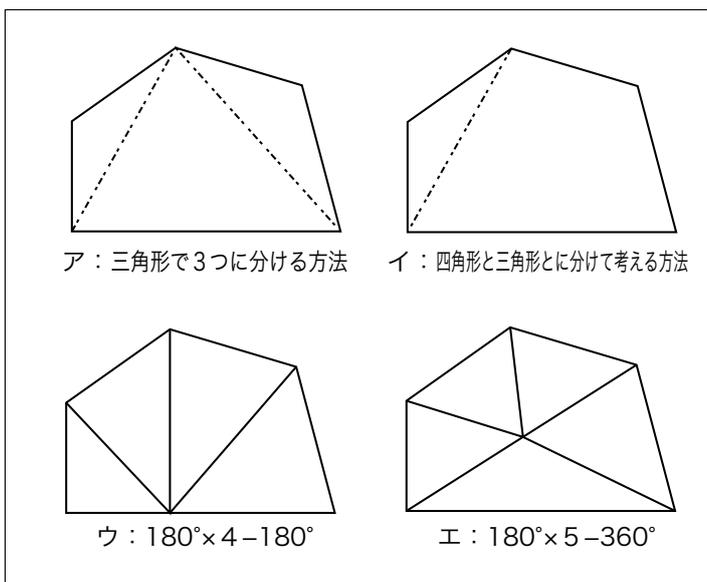
(3) 活用場面での授業づくりを考える

① 既習の知識・技能、考え方を活用する児童

活用場面では、児童生徒は何を考える切り所として学ぶのでしょうか。具体的な学習場面をもとに考えます。

5年生の算数の「図形領域」で、多角形の内角の和を考える学習が算数的活動として設定されています。三角形や四角形の内角の和の求め方やそれぞれの内角の和について学んだ児童は、五角形の内角の和を考える時、頂点から補助線を引き、三角形や四角形に分けて内角の和を求めようと考えます。図のようにア「 $180^\circ \times 3 = 540^\circ$ 」、イ「 $180^\circ + 360^\circ = 540^\circ$ 」と五角形の頂点から補助線を引き、3つの三角形に分ける方法や四角形と三角形とに分けて考える方法に着目します。こうして児童は、既習の三角形や四角形の内角の和やそれを求める方法を「活用」し、五角形の内角の和を求めます。

活用場面では、児童が「ア」や「イ」のように既習事項を活用することで、習得した学習内容を充実させることができます。新たな学習場面で既習事項を使うことから学んだことが一層確かになります。また、この学習場面では、「いつでも五角形は三角形で分割すると 360° になるのか」という問題場면을構成することから、下図ウ、エのように分割の仕方を他に考え、活用から探求型の学習に発展させることができます。



② 活用する場面で発揮される思考力・判断力・表現力

活用する場面で、思考力・判断力・表現力は、児童生徒にどのように発揮されるのでしょうか。新たな問題場面に出会ったとき、児童生徒は既習事項を想起し、学んだ知識・技能、考え方を適応させたり、発展させたりして問題を解決します。

五角形の内角の和を求める場面の児童には、既習の学習内容を問題場面に当てはめて適応できるかどうか考えたり、解法の中でどの方法がよいのか選んだりするといった思考力・判断力・表現力が発揮されると考えます。適応したり、選んだりすることを上記の問題場面と照らしてみると、さらに次のように具体的にとらえることができます。

- ・既習の三角形や四角形の内角の和を想起すること。
- ・五角形を三角形や四角形に分割することに着目すること。
- ・三角形や四角形に分ける方法の中から簡単な方法を選ぶこと。

児童は、課題の解決にあたって、こうした思考力・判断力・表現力を発揮させながら、既習の知

識・技能，考え方を活用して学びます。活用するためには，思考力・判断力・表現力という「活用するための力」が必要ととらえています。

思考力・判断力・表現力は，各教科の活用する場面で，教科の特性や課題に応じて様々にとらえることができます。

③ 各教科で発揮させたい思考力・判断力，表現力を具体的に構想する

活用する場面で発揮させたい必要な思考力・判断力・表現力は，各教科の各単元の中で具体的に構想することができます。

実践事例で示す中学校2年生国語科での授業の構想を例に示します。

単元では，職場体験で体験した感動を友達に伝えるために表現方法や文章の構成を考えながら「職場体験パンフレット」を書き，相手と交流する活動を行います。単元で生徒が学んだ知識・技能，考え方を活用する場をパンフレットを作成する場と作り上げたパンフレットをもとに交流する場の2つから設定します。

ここでは，パンフレットをもとに交流する場での構想を示します。

【中学校】国語科 【書くこと】中学校2年

提案する授業

- ・ 職場体験で体験した感動を友達に他者に伝えたい，分かってほしいという相手意識を明確にした表現方法や文章の構成を考えながら「職場体験パンフレット」にまとめ，友達と交流する。

【活用場面】

- 職場体験をまとめた文章を互いに読み合ったり，表現の工夫を発表し合ったりし，課題のとらえ方や材料の使い方，根拠の明確さなどについて意見を述べたり，自分の表現の参考にしたりする。

【発揮させたい思考力・判断力・表現力】

- ・ 書き手の思いや意図が適切に表現されているか評価すること。
- ・ 表記や語句の用法，叙述の仕方に着目して推敲すること。

【活用する知識・技能，考え方】

- ・ テーマや願いにふさわしい表現方法や文章の構成の仕方

単元で提案する「交流に関する事柄」は学習指導要領に新たに明記された事項です。生徒は，職場体験での感動をパンフレットにまとめ，それをもとに交流することから，文章の構成や材料の活用の仕方を学ぶこととなります。ここでは，交流の場でどのような思考力・判断力・表現力を発揮させたいのか，学級の実態から読み手の生徒には「表現方法への着目」，提案する側の生徒には指摘を受けて推敲を行う際の着眼から構想します。このように「交流する」という活用場面で生徒が思考を巡らす際の着眼点を明らかにすることで，具体的な支援の方法を構想することができます。

活用の授業づくりは決して新しい学習活動を構想することではありません。従来の学習活動に対して，児童生徒が何を手がかりに，どのように学ぶのかという視点から児童生徒の学習状況を見直し，個々の児童生徒への支援を構想することが大切になります。

(4) 移行期の校内研修の充実のために

平成21年度から始まる移行期に備え，各校では指導計画の整備が進んでいることと思います。今後，指導計画の整備と併せて，新学習指導要領改訂で示された「基礎的・基本的な知識・技能の習得」とそれを活用する「思考力・判断力・表現力の育成」「言語活動の重視」などについて，校内研修を進めることも必要です。新学習指導要領の改訂の基本的な考え方を実施することは，日々の授業の改善につながります。基本計画部が実践例として示した「活用する場面の授業構想」や「言語活

動の充実の事例」等は、実践を進める際の着眼のヒントともなります。基本計画部の取組を振り返り、学習指導要領改訂の基本的な考え方を具現していく際におさえておきたい事柄について以下に整理します。

① 活用のとらえを明確にし、児童生徒が活用をする姿をイメージする

基本計画部の実践例では、活用することを「新たな学習場面で既習の学習内容を適応させ、課題を解決すること」とし、「学んだ知識・技能、考え方」を活用できるようにするためには、児童生徒に「活用する力」にあたる思考力・判断力・表現力をはぐくむことが必要ととらえます。活用する力や活用する際に発揮される思考力・判断力・表現力を研修課題として取り組む際、活用に関する課題を明らかにし、校内で共通に理解することが必要となります。

例えば、課題を解決していくとき児童生徒は「何を活用するか」ということです。実践例からは、教科の特性や内容によって、算数科や理科など、一定の知識・技能、考え方と「活用する場面」が対応している教科もあれば、国語科のように単元を超えたり、他教科で学んだことをもとに児童生徒が個々に活用する場面もあることが分かりました。活用する知識・技能、考え方が単元を超えたり、他教科との関連から培われる場合は、年間指導計画の中に指導する内容を明確に位置づけ、螺旋的に指導を繰り返していくことも必要となります。

また、児童生徒が課題を解決できるようにするためには、活用する知識・技能、考え方が習得されていなければなりません。ここに習得にかかわる課題があります。どこでどのように児童生徒に確実に学習内容を指導するかについて、明確にすることも大切となります。

今後、研修を進める中から「活用するとはどのようなことか」「児童生徒はどこに着目し、何を考える拠り所として活用するのか」等について具体的な学習場面をもとに検討することも、学習指導要領の基本的な考え方を確実に実践することにつながります。

② 「活用」にかかわる授業改善の視点を明確にする

基本計画部では、「言語活動の重視」に着目して事例をまとめています。国語科だけでなく、他の教科でも言語活動をもとに授業改善の視点を明らかにすることができました。例えば、観察実験のレポートにおいて視点を明確にしてレポートを書く（理科）比較や分類などの思考を促し、他者に分かりやすく説明する（算数科）など、各教科の特性に応じた言語活動を示しました。言語活動を校内で研修課題とする場合、教科の中のどの場面でのどのような言語活動を設定するのか指導計画に明確に位置づけることも必要となります。そこでは、分かったことをまとめたり、自分の意見を整理したりする学習を意図的に繰り返すようにします。また、一つの教科だけでなく、複数の教科の中で言語活動の場を設定することから、共に補完し合いながら言葉の力を総合的に育てていく取組も可能となります。

基本計画部が提案する授業は、新しい学習活動ということではありません。各校での実践の蓄積をもとに児童生徒に思考力・判断力・表現力を培うという視点から検討し、一層充実させていくことも移行期での研修課題となります。

<参考文献>

初等教育資料2008	4月号	「生きる力」の理念を実現する教育の推進	金森越哉
初等教育資料2008	11月号	言語活動を重視した学習指導を充実させるために	寺井正憲
遙プラス(2008)	5月号		
教育研究2008	12月号	「活用」をどうとらえ、どのように具現するか	工藤文三
研究紀要第43集	昭和63年	「自ら学ぶ子どもを育てる学習指導」	新潟大学教育学部附属新潟小学校

(5) 国語科における重点事項及び事例

上越市の児童生徒に発揮させたい思考力・判断力・表現力

国語科は言語力育成の中心として、各教科の学習の基礎となる国語の能力の育成を担います。

市内各校の校内研修をみると、「伝え合う学習活動」をテーマに児童生徒が他者とかかわりながら学ぶ活動を進めている学校が数多くあります。基本計画部でも、上越市の児童生徒の実態から、他者とのコミュニケーション能力をはぐくむ学習活動を重視します。

実践例の作成に当たっては、児童生徒の自発的な言語表現を促し、思考力・判断力・表現力が発揮される活用する場面を構想しています。

小学校・中学校では身につけさせたい思考力・判断力・表現力を次のようにとらえます。

【小学校】

友達と学び合う学習を視野に入れ、学習を進める過程で児童に働く思考力・判断力・表現力を以下の3つから示しました。

- | | |
|---------------------------|-----|
| ・「叙述に着目し、人物の気持ちを想像すること」 | 4年生 |
| ・「相手に分かりやすい発表の仕方を工夫すること」 | 5年生 |
| ・「自分と友達の考えを関係づけながら話し合うこと」 | 6年生 |

教材文の中には、登場人物の心の動きが大きく変化する言葉があり、それを見つけることで文章を読む楽しさを一層味わうことができます。実践例4年生では、「副詞やその効果」に着目させることから、主人公の心情を読み取るようにします。ここでは、主人公の心情をとらえようとする思考力・判断力・表現力に着目しました。5年生・6年生では伝え合う学習活動を中心に、事例を示します。

5年生では、話し手にはぐくみたい思考力・判断力・表現力として「発表の仕方を工夫すること」を重視します。ブックトークを学習の中心におき、ポスターを作る場、作ったポスターをもとに発表する場の2つから単元の活用場面を構成しています。6年生の実践では、伝え合う学習活動の中で、聞き手の児童にはぐくみたい思考力・判断力・表現力を重視します。相手の話をしっかりと聞き、他者の考えと自分の考えを比べ、自分の考えがさらに深まるよう活用場面を構成します。

【中学校】

生徒同士のコミュニケーション能力を一層高めるため、学び合いの学習活動を軸に次のような思考力・判断力・表現力の育成を目指します。

- | | |
|---------------------------------|-------|
| ・「伝えたい事実や思いを構成と表現方法を工夫しながら書くこと」 | 中学校1年 |
| ・「課題の解決に向けて話し合うこと」 | 中学校3年 |

中学校1年生では、生徒同士のコミュニケーションを確かにするために、キャリアアウティークでの職場体験をもとに生徒が感じた事柄を題材として設定します。自分の感動や感謝の思いを相手に適切に伝えるには、どのような内容を織り込み、どのような形式をとればよいのか生徒自身に学んだことを活用する場面が生まれます。ここで生徒に働く思考力・判断力・表現力を重視します。

中学校3年生では、生徒自身が話し合う価値のあるテーマ、必然性のある話し合いの場を設定し、生徒が目的意識を持って話し合いに参加できるようにします。ここでは、社会生活の中から感じる疑問をもとにパネルディスカッションを設定します。活用場面を選んだテーマに対して調べ意見の根拠を明確にする場、パネルディスカッションを行ってテーマに対する自分の考えをさらに深める場からとらえ、思考力・判断力・表現力の発揮を促します。

4年生「ごんの気持ちを考えよう」 題材「ごんぎつね」 <2月>

◆単元の目標

- ◎文章を読んで考えたことを、進んで話したりノートにまとめたりしようとする。(関心・意欲・態度)
- ◎場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。(読む)

◆提案する授業

文学教材は一読するとおもしろさを味わえるが、表面的なストーリーを追いかけて満足して終わってしまう傾向があります。しかし、教材文の中には、登場人物の心の動きが大きく変化するところがあり、その部分を見つけることでより一層のおもしろさを発見できます。単元では、「～うら口から、『こっそり』入りました。」のような『こっそり』という副詞やその効果に気付くことで、表面的な読みから一歩進んだ、叙述に即した読みを味わうことができようしていきます。副詞やその効果を学び、さらに作品を読み進める中で学んだことを活用し、登場人物の気持ちをとらえることができるようになることを期待します。

活用場面2時間(全11時間)

●単元での活用場面	●指導を進めるに当たって
<p>【活用場面①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●5の場面を読み、「つまらない」「引き合わない」と思っているごんの気持ちをとらえる。 ・自分の気持ちがうまく伝わらない時には、がっかりすることをおさえる。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが大きく動いた文章表現に着目すること。 ・ごんに対する自分の考えと友達の考えを比べること。 <p>【活用場面②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●6の場面を読み、「その明るく日も」「こっそり」に着目して、くりを持っていったごんの心情を考える。 ・がっかりしているごんが、なぜ、「その明るく日も」くりを持っていったのか考える。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こっそり」がある文章とない文章の違いから使われる副詞の役割に着目すること。 ・気持ちがうまく伝わらないごんの心情を想像すること。 	<p>【場面の移り変わりや気持ちの変化をとらえるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Aの場面」から「Bの場面」へ移り変わるところで、そのおもしろさを授業の中で実感させるには、最初の「Aの場面」での登場人物の心情について学級全体で共有しておく。 ・「つまらない」「引き合わない」と思うごんの気持ちを考える場面では普段の生活経験を振り返らせ共感できるようにする。 <p>【基礎的技能を大切にする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材文にサイドラインを引きながら考えることで、自分の考えを一人一人が確実にもてるのが大切である。また、文に使われている言葉の意味を国語辞典で確認することにより、言葉にこだわった学習方法を意識させていくことを大切にしたい。 <p>【矛盾を感じる点を自分の言葉で表現し、深く思考させるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の細かい点に気を付けながら読むと、おもしろい発見ができる場面である。「その明るく日も」の『も』にこだわると、前段[5]からのつながりで、おかしい・不自然な感覚が芽生える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><課題></p> <p>○がっかりしているはずのごんは、なぜ、その明るく日も、くりを持っていったのでしょうか。</p> <p>ここで多様な意見を認めながら、板書で整理し、矛盾点を共有する。</p> </div> <p>【心情を豊かにとらえる副詞の機能を理解させる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表面的に読んだ直感的な考えだと「自分がくりやまつたけを運んでいたと気付いてほしい」となる。これが、「こっそり」に目を向けると、「自分だと気付いてほしいわけではない」と考えが変わる。ここで、副詞に着目するよさを実感できるようにする。 ・他の副詞を入れた短文でのとりたて指導も効果を高める。

■活用場面のとらえ

発揮させたい思考力・判断力・表現力	活用する知識・技能、考え方
【活用場面①】 ●気持ちが大きく動いたところに、サイドラインを引き、それをもとに話し合う。 ・気持ちが動いた文章表現に着目すること。 ・ごんに対する自分の考えと友達の考えを比べること。	・登場人物の心情を、叙述から想像すること。 ・登場人物の心情の変化が分かる箇所への着目。 ・自分と友達の考え方の共通点や差異点を見つけること。
【活用場面②】 ●6の場面を読み、「その明るく日も」「こっそり」に着目して、くりを持っていったごんの心情を考える。 ・「こっそり」がある文章とない文章の違いから使われる副詞の役割に着目すること。 ・気持ちがうまく伝わらないごんの心情を想像すること。	・考えたことや自分の意図が分かるように話の組み立てを工夫しながら話すこと。 ・読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くこと。

学級の児童の実態「叙述に着目して、人物の気持ちを想像すること」

「ごんは、自分の姿を見せていないから『神様のしわざ』だと言われた。だから、わざと見せつけるように、『その明るく日も』持っていった。」と当初児童はとらえています。それは「自分がくりやまつたけを運んでいたと気付いてほしい」というごんの立場に立った読み取りから生まれます。こうした児童に対し、単元では「こっそり」など副詞に着目させることで、叙述に即した丁寧な読みを進め、後の段落においても学んだことを活用できるようにします。

■思考力・判断力・表現力を発揮させるポイント

1 副詞を用いた単純な文型を使って、副詞の違いによる多様な言動の違いを、とりたて指導で学ぶ
 「どろぼうが、こっそり中へ入りました」「どろぼうが、ゆっくり中へ入りました。」「どろぼうが、にんまり中へ入りました」のように、副詞による言動の違いのおもしろさをこの機会にしっかりと教えたいところです。人物の心情を豊かに想像したり、叙述に即して想像したりするための方法の一つとして、この副詞に着目することを理解させます。こうした指導から異なる作品で叙述に着目することを活用することが期待できます。

2 細かい点に注意して読んだ時の発見の感動を、指導者自らのこととして語る

この学習場面では、特に指導者のパフォーマンスが授業を盛り上げます。「ごんは、わざと見せつけるように、『その明るく日も』くりを持っていった」という児童の考えを肯定しながらも、「先生も最初はそう思ったんだけど、よく読んでみたら、この考えは間違いだと気付きました。」と強く語り掛けます。そして「なぜなら、間違いだという証拠の言葉が教科書にあるからです。」と話します。すると、児童は一斉に教科書の文章を読み返します。そして、「分かった」とか「見つけた」とか、声を出し始めます。

■単元の指導計画（全11時間）

1次 学習計画を立て、音読練習を反復しながら、学習課題を明らかにしていく（4時間）

- ・全文通読し、初発の感想をもつ。
- ・場面ごとの読みの見通しと、作品全体の読みの見通しをもつ。

2次 場面ごとに見つけた学習課題を解決していく（7時間）

- ・「不思議に思ったところ」「意味の分からないところ」などを中心に、話し合いで課題解決する。
- ・まとめとして、「ごんへの手紙」を書く。

【参考資料】 語句に着目した読み方指導 明治図書 甲斐 陸朗 1991

5年生「ブックトークをしよう」 題材「わらぐつの中の神様・杉みき子作品群」 <10月>

◆単元の目標

- ◎杉みき子の描く作品世界やブックトークのやり方に興味を持ち、自分の決めたキーワードに沿って、同一作者の作品を読み進めようとする。 (関心・意欲・態度)
- ◎作品を読んで感じたことを分かりやすく発表したり、自分の思いと比べながら聞いたりすることができる。 (話すこと・聞くこと)
- ◎ブックトークに使うポスターを、聞き手に分かりやすく作ることができる。 (書くこと)

◆提案する授業

単元では、「わらぐつの中の神様」での学習から、児童一人一人が同一作家の作品を読み進めていくためのキーワードを決め、「朝市」「雪」「山」「町並み」「主人公の気持ち」などのキーワードに沿った読書活動を進めていきます。読後の発表では、ブックトークという発表の仕方を学び、それぞれの読書で得た感想を伝え合います。単元での活用場面は、発表用ポスターを作る場、ブックトークを行って意見を交換する場の二つです。発表用ポスターを作る場では、発表する内容について、自分の感想をまとめ、目的意識・相手意識を明確にした活動が期待できます。また、ブックトークを行って意見を交換する場では、相手に分かりやすく伝えようと話したり、相手の話をしっかり聞き取ろうとしたりする思考力・判断力・表現力を発揮することができます。

活用場面6～10時間(全10時間)

●単元での活用場面	●指導を進めるに当たって
<p>【活用場面①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●発表用ポスターを作る。 ・あらすじや気に入った表現、キーワードを入れながらポスターをまとめる。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に分かりやすく伝えるためのポスターの構成の仕方に着目すること。 <p>【活用場面②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ブックトークを行って意見を交換する ・発表する側と聞く側に分かれてブックトークを行う。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターを効果的に使って伝えること。(話し手) ・相手の発表を聞き、自分の内容と比べて相手のよさを見つけること。(聞き手) 	<p>【効果的なポスターを作るために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックトークの行い方を紹介し、ブックトークが効果的に行われるためのポスターであることを確認する。 ・ポスターの構成の中に入れたい要素として、あらすじ・気に入った表現・キーワードなどがあることを確認する。 ・読書の際に書き溜めたメモを見ながら、ポスターの構成を考える時間を設定する。 <p>【効果的なブックトークにするために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表する側と聞く側の両方を体験できるようにする。 ・ブックトークの方法を確認する。 <p>※発表を聞く→質疑応答をする→感想を述べる→簡単なメモをとる→別の友達の発表を聞きに行く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞く側も質問や感想などを述べて対話形式で進めていく。 ・聞く側の人数が多すぎると効率のよい対話ができないので学級の実態に応じて人数を調節する。 ・自分の決めたキーワードと同じキーワードを選んだ児童の発表を聞き、互いの感じ方の違いなどをメモに残すように助言する。 ・聞き合った後、友だちのブックトークの仕方で参考になる点を感想として述べ合う。

■活用場面のとらえ

発揮させたい思考力・判断力・表現力	活用する知識・技能、考え方
【活用場面①】 ●発表用ポスターを作る。 ・相手に分かりやすく伝えるためのポスターの構成の仕方に着目すること。	・書きためた読書メモからポスターに載せる内容を選ぶこと（キーワードに沿っているか）。 ・ポスターの構成要素。 ・図や絵などを用いて相手に分かりやすくまとめる方法。
【活用場面②】 ●ブックトークを行って意見を交換する ・ポスターを有効に使って、効果的に伝えること。 （話し手） ・相手の発表を聞き、自分の内容と比べて相手のよさを見つけること。 （聞き手）	○総合的な学習の時間での発信方法 ・ポスターセッションの方法 ○相手に分かりやすい発表の仕方への着目 ・ポスターの効果的な使い方 ・聞いていて分かりやすい話し方

学級の児童の実態「相手に分かりやすい発表の仕方を工夫すること」

児童は、総合的な学習の時間でのポスターセッションなどを通して、調べたことを資料を使って伝える経験をしています。そこでは、相手に分かりやすいように自分が調べたことや感想を付けながら、ポスターをまとめ、相手に伝えてきています。単元ではこうした経験を生かし、さらにコミュニケーション能力を高めることを期待しています。単元では、自分のキーワードに沿って読書を進め、感じたことや心に残った表現などをまとめポスターを作ります。相手に自分の意図したことをうまく伝えようという願いを高めながら、製作や発表を進めていきます。発表の仕方や伝えたい内容について、学級で話し合うことから確かにすることができます。

■思考力・判断力・表現力を発揮させるポイント

1 読書メモを有効に活用する

ブックトークに使うポスターを作る際に、書きためてきた読書メモをもう一度読み返す必要があります。キーワードに沿ったブックトークにするためにはメモのどの部分を使うべきか、読み返しながらかえ、メモの中から選択することが相手意識、目的意識を持った発表につながっていきます。

2 相手を変えてブックトークを繰り返すことの効果

全体の前で1回だけ発表するよりも、対話形式で相手を替えて繰り返しブックトークを行うことで、相手の反応を見ながら表現の仕方を工夫していくことができます。ブックトークに対する評価をすぐにもらせることも少人数で行う活動の利点です。原稿を繰り返し読むのではなく、言葉や表現を多少変えても分かりやすく話すことが大切であるという支援が必要です。繰り返しの学習から、どうすれば相手に分かりやすくなるかを意識することができます。

■単元の指導計画（全10時間）

1次 「わらぐつの中の神様」を読む。（5時間）

- ・登場人物やあらすじを確認しながら全文を読む。
- ・おばあちゃんの思い出話の前後でマサエの心情の変化を読み取る。

2次 杉みき子さんの作品を読む。（2時間）

- ・読み進めていくためのキーワードを決めて杉みき子の作品を数点選んで読む。
- ・キーワードに沿って読む中で、友だちに知らせたい内容や言葉などをメモしておく。

3次 杉みき子さんの世界をさぐる。（3時間）

- ・発表する側と聞く側に分かれてブックトークを行う。
- ・活動全体を振り返り、作者の上越に対する思いについて意見交換する。

【参考資料】小学校学習指導要領解説 国語編 平成20年9月

6年生「共に考えるために伝えよう」 <10月>

◆単元の目標

- ◎ユニバーサルデザインに興味をもち、調べ学習や話し合いで収集した情報を関連付けて、多様な立場から生活を見直そうとする。 (関心・意欲・態度)
- ◎考えを整理しながら話し合うことを通して、互いの考えを練り上げることができる。 (話すこと・聞くこと)
- ◎多くの読み手に提案の内容が伝わるように、効果的な構成を考えて文章を書くことができる。 (書くこと)

◆提案する授業

互いの考えが深まるような話し合いが成立するためには、子どもが、テーマや相手の考えに寄り添いながら自分の考えを伝え合うことが大切です。話し合いとなると話し手に注意が向けられがちですが、実は聞き手となる一人一人がいかにして受け取った情報を処理し自分の考えを深めていけるかがポイントです。活用場面では、友達の考えと自分の考えとを比較したり関連付けたりしながら自分の考えを深められるような聞き手をはぐくむ活動を提案します。また、単元の終末で自分の考えを読み手に伝わるように工夫して文章にまとめ、発信する活動も示します。ここでは、友達との読み合いを通して書き直す中で、子どもは自分の考えを見つめ直しさらに深めていきます。 活用場面8～15時間 (全15時間)

●単元での活用場面	●指導を進めるに当たって
<p>【活用場面①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●課題について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・事前に提案内容を確認し、自分の考えをもつ。 ・提案チームから、学校生活での改善点を提案する。 ・体験学習や調べ学習を通して分かったことや、それに基づく自分の考えを話し合う。 ・自分の考えと友達の考えを比較したり関連付けたりしながら、ワークシートにメモする。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを通して、他者の考えと自分の考えを比較したり関連付けたりすること。 	<p><課題></p> <p>○ユニバーサルデザインを生活に生かす際に、大切にしたいことを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いが活性化するように、提案グループの内容や発表順番を決めておく。 ・一人一人が自分の考えをもち参加し、互いの考えを深められるような話し合い方やワークシートを取り入れる。 ・前時までの子どもの考えを把握しておき、深まりのある話し合いになるように子どもの発言を整理しながら司会をする。ものに対する改善案だけではなく、その基盤となっている、ユニバーサルデザインを生活に生かす際に大切にしたい考えを引き出すようにする。
<p>【活用場面②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ユニバーサルデザインを生かす提案文を書く <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの内容やワークシートのメモを振り返り、自分の考えを整理する。 ・自分の考えを伝えたい相手や目的を考える。 ・自分の考えが相手に伝わるように、段落構成や表現を工夫して文章にまとめる。 ・友達と読み合って、意見を交換する。 ・よりよい文章になるよう加筆修正し、発信する。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案内容を相手に分かりやすく伝えるための表現方法を選ぶこと。(事柄や理由を具体的に説明的したり文章の組み立てについて) ・友達の提案文のよさや指摘をもとに自分の文章を見直すこと。 	<p><課題></p> <p>○話し合いを通して深まった考えを整理して、提案文を書き、発信しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いで出たキーワードを整理する時間を設ける。 ・改善したい場所、その根拠となる「大切にしたいこと」、提案したい相手を確認する。 ・書くことが苦手な子どもには、「提案内容」「現状の課題」「改善案と改善にあたって大切にしたいこと」「まとめ」という基本の構成を提示する。 ・友達同士で文章を繰り返し校正したり、読んで感想を伝え合ったりする時間を設ける。

■活用場面のとらえ

発揮させたい思考力・判断力・表現力	活用する知識・技能、考え方
【活用場面①】 課題について話し合う。 ・話し合いを通して、他者の考えと自分の考えを比較したり関連付けたりすること。	・テーマに沿って自分の考えを分かりやすく伝える話し方。 ・友達と自分の考えの共通点や差異点に着目すること。
【活用場面②】 ユニバーサルデザインを生かす提案文を書く ・提案内容を相手に分かりやすく伝えるための表現方法を選ぶこと。 ・友達の提案文のよさや指摘をもとに自分の文章を見直すこと。	・伝えたい相手や目的を意識した文章の構成。 ・事柄や理由を具体的に説明的したり文章の組み立てを工夫すること。 ・友達の文章から相手のよさを見つけること。 ・文章を自分で見つけた観点から見直すこと。

学級の児童の実態「自分と友達の考えを関連けながら話し合うこと」

6年生であっても、話し合いに参加できなかつたり、テーマから逸脱した内容のおしゃべりに落ち入ったり姿が見られ、広がりや深まりある話し合いを行うことが難しい場面が見られます。互いの言葉を理解することに留まらず、互いの思いや考えを磨きあって、子どもが自分の考えをつくることのできるような共創的なかわりであってほしいと願います。そのためには、伝え合う場を繰り返しながら、子どもが他者の考えを聞き、自分の考えと比較したり関連付けたりして、自分の考えを確かにしたり、変わったりしたという経験を積むことが大切です。

■思考力・判断力・表現力を発揮させるポイント

1 子どもが自分の考えを深めることができるように、話し合いを活性化させる工夫

複数の提案者を設け、提案者も会場も、全体で質疑応答を繰り返したり意見を出し合ったりするシンポジウムの形式を取り入れ、子ども一人一人が自分の考えを用意して話し合いに臨むようにします。複数の提案を設けることで、話し合いの活性化を図ります。また、子どもが自分の考えと比較したり関連付けたりしやすくなります。「提案内容の発表→自分の考えを書く→提案を基に話し合う→自分の考えをまとめる」という一連の活動を繰り返します。ここでは、全員が提案者を体験し、話し合いの型に慣れることに加えて、提案対象となる事柄について様々な角度から何度も話し合うことができ、自分の考えを深めていくことができると考えます。

2 気付きを整理し、思考を促すワークシートの工夫

話し合いのメモ用のシートにマトリックス図を用います。「自分の考えと類似している」「根拠があり共感できる」という二つの視点で、友達の考えと自分の考えを比較したり関連付けたりしながら話し合いを聞くことができるようにします。メモには、友達の発言だけでなく、発言に対する自分の気付きや疑問、自分の考えの変容なども書き添えていきます。話し合いの後にそのメモを振り返り、子どもは自分の考えに新たな情報を付け加えたり、自分の考えを修正したりします。

3 考えを深めることができる提案文づくりの工夫

話し合いの中で出た「改善にあたって大切にしたいこと」のキーワードを学級で分類し、話し合いの内容を振り返ったり整理したりできるようにします。ワークシートを読み返し、改善したい場所、その根拠となる「大切にしたいこと」、提案したい相手を確認します。書くことが苦手な子どもには、「提案内容」「現状の課題」「改善案と改善にあたって大切にしたいこと」「まとめ」という基本の構成を提示します。提案文を友達と読み合う場では、文章を読む視点を全体でおさえることで内容や表現、文章構成に着目することができます。

■単元の指導計画（全15時間）

1次 課題をつかんだり、学習の見通しをもったりする（1時間）

2次 「ユニバーサルデザイン」の視点から、身の回りの施設や物について調べる（6時間）

3次 学校の改善案について、気付きや考えを話し合い、自分の考えを深める（5時間）

4次 話し合いを通して深まった考えを整理して、提案文を書く（3時間）

2年生「職場体験パンフレットを編集する」 題材「作家紹介パンフレットを作成しよう」 <7月>

◆単元の目標

- ◎目的や読み手を意識し、自分の体験を積極的に伝えようとする。 (関心・意欲・態度)
- ◎伝えたいことが明確に伝わるように、表現方法や構成を工夫したり、適切な語句を選んだりすることができる。 (書くこと)

◆提案する授業

上越市内の中学2年生は、「夢チャレンジ」の活動を通して、5日間の職場体験学習を行います。職場体験学習は、事前、事後の学習と組み合わせさせてこそ、その成果が上がります。特に、職場は違っても共通の体験を通じた「感動」の分かち合いは、他の人に自分の「感動」を分かち合いたい、伝えたいという、表現すること（この場では「書くこと」）の明確な「目的意識」につながります。この意識を大切に、表現方法や文章の構成を考えながら「書くこと」に取り組み、その作品を互いに評価し、意味づけし合うことは、生徒にとっての学びが定着したり、自分自身の成長を自覚したりできる絶好の機会と考えます。

活用場面3～5時間（全5時間）

●単元での活用場面	●指導を進めるに当たって
<p>【活用場面1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●伝えたいこと決め、材料を集めながら自分の考えをまとめる。 ・体験を通して感動したこと、興味をもったこと、影響を受けたことなどを考える。 ・職場体験前の気持ちと職場体験後の気持ちを比較し、気持ちが変容したきっかけになった出来事や人などを具体的に想起する。 ・自分の考えが伝わる紙面を、書く内容の順序や分量、記事の配置等に配慮して具体的に考える。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物事を整理し、考えや意見をまとめること。 ・自分の意見や心情、相手に伝えたい事実や事柄を明確にし、説明や具体例の使い方を工夫した分かりやすい文章を書くこと。 <p>【活用場面2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文章を互いに読み合ったり、表現の工夫を発表し合ったりし、課題のとらえ方や材料の使い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりする。 ・伝えたいことが分かりやすく表現されているか、構成が工夫されているか、根拠が明確な記述になっているか、という観点から交流する。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表記や語句の用法、叙述の仕方に着目して推敲すること。 ・書き手の意図が表現の工夫に結び付いているか、評価すること。 	<p>【文章を書くための取材を適切にするために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何のために、だれに向けて書くのかを確認する。(目的意識、相手意識の明確化) ・職場体験前と職場体験後の気持ちを比べることにより、「どのような気持ちが」「何をきっかけに」「どのように」変容したかを具体的に記述させる。 <p>【伝えたいことをより効果的に表現するために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見やすい、分かりやすい紙面になるように、内容の順序や分量、記事の配置や表、イラスト、写真等の割付などを考えさせる。 ・具体的な仕事内容だけでなく、職場の人から聞いた働きがいや使命感などにも着目させ、実際にその場で体験したこと、実感したことのよさを表現させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【自分らしい礼状を作成するために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全市で共通に使用する型を利用しながらも、1年生時の手紙の書き方の学習を想起させながら、自分の感謝の思いをお世話になった人に的確に伝えるために、具体的な仕事の内容や会話を用いるように工夫させる。 <p>【総合的な学習との関連を配慮するために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前学習や打ち合わせ、5日間の職場体験の日記等をまとめた「総合学習ファイル」をパンフレット作成に生かすように説明する。 </div> <p>【生徒同士の学び合いを促すために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構想メモなどを基に、一番伝えたい内容や表現、構成の工夫点などの書き手の思いや意図を互いに理解した上で、文章を読み合うようにする。 ・誤字や脱字、言い回しの誤用を除き、互いの工夫点やよい点を認め合うような建設的な交流となるようにする。

■活用場面のとらえ

発揮させたい思考力・判断力・表現力	活用する知識・技能、考え方
【活用場面①】 ●職場体験で得た様々な感動の中から伝えたいこと決め、材料を集めながら自分の考えをまとめる。 ・物事を整理し、考えや意見をまとめること。 ・自分の意見や心情、相手に伝えたい事実や事柄を明確にし、説明や具体例の使い方を工夫した分かりやすい文章を書くこと。	・材料の中から、自分の考えを伝えるためにふさわしい話題や事柄を選ぶこと。 ・事実や事柄を比較し、自分の変容を認識するとともに、その変容のきっかけになった事柄を理解すること。
【活用場面②】 ●文章を互いに読み合ったり、表現の工夫を発表し合ったりし、課題のとらえ方や材料の使い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりする。 ・表記や語句の用法、叙述の仕方に着目して推敲すること。 ・書き手の意図が表現の工夫に結び付いているか、評価すること。	・テーマや伝えたい意図にふさわしい表現方法や文章の構成の仕方。

学級の生徒の実態「伝えたい事実や思いを構成と表現方法を工夫しながら書くこと」

中学2年生にとって、5日間にわたり学校を離れて大人の世界に入って仕事を行うことは、初めての体験であるといっても過言ではありません。多くの生徒が、戸惑いや心配を乗り越えて、充実感や感動を味わうのは、やはり、5日間という時間をかけて自分の中で何かが変わることを自覚するためでしょう。そこには、人とかかわりが見出せるはずです。この思いを生徒同士が言葉によって交流し、確認し合うことによって、言葉のもつ大切な力を自覚できることにつながります。感動や思いの共有は、言葉によってより確実になり、意味を深めるのです。今回のパンフレットづくりの中の交流活動や書く活動が、物事に対する多様な考え方などを整理し、自分の考えを広げたり深めたりすることにつながっていくことを理解させることが大切になります。

■思考力・判断力・表現力を発揮させるポイント

1 自分の思いを比較する場面を設定する

職場体験の前と後の気持ちを比較する場面を設定します。生徒は職場体験を通して、何らかの気持ちの変容があるはずですが、自分の気持ちが変わったり、広がったり、深まったりした「きっかけ」をしっかりと意識させるようにします。変化、変容には、何らかのきっかけや根拠があることを生徒が自覚することは、表現の能力の向上につながると考えるからです。自分の伝えたいことを表現する際に、考えや意見の根拠となる事実や事柄を具体的に記述することが、説得力を増すことにつながります。

2 書いた文章を互いに読み合い、意見を交流したり、自分の表現・構成の参考にしたりする場面を設定する

新しい学習指導要領の中で、「交流に関する事項が」新たに設けられました。今までも、国語教室で行われてきた活動ではありますが、学習指導要領に改めて明示されました。2年生では、「文章の構成や材料の活用の仕方など」に重点を置いて、書いた文章を互いに読み合うことが求められていますが、ここでは、書いた後の交流だけではなく、取材、構成、記述、推敲のそれぞれの活動の中に、効果的に取り入れることにより、生徒同士の学び合いをより促進させます。これは、生徒の気付きを生み、理解や表現、言語事項における深まりや広がりにつながるからです。また、書かれたものを読み合うだけではなく、構成や表現の工夫点、その工夫を考えついた意図なども互いに交流することにより、表現のもつ多様性等を改めて認識し、表現することに対する意欲につながっていくと考えます。

■単元の指導計画（全5時間）

1次 職場体験パンフレットの作成目的や方法を学び、計画を立てる（1時間）……職場体験前の学習

2次 取材した情報の整理、紙面構成、下書き、交流、推敲、清書（4時間）……職場体験後の学習

【参考資料】中学校学習指導要領解説 国語編 平成20年9月

中等教育資料2008⑩No.869「各教科等の改善／充実の視点 国語」

3年生「課題の解決に向けて話し合おう」 題材「話し合って考えを深めよう」 <10月>

◆単元の目標

- ◎パネル・ディスカッションの目的を理解し、進んでパネル・ディスカッションに参加しようとする。
(関心・意欲・態度)
- ◎話し合いが効果的に展開するように、相手の立場や考えを尊重しながら、根拠に基づいて説得的に話したり、的確に聞いたりすることができる。
(話すこと・聞くこと)

◆提案する授業

単元では、「話し合って考えを深めよう」を教材に、パネル・ディスカッションの形式や異なる立場から意見を出し合う意義を学び、社会生活の中で感じる違和感や疑問をもとにテーマを決めてパネル・ディスカッションを行います。単元での活用場面は、①調査方法を自ら選んで意見の根拠を明確にする場面、②パネル・ディスカッションを行ってテーマに対する自分の考えを深める場面の二つです。活用場面①では、効果的な調査方法や的確な根拠を選択する、調査した事実やデータに基づいて意見の妥当性を検討する、意見や根拠を適切に表現するといった思考力・判断力・表現力の発揮が期待できます。また、活用場面②では、パネリスト、司会者、フロア、それぞれの立場で、話し合いが効果的に展開するように説得力のある話をしたり、相手の立場や考えを尊重しながら聞いたりする中で、思考力・判断力・表現力を発揮して課題の解決（合意形成）に向かうことが期待できます。 活用場面4～8時間（全8時間）

●単元での活用場面	●指導を進めるに当たって
<p>【活用場面①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●調査方法を自ら選んで意見の根拠を明確にする。 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに対する自分の考えをもち、自分の意見の根拠となる事実やデータを調べる。 ・意見の妥当性を検討しながら的確な根拠を選び、意見や根拠をまとめる。 【発揮させたい思考力・判断力・表現力】 ・効果的な調査方法を選択すること。 ・調べた事実やデータの信頼性を検討したり、自分の意見にふさわしい根拠を選択したりすること。 ・意見の妥当性を検討しながら根拠を明確にして、意見や根拠をまとめること。 <p>【活用場面②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●パネル・ディスカッションを行ってテーマに対する自分の考えを深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・パネリスト、司会者、フロアの役割分担を決め、発言メモの作成、発表練習等の準備をする。 ・パネル・ディスカッションを行う。 【発揮させたい思考力・判断力・表現力】 ・根拠を明らかにして、自分の考えを説得的に述べ合うこと。 ・話を的確に聞き取って、聞き取った内容や表現の仕方を評価し合い、自分に生かすこと。 	<p>【主体的な言語活動を進めるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有用感のある活動とするために、生徒自ら価値あるテーマを決定するようにする。そのために、社会生活の中で感じる疑問や違和感を視点にテーマを出し合えるよう、資料提供等の支援をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ○『「住み良さ日本一をめざして」上越市の戦略』→【中学三年生で行う地域ボランティア活動としてふさわしい活動は何か】 ○「中学生のストレスに関する新聞記事」→【ゲーム、読書、運動、中学生のストレス解消に良い順は】 ○「農林水産省パンフレット」→【自給率30%以上、他国に誇る上越伝統食メニュー】 <p style="text-align: right;">※「資料例」→【テーマ例】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・発言の説得力が、明確な意見と根拠、分かりやすい構成、気持ちを伝える態度など、多くの要素に支えられていることを確認する。 ・図書室、PC室利用等、多様な調査方法に対応できるよう準備をする。 <p>【話し合いを効果的に展開するために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネリストは「自分の立場を明確に示す」、司会者は「意見を公平な立場で聞き取る」、フロアは「自分の意見と照らし合わせながら聞く」等、既習の注意点を確認する。 ・本番のパネル・ディスカッションが成功体験につながるよう、役割ごとのマニュアルの提示やリハーサル活動の取り入れ等を行う。 ・テーマに対する考えの深まりが自覚できるように、「どの意見によってどのように考えが変容したか」を記入したり、他者の発言の内容や表現を評価したりする活動を設定する。（パネル・ディスカッション時のマトリックスメモ、バタフライ・マップの記入や、終了後の振り返り用紙の記入等）

■活用場面のとらえ

発揮させたい思考力・判断力・表現力	活用する知識・技能、考え方
【活用場面①】 ● 調査方法を自ら選んで意見の根拠を明確にする ・効果的な調査方法を選択すること ・調べた事実やデータの信頼性を検討したり、自分の意見にふさわしい根拠を選択したりすること ・意見の妥当性を検討しながら根拠を明確にして、意見や根拠をまとめること	・既習の調査方法や教科書の「調査方法の例」 ・取材、選材の仕方(材料を適切な方法で集め整理すること) ・情報リテラシー(著作権 作者の意図 情報の信頼性) ・異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめること ・これまでの国語や総合的な学習の時間、学級活動等での調査活動
【活用場面②】 ● パネル・ディスカッションを行ってテーマに対する自分の考えを深める ・根拠を明らかにして、自分の考えを説得的に述べ合うこと ・話の的確に聞き取って、聞き取った内容や表現の仕方を評価し合い、自分に生かすこと	・説得力のある話をする(根拠を明らかにすること 語句の効果的な使い方を工夫すること 適切な言葉遣いで話すこと等) ・評価しながら聞くこと(意見や根拠を確かめて判断すること、自分との違いを聞き分けて意思決定に役立てること、話し方に注意して聞いて優れている点を取り入れること等) ・これまでの国語や総合的な学習の時間や学級活動、道徳の時間での話し合い

学級の生徒の実態「課題の解決に向けて話し合うこと」

生徒は、これまで話し合いの学習を積み重ねています。しかし、ともすると、自説を主張するだけの一方的な発言や、話を聞く相手の立場を考えない配慮のない発言等により、話し合いが成立していない場面が見られます。また、「課題の解決(合意形成)に向けて話し合う」という話し合いの意義の理解や、効果的な話し合いのために説得力のある意見を述べたり、相手の立場に立って話を聞いたりする力が不十分な場面も見られます。今後は、価値のあるテーマ、有用感のある話し合いの場の設定により、立場や考えの違いを認めつつ、課題の解決(合意形成)を目指して話し合う力をはぐくむことが重要です。さらには、生徒が他者とかかわりながら話し合う楽しさを実感すること、話し合いが社会生活を営むために大切であることを自覚することも望まれます。

■思考力・判断力・表現力を発揮させるポイント

1 既習内容を想起し、言語活動に生かすことができるようにする

活用場面①では、自ら適切な調査方法を選んで調べ、的確な根拠を選定できるように、既習の調査方法や取材、選材の仕方の想起を促す支援が必要です。活用場面②では、話し合いを自分の考えに生かそうとする態度や、論点を見失わないように協力して話し合いを進めようとする態度など、態度面も含めて、既習の話し合いのポイントの想起を促す支援が必要です。

2 習得場面と活用場面をつないで基礎的・基本的内容の定着を図る

調査活動や話し合い活動では、個人差が生じがちです。そこで、習得場面である一次では、学習内容のポイントを学習シートで分かりやすく提示したり、リハーサル活動や班学習等、生徒が互いに学び合う場を設定したりして、基礎的・基本的内容の定着を図る工夫が必要です。また、活用場面では、習得場面での基礎的・基本的内容の想起を促すために一次の学習シートを活用したり、表現活動をやや苦手とする生徒とサポーター的な役割を担う生徒とのペア学習を仕組んで基礎的・基本的内容の定着を図ったりと、習得場面と活用場面のつながりを意識した授業構想とすることが大切です。

■単元の指導計画(全8時間)

1次 パネル・ディスカッションについて知り、話し合いのテーマを決める。(3時間)

2次 パネル・ディスカッションの準備をして、パネル・ディスカッションを行う。(5時間)

- ・テーマに対する自分の意見を持ち、適切な調査方法を選んで根拠となる事柄を調べ、根拠を明らかにする。
- ・役割を決めて、パネル・ディスカッションの準備をする。
- ・パネル・ディスカッションを行い、テーマに対する考えを深める。

【参考資料】「バタフライ・マップ法—文学で育てる〈美〉の論理力—」 藤森裕治 東洋館出版社

(6) 算数・数学科における重点事項及び事例

上越市の児童生徒に発揮させたい思考力・判断力・表現力

算数・数学科では、内容の系統性や連続性が明確であり、児童生徒がこれまでに学習してきたことが基になり現在の学習が成立していきます。そのため、まず基礎的・基本的な知識・技能を確実に児童生徒に身に付けさせる必要があります。そして、算数・数学的活動を通して、学ぶ意欲を高めたり、学ぶことの意義や有用性を実感したりできるようにすることが大切です。算数・数学科では、児童生徒に発揮させたい思考力・判断力・表現力を次のようにとらえます。

【小学校】

小学校算数科では、児童が算数の時間に交わす「話す・聞く」といったコミュニケーション言語における表現に加え、数や式、図表やグラフといった表現による言語活動を重視していきます。そして、上越市児童の実態を踏まえ、児童に発揮させたい思考力・判断力・表現力を次の3つに設定しました。

・よりわかりやすく数量を表そうとすること	1年生
・既習事項を生かして、新しい問題を解決すること	3年生
・考えを伝え合い、つなげ合い、新たな知を見いだすこと	4年生

新学習指導要領では、これまで第3学年以降に設定されていた「数量関係」の領域が、第1学年と第2学年にも設定されることになりました。1年生の事例では、意欲をもたせる導入と算数的表現の必要性のある課題解決を通して、相手にわかりやすく伝えるための表現力を培っていきます。

3年生では、問題場면을操作活動により具体化することを通して言葉とイメージとを一致させながら等分除を学んでいきます。この学習を土台として、その後の包含除を理解していきます。こうした学びの連続が新たな課題に出会ったとき、既習事項を生かして解決しようとする態度を育てます。

4年生では、操作的活動により、児童に多様な発想が生まれるよう仕組みます。それを伝え合い、つなげ合う中で、誰もが納得する新たな知を見いだしていきます。こうした学習を通して、基礎的・基本的な知識や技能が児童に定着し、数学的な思考力・判断力・表現力がはぐくまれていくと考えます。

【中学校】

中学校数学科では、生徒が「分かる・できる」ことを実感し、数学のおもしろさやよさ、必要性を感じることができるよう授業改善を進めます。そして、生徒が主体的に学習に取り組むことをねらい、発揮させたい思考力・判断力・表現力を次の2つに設定しました。

・日常生活で数学を利用すること	1年生
・追求意欲をもって論証しようとする	2年生

活用する力を育成するためには、生徒が創造的・発展的に学習していこうとする態度が不可欠です。そして、与えられた状況から解決に必要な情報を整理したり、自発的に数学的表現や処理の仕方を考えたり、数学的な見方・考え方を適用したりするような場面や状況設定が大切となります。

1年生では、科学的な観察・実験結果を表やグラフに表すことを通してきまりを見出し、式や文章表現でまとめていきます。こうした学習を通して、「日常生活で数学を利用する」視点や相手に説明するための数学のよさや有用性を体感させていきます。

2年生では、論証をコミュニケーションの手段としてとらえ、証明問題を「決定問題」として提示することにより、説明責任を生徒に移行し、生徒が既習事項を用いて証明していく授業を提案します。

1年生「おいしい秋を知らせよう」 題材「かすのせいり」 <11月>

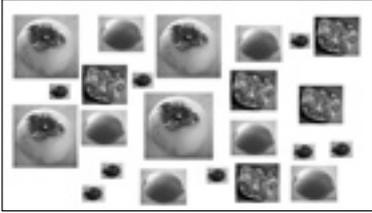
◆単元の目標

- ◎ものの個数を調べたり比べたりするために、絵、図、具体物などを用いてグラフのように表すことができる。
- ◎表したもののから、数の多いところや少ないところを読み取り取ることができ、絵グラフ等のよさに気付く。

◆提案する授業

本単元では、「新1年生にうちの学校のよいところを知らせよう」という生活科の学習と関連付けながら、秋に学校の敷地で採れる果実や昆虫の数を、種類ごとに絵や図などを用いてグラフのように整理し、分かりやすく表す算数的活動を仕組む。単元で活用する知識・技能、考え方は、1対1対応や他のものに置き換えて比較すること、個数や順序を正しく数え表現する力、さらには、長さの学習を通して学んだ直接比較の条件を活用する力が挙げられる。これらを活用する場面は、複数の種類のものをそれぞれ落ちなく数え、整理して分かりやすく表現しようとする場、表したものを活用して特徴を読み取ろうとする場である。自校の特色であり、自分たちが毎日のように食してきた果実等を題材に取り上げ、伝える相手を新1年生とすることで、一人一人の意欲的な取組と、分かりやすく伝えようとする思考力・判断力・表現力が発揮される。

活用場面1～2時間（全3時間）

●単元での活用場面	●指導を進めるに当たって
<p>【活用場面①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●整理して分かりやすく表す方法を確認し合う場面 【発揮させたい思考力・判断力・表現力】 ・具体物操作を通して、自分の考えを深め、分かりやすくかき表す。 ・説明する方法を決め、友達に自分の考えを説明する。(具体物、シート、情報ボード等) <p>【活用場面②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●よりよい表し方を話し合い、それを活用して特徴を読み取る場面 【発揮させたい思考力・判断力・表現力】 ・それぞれの考えを比較しながら、その意図や根拠、よさなどを読み取る。 ・より分かりやすい表し方を話し合い、絵や図を用いてグラフにかき表す。 	<p>【学ぶ意欲を高めるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移行学級での新1年生との交流をめあてにした生活科の学習と関連付けた単元を構想することで、目的意識・相手意識を明確にした学習を展開する。 ・実際に子どもたちが食してきた果実や育ててきた昆虫の写真を用いて課題を示すことで、実際の学校生活との関連を強めた課題提示を行う。 <div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">  </div> <p>【多様な考え方を導き出すために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板（電子情報ボード）に提示する課題と同じものを印刷したシートを用意し、これまで行ってきた学習活動（シートを切る、おはじきを置く、数字を書き込む等）を想起させ、見通しをもたせた上で課題解決に取り組ませる。 ・自力解決の時間を十分に確保し、机間巡視をしながら、一人一人の考え方を見取り、価値付ける。 <p>【話し合い活動の充実のために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子情報ボード上で実際に操作しながら、自分の考えを発表できるよう、日頃から操作に慣れさせておく。操作がうまくできない児童には、具体物操作（自力解決）の結果をデジタルカメラで撮影し、それを提示しながら発表を促すよう支援する。 ・一人一人の考えは、ソフト上に個々に残せるよう、課題を提示したページを事前に複数準備しておく。個々のページには、児童名を明記し、いつでもその考え方を振り返ることができるようにしておく。

■活用場面のとらえ

発揮させたい思考力・判断力・表現力	活用する知識・技能、考え方
【活用場面①】 ●整理して分かりやすく表す方法を確認し合う場面 ・具体物操作を通して、自分の考えを深め、分かりやすくかき表す。 ・説明する方法を決め、友達に自分の考えを説明する。(具体物、シート、情報ボード等)	・問題場面の読み取り(分かっていること、聞かれていること) ・具体物の操作と、結果の記録(切って動かす、おはじきへの置き換え、結果の記録の仕方) ・相手に分かりやすい発表の仕方(情報ボード等の操作、相手の方を見て話す、うなずきながら聞く)
【活用場面②】 ●よりよい表し方を話し合い、それを活用して特徴を読み取る場面 ・それぞれの考えを比較しながら、その意図や根拠、よさなどを読み取る。 ・より分かりやすい表し方を話し合い、絵や図を用いてグラフのようにかき表す。	・相手意識・目的意識 ・項目ごとの数を数え、比較すること ・数の大小の理解 ・直接比較の条件(端をそろえる、まっすぐに並べる) ・1対1対応の考えを用い、そろえて比べること

学級の児童の実態「よりわかりやすく数量を表そうとすること」

1年生の子どもたちは、自分の考えを伝えたいという願いを強くもっています。しかし、実際には表現力が乏しく、なかなかうまく考えを伝えることができません。そこで、具体的な操作を再現させたり、操作結果を示しながら説明させたりする活動を通じて、自分の考えを分かりやすく伝える経験を積ませていくことが大切です。また、一人一人の考えを記録として残し、いつでも振り返ることができるようにしておくことで、自分のアイデアを大切にしていこうとする態度を育てていきたいと考えます。誰のが正しいかではなく、お互いの考えの良さを認め合える力を育てていくことも大切なことです。

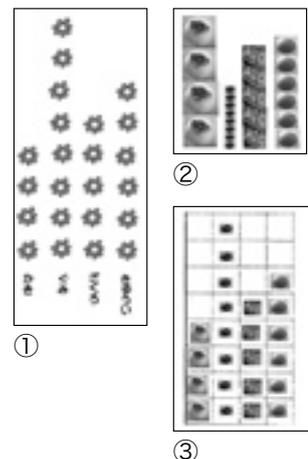
■思考力・判断力・表現力を発揮させるポイント

1 既習経験を想起させ、自由に挑戦させる。

この頃までに子どもたちは、具体物を並びかえたり、おはじきに置き換えたり、数字を書き込みながら数を数えたりする経験を繰り返し行ってきている。そうした経験を十分に想起させた上で、自由に個性的な解決方法を探らせていきたい。個性的な解決方法を見いだすことが、よりわかりやすい表現方法を探っていく重要な手がかりとなる。そのためには、十分な時間と多様なアプローチを可能とする学習環境が必要となる。課題と同じ果実の絵や写真をちりばめたシート、おはじきやブロックといった半具体物、加えて、操作を再現、または提示可能にする板書の準備等である。まずは既習経験を総動員できる場を提供することが、ポイントとなる。

2 相手意識を明確にした方法の吟味。

子どもたちはおそらく最初、数字で表せばよいと主張してくるであろう。しかし、知らせる相手は就学前の子どもたちである。数字ではどんな種類のものがどれくらい採れるのかが伝えられない。では、おはじきはどうだろうか。おはじきは、数を比較するには有効だが、抽象化されるためそれが何の数を表しているかがわかりにくくなってしまふ(①)。そこで、子どもたちは、具体物(果実等の絵や写真)を並べることに目を向け始める。しかし、ただ隙間無くまっすぐに並べると、柿4個よりグミ8個の方がはるかに少なく見えてしまふ(②)。どうすれば、果実の数を正確に表すことができるか……そうしたやりとりの中から、1対1対応の考え方に基づくマス目を使った比較方法(③)やグラフの構成要素である項目への気づきが導き出されてくると考える。



■単元の指導計画(全3時間)

- ・整理して分かりやすく表そう
- ・整理したものから読み取ろう
- ・既習事項の確かめをしよう

3年生「わり算」 題材「お菓子を分けよう」 <10月>

◆単元の目標

- ◎除法が用いられるよさに気づき、日常生活で進んで使おうとする。
- ◎既習の乗法を用いて、除法の答えを見つける方法を考えることができる。
- ◎除法の場面を、絵・図・式を使って表したり、除法の問題を作ったりできる。また、乗法九九を用いて答えを求めたりできる。
- ◎除法が用いられる場面や除法の意味、それに伴う式の表し方が分かる。また、乗法九九を用いた除法の答えの求め方が分かる。

◆提案する授業

十分に具体物、半具体物を操作する・絵や図で表す・言葉で説明するなどの活動を通して、答えを見つける学習にとどまらず、除法の意味を理解させる。

問題を作る・式を読む活動を多く取り入れることで、等分除、包含除の考え方をしっかりと理解させる。等分除で学習したことをもとに、比較しながら包含除の学習に生かすことのできる単元構成を工夫する。式の意味をしっかりと理解することで、 $a \div a$ $a \div 1$ $0 \div a$ についても、答えを導き出せるようにする。

活用場面4時間(全10時間)

●単元での活用場面	●指導を進めるに当たって
<p>【活用場面①：かけ算の適用場面との比較】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●乗法が用いられる場面を理解し、操作をしたり、問題作りをしたりする。 ・おはじきなど、半具体物を操作しながら、「かけ算」(たし算、ひき算)になる問題作りをしながら、適用場面を想起する。 ・わり算の問題場面の操作を繰り返し、「同じ数ずつ」「分ける」ということを確認する。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・操作と問題場面を結びつけ、言葉とイメージを一致させて表すことができる。 ・かけ算を使って求められるもの、わり算を使って求められるものを、言葉を意識しながら、説明することができる。 <p>【活用場面②：等分除と包含除の比較】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●等分除と包含除の違いを、絵や図、言葉で説明する。 ・等分除でのノートのとまとめ方を活用し、包含除の問題の考え方を絵や図、言葉でまとめながら自力解決を図る。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の意味を理解し、等分除のときの考え方との共通点や相違点に気付くことができる。 ・等分除との共通点や相違点を明らかにして、絵や図、言葉で表すことができる。 	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○4つのお皿にあめ玉を3こずつのせます。(操作) 続きの問題を考えましょう。 ○あめが15個あります。(操作) 続きの問題を考えましょう。 <p>【言葉とイメージを一致させるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1, 2, 3年と、それぞれの段階において、具体物やおはじきなどの半具体物の操作、絵や図に表わす活動、問題作りなどの活動を繰り返し、課題解決の手がかりとして用いる習慣を付けておく。 <p>【大切な言葉を意識するために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を読むときに、下線を引いたり、その部分を強調して音読したりするなどして数学的に大切な言葉を意識することに慣れさせる。 ・板書する際にカードを用いたり、ノートにまとめるときに色分けをしたりするなどして、意識して言葉を用いる習慣を付ける。 <p>【既習事項を生かすことができるように】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を通した課題を提示し、児童の考えがわかるような掲示を行っていく。

■活用場面のとらえ

発揮させたい思考力・判断力・表現力	活用する知識・技能、考え方
【活用場面①】 ○乗法が用いられる場面を理解し、操作をしたり、問題作りをしたりする。 ・操作と問題場面を結びつけ、言葉とイメージを一致させて表わすことができる。 ・かけ算を使って求められるもの、わり算を使って求められるものを、言葉を意識しながら、説明することができる。 ・「同じ数ずつ」などの言葉を意識し、同じ数ずつのかたまりとして操作することができる。	2年「かけ算」 ・乗法の式の意味 ・乗法が用いられる場面の理解 「同じ数ずつ」のかたまりを意識して、操作したり、言葉に表したりする。
【活用場面②】 ○等分除と包含除の違いを、絵や図、言葉で説明する。 ・問題の意味を理解し、等分除のときの考え方との共通点や相違点に気付くことができる。 ・等分除との共通点や相違点を明らかにして、絵や図、言葉で表すことができる。	3年「わり算」 ・等分除が用いられる場面の理解 いくつかに等分したときの、「1つ分」の大きさを求めることを意識する。

学級の児童の実態「既習事項を生かして 新しい問題を解決すること」

児童は、表面的にやり方を覚え、早く正確に答えを求めることに関心を示すことが多いのですが、それでは、後にやり方を覚えきれないことになり、考え方を応用することができなくなってしまう傾向にあります。操作や問題作りなど多様な活動を繰り返し、数字と言葉とイメージとを十分に一致させた上で除法の意味を理解した場合、文章題での立式の仕方や、答えの求め方を理解するだけでなく、その後学習する、1や0の含まれるわり算の式の意味や答えの求め方、あまりの意味などについても、1つ1つが新しいこととしてではなく同じ考え方の延長線上として自然と理解していくことができると考えます。

■思考力・判断力・表現力を発揮させるポイント

1 発問を大切にす

答えを求めることができ満足している児童になぜそう考えるのかを尋ねたり、無理に説明をさせたりしても、説明しようとする意欲にはつながりません。前に学習したことを使えば説明できそうな発問、考えを話したくなるような発問を繰り返すことが大切です。今までに学習してきたこととの、共通点・類似点・相違点などを見出し、言葉で説明したり、操作を繰り返したりしながら理解を深めることが筋道だった考えを導き出すことにつながると考えます。

2 まとめ方の工夫

ワークシートやノートにまとめるときには、式、答えだけでなく、図や言葉を書き加えながらまとめていく習慣を作ることが大切です。このことにより、振り返って見たときに分かりやすい、大切な言葉を意識できだけでなく、考え方が分からないときに、自分で絵や図を書いて解決しようとする習慣が身に付いていきます。

■単元の指導計画（全10時間）

1次 除法の式の表し方、答えの求め方を知る。（8時間）

- ・お菓子をういて問題作りをしながら、課題を知る。（活用場面①：2時間）
- ・同じ数ずつ分ける操作を通して、除法の考え方の理解を深める。
- ・等分除の用いられる場面を理解し、立式する。
- ・包含除の用いられる場面を理解し、立式する。（活用場面②：2時間）

2次 1や0の除法を理解する。（2時間）

- ・1や0の含まれるわり算の意味を考え、答えの求め方を知る。
- ・練習、まとめの問題をする。

4年生「垂直と平行」 題材「パターンブロックを使って」 <6月>※5年生より移行

◆単元の目標

- ◎身の回りのものから垂直・平行な関係にある直線を進んで探し、ものの位置関係に対する見方を広げる。
- ◎垂直・平行という観点で、2直線の関係を考えることができる。
- ◎垂直・平行の2直線を作図したり、確かめたりできる。
- ◎2直線の垂直・平行の関係とその性質が分かる。

◆提案する授業

本単元では、パターンブロックにある形の中から一種類を選び、それをしきつめていったときの形の並びから垂直や平行の概念を見いだしていく。単元での活用場面は、「しきつめ」活動における子どもの素直なつぶやきや言葉（「同じ方向に形（角）が並んでいる」「線がずっとまっすぐ」「線が直角になっている」など）を伝え合い、つなげ合う場とそれが本当に正しいか、実際に確かめる場で見られる。ここで発揮される活用する力は、まさに既習事項（直角の定義、分度器の使い方など）を学習の場に生かす力であり、それらをもとに、新たな知をつくりあげていこうとする力である。 活用場面1～3時間（全7時間）

●単元での活用場面	●指導を進めるに当たって
<p>【活用場面①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●しきつめられたパターンブロックを見て、気が付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉や図を使って、「何が」「どうなっている」ということがはっきり分かるようにノートに書き表す。 ・全体の前で発表する前に、隣同士やノートに早く書けた児童同士で情報交換する。 【発揮させたい思考力・判断力・表現力】 ・辺や角に着目して、その並びや方向性に関係する気付きを見だし、表現する。 ・自分や友達の考えを相手に伝わるように、代弁したり、図を指さしたりして分かりやすく説明する。 <p>【活用場面②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●垂直と平行という言葉を教え、定義を直定規や三角定規、分度器を使って確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・直定規や三角定規、分度器を用いて、どのように調べたらよいかを考え、実際に確かめてみる。 【発揮させたい思考力・判断力・表現力】 ・2直線の交わる角度を分度器で測ったり、三角定規の直角を利用したりして、垂直や平行関係にあるかどうかを判断する。 	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○パターンブロックの中から好きな形を1つ選んで、ずっと、しきつめていってみましょう。 <p>【多様な気付きが見いだせるようにするために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのようにしきつめてもよいことにする。 ・見た目の感じや発見したきまりなどを自由に書くように促す。 <p>【2直線の位置関係に着目するために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の思考を整理するため、発表された気付きは、「形に目を向けたもの」と「並び方に目を向けたもの」に分けて板書する。 ・2直線の位置関係に着目するために、児童の発言を位置付けながら徐々に話題の中心を「形」から「並び方」へと移行するようにする。 <p>【考えを伝え合い、つなげ合うために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童のつぶやきや言葉を意図的に取り上げ、「それってどういうこと？」のような合いの手を掛け、説明を促す。 ・必要に応じて、児童の発言を意図的に途中で止め、その続きを別の児童が考え、代弁する場を設ける。 ・発言者の言いたいことを別の児童が代弁する場を設けることで、みんなが納得する知になるようにしていく。 ・図を使って説明できるように、黒板にも児童の作った形と同じものを貼っておく。 <p>【既習事項を生かせるようにするために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の言葉で「垂直」「平行」の定義をつくりあげていくが、どうすれば確かめられるか、そのための道具を考えるよう助言する。 <p>いつまで行っても交わらない→直定規で確かめる 1つの直線に等しい角度で交わっている→分度器で確かめる 2つの直線が直角に交わっている→三角定規で確かめるなど</p>



形に着目



並びに着目

■活用場面のとらえ

発揮させたい思考力・判断力・表現力	活用する知識・技能、考え方
【活用場面①】 ●しきつめられたパターンブロックを見て、気が付いたことを発表する。 ・辺や角に着目して、その並びや方向性に関する気付きを見だし、表現する。 ・自分や友達のを相手に伝えるように、代弁したり、図を指さしたりして分かりやすく説明する。	・相手に分かりやすい説明の仕方（図や絵を用いる、算数用語を用いるなど） ・2年生「いろいろな形」の知識・技能、考え方（色板で形作り） ・3年生「形」の知識・技能、考え方（直角の意味、三角形・正方形などのしきつめ）
【活用場面②】 ●垂直と平行という言葉教え、定義を直定規や三角定規、分度器を使って確かめる。 ・2直線の交わる角度を分度器で測ったり、三角定規の直角を利用したりして、垂直や平行関係にあるかどうかを判断する。	・4年生「角」の知識・技能、考え方（分度器の使い方、角度の測り方、三角定規の角）

学級の児童の実態「考えを伝え合い、つなげ合い、新たな知を見いだすこと」

色板での形作りや正方形や正三角形などの基本図形のしきつめを通して、児童は、形への関心をもつとともに、平面が広がっていく様子やそれに伴う図形のおもしろさや美しさを味わってきています。ここでは、自分の気付きをもとに、それがどのような算数的価値をもつのか、みんなで考えを伝え合い、つなげ合う中で、みんなが納得する新たな知を見いだしていくことを課題としています。そのため、個々の気付きを「どういうことなのか」といった意識で相手の言いたいことを聞くことが大切になってきます。

■思考力・判断力・表現力を発揮させるポイント

1 児童の素直なひらめきや気付きを大切に

児童が安心して自己の考えを表現できる環境が存在していることは、授業において児童の多様な考えを引き出すことにつながります。そこには、算数的な価値を含むものが多く見られます。そのため、日ごろから児童一人一人の考えをきちんと位置付けたり、友達が何を言いたいのかみんなで推測・予想し、代弁したりする場を繰り返し設けていくことが大切になります。それにより、考えを伝え合い、つなげ合う雰囲気はぐくまれていきます。

2 既習事項を振り返り、活用できるように

図形の学習では、図形感覚・空間感覚が大切になります。そのため、色板並べ遊びや正方形や直角二等辺三角形などのしきつめを学年の発達に応じて繰り返し経験することが必要です。ここでは、パターンブロックを用いることでこれまでに身に付けた図形感覚を呼び起こし、新たな図形の特徴の発見へと導き出します。また、三角定規の各角度、分度器の使い方などの知識や技能は、日常的に用いていくことでいつでも使えるものとなっていきます。

<やりとりの様子>

T1：並び方で気が付いたことがあるかな？（平行四辺形のしきつめを指さして）

C1：ずっと続いている。

T2：何が？

C1：同じ形がずっと続いている。

T3：どういうことか分かる？

C2：たぶんC1が言いたいことは、ブロックが同じ方向に向いているということだと思う。

C3：（前に出てきて）この角がここもここも同じ方向に並んでいるから…。この線がずっとまっすぐになっている。…以下略

■単元の指導計画（全7時間）

1次 垂直・平行を知ろう（3時間）

- ・パターンブロックをしきつめると（活用場面①：2時間）
- ・垂直・平行な2直線のひみつを見つけよう（活用場面②：1時間）

2次 垂直・平行な線をかこう（2時間）

- ・垂直な線をかこう
- ・平行な線をかこう

まとめの問題（2時間）

1年生「比例・反比例」 題材「観察・実験から比例・反比例を見いだす」 <11月>

◆単元の目標

- ◎具体的な事象の中からともなって変わる2つの数量を取り出して考察し、比例や反比例の意味を理解する。
- ◎座標の意味を理解するとともに、点の集合として比例や反比例のグラフの意味を理解する。
- ◎比例や反比例の関係を表、式、グラフを使って表すことができるとともに、それらを用いて比例や反比例の変化や対応などの特徴を理解する。
- ◎比例や反比例の見方や考え方を、具体的な場面で活用することができる。

◆提案する授業

本単元では、目標にあるように「具体的な事象から」考察したり、「具体的な場面で」活用したりすることができるように学習活動を展開する。そこで、ここでは観察や実験を実際に行いながら、思考力・判断力・表現力を育てる活用型授業を提案する。活用場面は、単元導入時の観察・実験する場、比例と反比例の利用における観察・実験する場の二つである。単元導入時の観察・実験する場では「ばねの伸びの実験（比例）」、利用の観察・実験する場では「てこの実験（反比例）」を取り入れた。観察・実験により得られたデータを表・グラフなどで表現し、それらを考察の根拠として用いながら他者に説明する活動において、学習者の活用力（＝思考力・判断力・表現力）が発揮される。

活用場面① 1～2時間、②16～17時間（全20時間）

●単元での活用場面	●指導を進めるに当たって
<p>【活用場面①：ばねの伸びの実験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループごとに実験を行い、その結果を表やグラフにまとめ、学級で発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で分担を決める。 ・観察の結果のまとめ方についてグループで話し合い、発表できるようにまとめる。 【発揮させたい思考力・判断力・表現力】 <ul style="list-style-type: none"> ・実験計画や留意点をグループで話し合う。 ・実験結果を表やグラフを用いて表現し、考察のための根拠にしたり、視覚的にわかりやすくしたりする。 ・測定誤差をどのように扱うかを判断する。 	<p>＜課題＞</p> <p>○ばねにおもりをつるしたとき、おもりの重さとばねの伸びについて実験してみましょう。その実験結果からわかったことをまとめて、学級で発表しましょう。</p> <p>【比例関係を見いださせるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何もぶら下げないときのばねの長さを測ることからスタートするが、授業者が丁寧に指示するのではなく、学習者との相互交渉を通して、実験・観察の条件やまとめ方などを整備していく。 ・いろいろな物の重さとばねの伸びをデータに入れるために、デジタル測定器を用意する。 <p>【発表がスムーズにできるようにするために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートボードや実物投影機などを用いて、プリントをそのまま発表資料にできるようにする。
<p>【活用場面②：てこの実験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループごとに実験を行い、その結果を表やグラフにまとめ、学級で発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で分担を決める。 ・観察の結果のまとめ方についてグループで話し合い、発表できるようにまとめる。 【発揮させたい思考力・判断力・表現力】 <ul style="list-style-type: none"> ・実験を行う前に、予想を立てさせる。 ・考察を、表・グラフ・式を用いながら文章表現でまとめる。 	<p>＜課題＞</p> <p>○左うでの12cmの所におもりを2個下げます。左うではこのままで右うではおもりの個数をいろいろ変えて天秤をつりあわせてみましょう。</p> <div data-bbox="1114 1653 1439 1818" style="text-align: center;"> </div> <p>【反比例の関係に気付くために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反比例の関係は比例の関係と比べて気付きにくい。表だけでなくグラフにすることにより、反比例の関係に気付きやすくなる。 ・重さを自由にすると小数の処理が煩わしくなるため、重さが一定のおもりの個数と支点からの距離で思考させる。

■活用場面のとらえ

発揮させたい思考力・判断力・表現力	活用する知識・技能、考え方
【活用場面①：ばねの伸びの実験】 ● グループごとに実験を行い、その結果を表やグラフにまとめ、学級で発表する。 ・実験計画や留意点をグループで話し合う。 ・実験結果を表やグラフを用いて表現し、考察のための根拠にしたり、視覚的にわかりやすくしたりする。 ・測定誤差をどのように扱うかを判断する。	・総合的な学習の時間や理科の時間での実験の進め方やレポートのまとめ方 ・小学6年「比例」の知識・技能、考え方（比例の性質、比例の表・グラフ） ・小学5年「概算」の知識・技能、考え方（およその数、測定誤差）
【活用場面②：てこの実験】 ● グループごとに実験を行い、その結果を表やグラフにまとめ、学級で発表する。 ・実験を行う前に、予想をたてさせる。 ・考察を、表・グラフ・式を用いながら文章表現でまとめる。	・小学5年「てこ」の知識（力点、支点、作用点） ・中学1年「比例・反比例」の知識・技能、考え方（比例・反比例の表・グラフ・式）

学級の生徒の実態「日常生活で数学を利用すること」

文章題から条件を読み取って課題を解決する学習よりも、現実の観察・実験からともななって変わる2つの数量関係を取り出してそれについて考察する学習は、「日常生活で数学を利用する」視点や数学のよさ・有用性を学習者が獲得する上で有効です。

また、実験結果をまとめたり、考察を級友にわかりやすく伝えたりする活動において、表・グラフ・式が“数学の言語”としてどのような点で有効な手段であるのかを実体験として理解することができます。

■思考力・判断力・表現力を発揮させるポイント

1 グループ内の協同作業を大切にする。

グループごとに実験計画を考えさせたり、誰が何をするのかという分担を決めさせたりしながら、協同意識をもたせることが大切です。そのことにより、実験データを根拠にして考察する際にグループ内で十分な話し合いや練り上げを可能にし、学習の深まりや深化が生まれます。

2 学級内での発表活動における相互評価を大切にする。

各グループの発表に対して全生徒が相互評価をすることは、他のグループの考察のよさに気付くためだけでなく、学習の成果を全生徒が共有する上で欠かせません。また、足りないと思われる考察に対して学級内でお互いに補充をしながらよりよい考察へとステップアップさせる上でも有効です。

■単元の指導計画（全20時間）

1次 比例（9時間）

- ・ともなって変わる2つの数量（活用場面①：2時間）
- ・比例
- ・座標と比例のグラフ

2次 反比例（5時間）

- ・反比例
- ・反比例のグラフ

3次 比例と反比例の利用（3時間）

- ・比例と反比例の利用（活用場面②：2時間）

まとめの問題

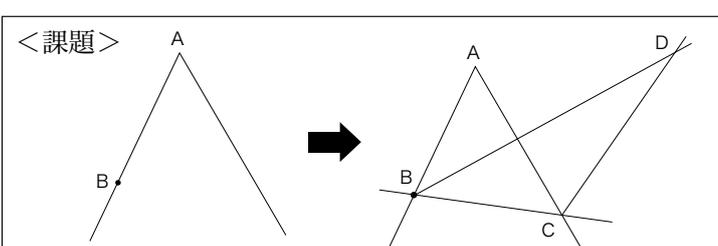
2年生「図形の性質の調べ方」 題材「図形の性質と証明」 <11月>

◆単元の目標

- ◎図形の性質の確かめ方に関心を持ち、証明の方法や仕組みを調べることができる。
- ◎観察、操作、実験を通して平行線の性質や三角形の合同条件を理解し、それらを用いることができる。
- ◎証明の意義や仕組み・手順などを理解し、三角形の合同条件などを使って簡単な証明をすることができる。

◆提案する授業

まず、課題となる図形を生徒が自ら作図する。そして、「友達の図と比べて何かわかることを書き出してみよう」と発問する。「～を証明しなさい。」という課題は結論がはっきりしており、一見証明しやすいと感じられるが、生徒には証明する必要性があまり実感できない。証明の仕方をまだ良く理解できていない生徒も、基本的な作図（1年）を復習しながら、自分なりに「言えること」を見つけ出し、その理由を追求しようとする意欲が論証への動機付けになると期待できる。 活用場面17～18時間（全18時間）

●単元での活用場面	●指導を進めるに当たって
<p>【活用場面①】</p> <p>●個人で課題の図形を適切に描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点Bを通る直線を1本引き、$\triangle ABC$を書く。 ・$\angle B$の二等分線と$\angle C$の外角の二等分線の交点をDとした作図を完成させる。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を把握し、個人の図を完成させる。 <p>【活用場面②】</p> <p>●友達の図と見比べたり、実際に測ったりして言えることを書き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形の形は一通りでないことを確認し、どの図でも言えそうなことを見つける。 ・実際に重ねたり、測ったりすることで$\angle D$が同じ大きさであることに気付く。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ図が違うのに同じことが言えるのか疑問に思う。何とかして説明できないだろうか、既習事項が利用できないか考える。 ・三角形の内角の和と外角の性質を利用することに気付く。 ・自分の説明しやすい方法で友達に伝える。聞き手は、わからない所を指摘し、より良い説明方法を考える。 ・等しいところに印をつけたり記号や式を使ったりすることで説明がよりわかりやすくなることを実感する。 ・証明の式から$\angle A$と$\angle D$の関係に気付く。 	<p>【見出す事柄が生徒にとってわかりやすいものであるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に沿った図を自分なりに完成させる。そこから見出す事柄は、他の図と比較することで見つけ出すことができるように課題を工夫する。（$\angle A$を固定させる） ・既習事項の確認をしながら、忘れていた生徒には助言をし確認しながら進む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><課題></p>  <p>○点Bを通る$\triangle ABC$を作り、$\angle B$の二等分線と$\angle C$の外角の二等分線との交点をDとする。いろいろな角の大きさについて調べてみよう。</p> </div> <p>【見出す事柄の集約】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の図と比較したり、実際に測ることで、「形の違う三角形でも$\angle D$の大きさは同じになっていそうだ」という点に気付く。 ・$\angle A$の大きさが同じであることから$\angle A$と$\angle D$の大きさの関係にも注目させる。（$\angle A$の半分であることがわかる。） <p>【見出した事柄を証明する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[言葉]→[記号]→[式]と証明の手順を生徒の実態に応じて選択させる。 ・よりどころとする事柄が見いだせない生徒には、「三角形の外角の性質」を根拠として、証明できることを助言する。 ・隣りどおし、お互いにまず言葉で説明をする。必要に応じて図に印や記号を書き入れ、式を用いて証明を完成させる。 ・生徒の発表から、最低限必要な言葉、式、記号を用いて証明を完成させる。

■活用場面のとらえ

発揮させたい思考力・判断力・表現力	活用する知識・技能，考え方
【活用場面①】 ●個人で課題の図形を適切に描く。 ・課題を把握し，個人の図を完成させる。	・中学1年「平面図形」 ・中学2年「図形の性質の調べ方」 ・課題を理解し，適切な図を描くこと，正しく記号を入れること
【活用場面②】 ●友達の図と見比べ，言えることを書き出す。 ・既習事項が利用できないか考える。 ・三角形の外角の性質を利用することに気付く。 ・自分の説明しやすい方法で友達に伝える。聞き手は，わからない所を指摘し，より良い説明を考える。 ・記号や式を使うことで説明がよりわかりやすくなることを実感する。	・中学2年「図形の性質の調べ方」「三角形・四角形・円」 ・中学3年「相似な図形」 ・既習事項の活用（三角形の内角と外角の性質） ・相手にわかりやすい説明の仕方（根拠となる事柄をはっきりさせて，簡潔に説明できる） ・図から言えることを見つけ出すこと ・「なぜ？」と疑問に思うこと

学級の生徒の実態「追求意欲を持って論証しようとすること」

「図形」領域では，作図や辺の長さ・角の大きさ，合同や相似の証明といった課題の中で，結果だけでなく，なぜそうなるか筋道を立てて考えていくことが重要になります。しかし，機械的に答えを導く学習を多く積んできた生徒にとっては，理由を言葉で説明することは容易なことではありません。普段から「見出す」「疑問に思う」「理由を考える」という経験を積むことが，自ら知識を得たり，活用したり，新たに生み出したりする力を育成する上で非常に大切になります。そのために，授業では，生徒自らが考えてみたいと思う課題提示が必要です。そして，「(生徒は)どのように考えるだろうか」「次はどうするだろうか」という実態に沿った教師側の「発問」を工夫することが重要です。

■思考力・判断力・表現力を発揮させるポイント

1 自分たちで数学を作り上げる場面を設定する。

課題を示すとき，「～であることを証明しなさい。」という提示の仕方ではなく，「何かいえそうなことはないか」と生徒が自由に発想し，いろいろ考えられるように発問します。数学を苦手としている生徒も簡単なこと(自明な事柄)から見つけることができ，課題を解く意欲につながります。また，課題の図が友達と違う三角形になることから「どの図でも言えそうだ。なぜだろう？」と追求意欲をもたせることができます。

2 既習事項から根拠を明らかにし，自分なりに説明する。

図を重ねて $\angle D$ が同じ大きさになることを確かめ，「なぜ？」→「これまで学んできたことを使って説明できる」ことに注目させ，友達同士で議論しあいながら説明を考えます。記号や文字を使った説明を苦手とする生徒には，実際に測定したり，具体的な数値を当てはめたりして計算で求める方法も可とします。

■単元の指導計画（全18時間）

1次 平行線と多角形（8時間）

- ・平行線と角……対頂角，同位角，錯角と平行線の関係を理解する。
- ・多角形の角……三角形の角の性質をもとに多角形の角の性質を理解する。

2次 図形の合同（10時間）

- ・合同な図形……合同な図形の表し方や性質を理解する。
- ・三角形の合同条件……三角形の合同条件を理解し，2つの三角形が合同であるかどうか調べる。
- ・図形の性質の確かめ方……証明のしくみや手順を理解し，簡単な証明を行う。(活用場面①②：2時間)

【参考資料】授業を変える「発問」と課題提示の工夫71 明治図書 水谷尚人著

(7) 理科における重点事項及び事例

上越市の児童生徒に発揮させたい思考力・判断力・表現力

理科では、自分の問題から問題解決を行い、自分の言葉でまとめ、相手と学び合う学習活動を大切にします。新学習指導要領を受け、問題解決の能力の育成、言語活動の具体化から学習指導改善を進めます。児童生徒に活用する場で発揮させたい思考力・判断力・表現力を次のようにとらえます。

【小学校】

小学校理科では、問題を解決する場で働く思考力・判断力・表現力を中心に重点事項を設定しています。また、言語活動として、実験観察の結果を確実に記録し、振り返りを行う「書く活動」を設定します。発揮させたい思考力・判断力・表現力を以下のように示しました。

・実験で得られた情報を整理して、比べること	小学校3年生
・実験の結果を論理的に考え、文章で表すこと	小学校4年生
・情報を選択・活用することから変化のきまりを読み取ること	小学校5年生
・観察・実験の結果を整理してまとめること	小学校6年生

3年生では新たに加わる単元「風やゴムの働き」で、風やゴムにはものを動かす働きがあることを生活科で学んだおもちゃづくりの経験をもとに理解させます。ここでは、風とゴムを使った台車を実際に動かし、得られた実験結果を「比べる」ように働きかけ、思考力・判断力・表現力の発揮を促します。

4年生では「水の蒸発」という事象について実験結果と日常生活の現象を関係づけとらえるようにし、得られた結果を書き方モデルをもとに文章で表現します。また、5年生では、「天気と気温の変化」で天気を予想する活動で、活用する場として気象データを選択したり、変化のきまりを生活に生かしたりする場を構想し、そこで児童に働く思考力・判断力・表現力を重視します。

6年生では、観察実験結果をまとめる際に自分で今まで得たデータから推論して、自分で問いを立てながら書き進める推論レポートを事例として示しました。

【中学校】

中学校理科では、基礎・基本の定着と合わせ、言語活動を一層重視する点から、観察実験を行い、生徒同士でのコミュニケーションを促すこと、また、データを表やグラフにまとめ、データを読み取り、データからきまりを読み取ることが重視されます。

・「コミュニケーションを図りながら課題を追求すること」	中学校1年生
・「実験のデータをグラフ化し、科学的事実を読み取ること」	中学校2年生

中学校1年生ではグループ活動を行う中から見通しをもって実験をしたり、気体を特定したりする活動を行います。活用場面では、グループで課題を話し合うことからどのように実験を進めればよいのか、思考力・判断力・表現力を発揮しながら既習事項をもとに課題を解決していくことを期待します。

また、中学校2年生では、実験結果をグラフ化する場、既有経験と連れを生じさせる酸化のデータを読み取るという2つの場を活用場面ととらえ、思考力・判断力・表現力の発揮を促します。

3年生「風やゴムの働き」 <6月>

◆単元の目標

- 風やゴムには、ものを動かす働きがあることの共通性についての見方や考え方をもつことができるようにするとともに、実験に使う車などのものづくりを通して、風やゴムの働きについて興味・関心をもって追究する態度を育てる。
- 風やゴムの伸びで動く車を作成し、加える力を変えながら、車に加える力と走行距離との関係に関心を持ち、実験を行う。
- 風やゴムの働きを比べながら、ものを動かす決まりについて考えることができる。
- ウインドカーの進む距離と風の強さ、ゴムの伸びについて整理して表に表すことができる。
- 車に加える風やゴムの伸びが大きくなると車の移動距離が増すことをとらえる。

◆提案する授業

単元では、生活科で学んだ動くおもちゃづくりの経験をもとに、風やゴムの力で動く台車等を作成することを通して、風やゴムにはものを動かす働きがあることをとらえます。想定される物づくりとしては、車に帆をつけた動くおもちゃやゴムで動く車をつくる活動があります。その中で、帆に当てる風の強さを変えたり、ゴムの変化の程度を変えたりしながら、車の動く速さや距離を調べ、加える力の大きさと移動の変化をとらえることが具体的な学習内容となります。ここでは、実験を通して風を当てたときのものの動きやゴムを引っばったり、巻いたりしたときのものの動きをそれぞれ比べることから、変化するものと変化させるものの関係をとらえる思考力・判断力・表現力が働くことを期待します。

活用場面4～8時間（全8時間）

●単元での活用場面	●指導を進めるに当たって
<p>【活用場面①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●風で動くおもちゃをつくり、実験を通して風の力と走る距離には関係があることをとらえる。 ・ウインドカーをもっと遠くへ走らせるにはどうすればよいのか考える。 ・速く遠くへ走るとききのまりを見つける。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験で得られた距離と風の強さの関係を整理して表に表すこと ・ウインドカーが遠くへ走る要因を風の強さと関係付けること <ul style="list-style-type: none"> ●ゴムで動くおもちゃを作り、どうすれば速く遠くへ走るのかを調べる。 ・ゴムの変化の程度を変えることに着目する。 <p>【活用場面②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●風やゴムで動く車の実験を通して、共通点や違う点をとらえる。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風やゴムで動く車の進んだ距離と加えるエネルギーの関係を比べ、風やゴムの伸びと車の動く距離を関係付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元では、実験に使うもの（風やゴムの力で動く車）を作り、実験を進めていくことが中心となる。しかし、ウインドカー作成に当たっては、風を受ける帆の大きさや形によって動く距離が変化することは学習内容と異なるので注意したい。 ・「もっと速く、遠くへ走らせたい」という願いは自然と児童からわき上がる。そこで、安定した風を送る送風機を提示し、風の強さの変化とウインドカーの進む距離をとらえることができるようにする。 <p>【生活科との関連を考慮するために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元では、生活科での物づくりをもとに風やゴムで動く物づくりを体験させていく。製作を通して、もっと遠くへ速く走らせるために車を工夫したり、得られたデータを整理して考えたりする場面を大切にしたい。 ・ゴム動力の飛行機づくりも車と並んで児童に経験させたい物づくりの一つとして考えられる。 ・ゴムの動きについても引っ張ったり、縮めたりしたときの手応えやものの移動について、表にまとめる場を設定する。 ・風やゴムで動く車の進んだ距離と加えた力について、今までの実験を振り返り、気付いたことをまとめる。 ・児童の体験を通して得た手応えを大切にしながら、児童の言葉で2つの力の関係をまとめていく。

■活用場面のとらえ

発揮させたい思考力・判断力・表現力	活用する知識・技能、考え方
【活用場面1】 ●風で動くおもちゃをつくり、実験を通して風の力と走る距離には関係があることをとらえる。 ・ウインドカーをもっと遠くへ走らせるにはどうすればよいのか考える。 ・速く、遠くへ走るときのきまりを見つける。	○生活科で作ったおもちゃづくりの経験 ○送る風が強いときと弱いときの車の動きを比べること ・車の進んだ距離と速さとそのときに送った風の手応え
【活用場面2】 ●風やゴムで動く車の実験を通して、共通点や違う点をとらえる。 ・風やゴムで動く車の進んだ距離と加えるエネルギーの関係を比べ、風の力やゴムの伸びと車の動く距離を関係付ける。	○2つの実験で体感した力の加減と進んだ距離の関係を想起すること ・風やゴムを使った車の動きと加える力の程度を整理した表を比べる ・2つの実験とも加える力が強いと車が速く、遠くに進んだこと

学級の児童の実態「実験で得られた情報を整理して比べること」

この時期の3年生の児童は経験をつないで「葉や茎が大きくなってきた」「空気は縮んで飛んだ」と表現することができるようになります。それぞれの発言を見ると、それまで自分が見たものや経験したことと比べて表現されたものが分かります。しかし、実験の前後のものの変化については、現象面に注意が向かい、変化する前と後の様子について意識して見るのが難しい現状があります。そこで、風やゴムを使って車を動かしたときの気付きや考えたことを確実にノートに書き留めることが大切となります。また、数値で表された表から分かることをまとめていくことに難しさを覚える児童も見られます。ここでは、風やゴムの手応えを十分に自分の体感を通して感じ取れるようにすることが必要です。

■思考力・判断力・表現力を発揮させるポイント

1 変化するもの、変化させるものの関係をとらえることができるようにする

活用場面①、②では実験を通して、風やゴムの伸びと車の進んだ距離から、きまりを見つけていきます。風の弱いときと強いときの車の進んだ距離を想起させたり、風とゴムの伸びの様子から加える力の共通点をとらえることができるようにします。活用場面②での風とゴムの伸びについての2つの実験を比べて考える場面では、力の手応えを想起させ、それぞれの実験を振り返るように働きかけることから、児童の言葉でまとめができるように支援します。いずれの場合も実験を通して、風やゴムの力を体感することから実感を伴った理解が生まれます。

2 条件を制御する学び方を経験させる

風の強さと車の走行距離について調べる活用場面①では、最初は下敷きを使って遠くへ走らそうとします。グループごとに結果を話し合うことを通して、安定した風力を送る必要が生まれます。ここに送風機を使う必然性が生まれます。また、ゴムの伸びと車の走行距離の実験でも、ゴムを伸ばす長さやゴムの太さなどをグループや学級全体でそろえておくことが、実験後のデータから考察を行う際に大切になります。実験の条件を制御する必要のある場を設定し、その必要性を経験させることもこの時期の児童に必要と考えます。

■単元の指導計画（全8時間）

1次 風の強さとウインドカーの走行距離との関係を調べる。（4時間）

- ・ウインドカーを製作し、当てる風の強さを変えて走行距離を調べる。

2次 ゴムの伸びと車の走行距離との関係を調べる。（4時間）

- ・ゴムの伸びを変え、走行距離を調べ、風で動く場合と比べながら、風やゴムの働きをまとめる。

【参考資料】 初等理科教育2008 Vol42 No.5 3年「風やゴムの働き」

4年生「水のすがたとゆくえ」 <11月>

◆単元の目標

- ◎水は温度によって水蒸気や氷に変わるという、水のすがたの変化についての見方や考え方を、観察・実験を通して養う。
- 水を熱したり冷やしたりしたときの変化に興味をもち、水を熱したときの様子や沸騰するときの温度、水が氷になるときの温度を調べて記録することができる。
- 水のすがたの変化を温度と関係付けて考え、説明することができる。
- 水の自然蒸発について、身近な経験や観察事実などから水のゆくえを進んで予想し、実験で確かめることができる。
- 水は熱を加えると蒸発して水蒸気になることや、冷やすと結露して再び水になったり氷になったりすることを理解する。

◆提案する授業

本単元は、温度によって水蒸気や氷にすがたを変える、水のすがたの変化についての見方や考え方を、観察・実験を通して養います。単元の活用場面は、水の自然蒸発という事象について、身近な経験や観察事実などから進んで水のゆくえを予想し、実験で検証し、それを熱の働きと関係付けて考察する場面です。仮説を立てて検証する場面では、主体的に問題を解決するために、習得した知識を組み合わせる力や判断力が発揮されます。また、水のすがたの変化を考察し、文章でまとめる場面では、論理的に説明する思考力や表現力を育てることができます。

活用場面6～10時間（全10時間）

●単元での活用場面	●指導を進めるに当たって
<p>【活用場面①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●水のゆくえについて、仮説を立て実験方法を考え、検証し、結果をもとに考察する。 <ul style="list-style-type: none"> ・消えた水がどこへ行ったのか疑問をもち、仮説を立て実験で検証する。 ・実験結果をまとめて発表し、結論をまとめる。 【発揮させたい思考力・判断力・表現力】 <ul style="list-style-type: none"> ・雨水の行方について仮説を立て、調べる方法を予想すること。 ・実験結果を整理して絵や言葉でまとめること。 ・変化するものとさせるものとの関係をとらえること。（水の蒸発と熱の働きとの関係） <p>【活用場面②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実生活の中での水の変化にかかわるさまざまな事象について説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・水が消えたり、なかった水が表れたりする現象を考える。 ・その現象について説明する。 【発揮させたい思考力・判断力・表現力】 <ul style="list-style-type: none"> ・事象と水が蒸発する実験との共通点や差異点に着目すること。 ・水のすがたの変化を熱の働きと関係付けて、説明すること。 	<p>【問題意識を持たせるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水槽の水が徐々に減っていく写真やコンクリートにたまった水が数時間後になくなっていく写真などを提示し、その違いから水はどのように消えたか疑問をいただくようにする。児童の自由な発想を大切にしながら、水がしみこんでいくのではないことを確認する。 <p>【問題解決能力を高めるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説を立てる場面では、「水は本当に消えてしまったのかな？」「今まで学んだ内容と関係はないかな？」、実験方法の立案の場面では、「今まで学んだことを用いて調べる方法はないかな？」など、考えるための視点を与える。 ・既習事項と結びつけて考えることができるよう、水の加熱実験の結果や天気による一日の気温の変化を写真や言葉でまとめたものを掲示しておく。 ・具体的な実験方法を立案することは児童にとって難しいので、自由に考えさせた後、教師が考え方を説明してサポートする。 <p>【日常生活との関連を図るため】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・似たようなことがなかったか考えたり、その現象の起こるわけを考えたり、問題に答えたりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈自然現象の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぬれた洋服がいつの間にか乾いている。 ・雨が降っていないのに、朝になると車がぬれていることがある。 ・冬になると窓ガラスが曇り、指で絵をかくとぬれる。 ・天気のいい日と悪い日で洗濯物の乾き具合が違うのはどうしてか。 ・洗濯物を早く乾かすにはどうしたらよいか。それはなぜか。 </div>

■活用場面のとらえ

発揮させたい思考力・判断力・表現力	活用する知識・技能、考え方
【活用場面①】 ●仮説を立て実験計画を立て実験で検証し、考察する。 ・雨水の行方について仮説を立て、調べる方法を予想すること。 ・実験結果を整理して絵や言葉でまとめること。 ・変化するものとさせるものとの関係をとらえること。 (水の蒸発と熱の働きとの関係)	・水の沸騰実験の結果(水を沸騰させると水蒸気になり空気に含まれたこと、冷たい水を入れた試験管に、一度空気に含まれた水蒸気が冷やされて結露したこと) ・実験結果の考察の書き方(予想を書く、実験結果を絵や言葉で適切に表現する、結果から結論を導き出す)
【活用場面②】 ●実生活の中での水の変化にかかわるさまざまな事象について説明する。 ・事象と水が蒸発する実験との共通点や差異点に着目すること。 ・水のすがたの変化を熱の働きと関係付け、説明すること。	・水はあたためると水蒸気になり、冷やされると水に戻る。 ・根拠にもとづき、筋道を立てて説明したり文章で表したりすること。

学級の児童の実態「実験の結果を論理的に考え、文章で表すこと」

児童の実態を見ると、理科の活動に対する興味は高く、実験や観察をして、目に見える現象について表現することはできます。しかし、その奥に隠れている性質や規則性を見つけることや、見つけたことを科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりすることが苦手です。主体的に事象にかかわる問題解決の学習を行い、その過程の中で常に既習事項を振り返ったり、思考の型を活用した言語活動を組み入れたりすることで、科学的な思考力を育てていくことができるものと考えます。

■思考力・判断力・表現力を発揮させるポイント

1 問題解決ができるような単元構成の中で考えるための視点を与える発問を工夫する

思考力・判断力・表現力を育成するためには、子どもが主体的に自然事象にかかわる問題解決活動を行うことが必要です。活用場面①は、ア 子どもが問題を見出す、イ その問題となる事象を説明するための仮説を発想し、発想した仮説の真偽を確かめるための実験方法を立案・実行する、ウ 実験結果を考察する、という3つの場面からなります。この一連の学習過程の中で思考力・判断力・表現力を発揮させるには、教師の発問が大切になります。「どう思う?」「考えなさい」という発問ではなく「この2つの写真を比べてごらん」「前に学んだ内容と似ていないかな?」など考えるための視点を与えることが適切な支援となります。

2 科学的に考える話し方の話型を利用して、表現力を育てる

仮説を検証する実験の立案や実験結果の考察をする際に、書き方モデル(型)を与え思考の型を身に付けるよう指導していきます。「わたしは〇〇という予想をしました。理由は・・です。」「もし〇〇ならば△△だから、◇◇すれば確かめられる」などの話型を利用することにより、4年生で必要とされる問題解決能力の「関係付けながら調べる」力が育ってくるのが期待できます。話す場や書く場でも繰り返し習得させたい技能といえます。

■単元の指導計画(全10時間)

1次 水は熱しつづけるとどうなるか(5時間)

- ・水を沸騰させる実験を行い、実験結果から水の様子の変化を温度と関係付けて説明する。

2次 雨水はどこへ行ったのだろう(3時間)

- ・これまでの学習や経験から雨水のゆくえを予想し、実験により検証する。

3次 水はひやされるとどうなるのだろう(2時間)

- ・水が氷になる様子を観察する。

【参考資料】楽しい理科授業2008 7月号(明治図書)

VIEW21 2008秋号(Benesse)

新しい理科教師用指導書(東京書籍)

5年生「天気と気温の変化」 <5月> 平成22年度より、「1日の気温の変化」は4年生の内容となります。

◆単元の目標

- ◎気象情報や観測結果を選択したり活用したりしながら、天気の変化のきまりを見つけ、天気を予想する活動を通して生活に生かす力を育てる。
- 天気の変わり方と気象情報に興味をもち、それらの関係について考えたり調べたりしようとする。
- 観測結果や気象情報を使って、天気の変化のきまりに気づき、天気の変化を予想することができる。
- 天気の様子を観測したり、気象情報を調べたりして、結果を記録することができる。
- このごろの天気は西から東へと変化する場合が多いこと、天気の変化は観測の結果や映像などの情報を用いて予想することができること、1日の気温の変化のしかたは、天気によって違いがあることを理解する。

◆提案する授業

単元では「天気の変化の仕方にきまりはあるか」を課題として、気象情報をもとにして調べます。数日間の気象衛星の雲写真やアメダスの雨量情報、自分の観測結果をもとにして、雲の動きと天気との関係についておおまかなきまりがあることを見いだします。この単元での活用の場面は、気象情報や観測結果から天気を予想する場面と天気の変化のきまりを生活に役立てる2つの場面があります。気象情報や観測結果から天気を予想する場面では、判断に必要な情報を取捨選択する思考力・判断力・表現力が発揮されます。また、天気の変化のきまりを生活に役立てる場面では、自分が見つけた天気の変化のきまりを観天望気や数時間後の天気の変化の様子に当てはめようとする際に思考力・判断力・表現力が発揮されます。

活用場面 3～4時間（全10時間）

●単元での活用場面	●指導を進めるに当たって
<p>【活用場面①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●雲写真とアメダスの雨量情報から気象情報を読み取る。 ・気象衛星の雲写真とアメダスの雨量情報から雲の動きと天気との関係を読み取る。 ・数日間の天気の変化を考える。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を取捨選択すること。 ・観測結果や気象情報をもとにして、数時間後や明日の天気を予想すること。 ・情報や観測結果を表にまとめること。 <p>【活用場面②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●天気の変化のきまりから生活を生かす。 ・地域に伝わる観天望気が当たる理由を考える。 ・数時間後、数日後の天気を予想するための情報や観測について考える。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観天望気の妥当性を気象の変化と関係づけてとらえること。 ・気象条件から天気の変化を予測すること。 	<p>【課題解決のための観測方法を考えるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数日間の雲写真と雨量情報、天気を提示し、きまりを見つけるために必要な情報を与えるようにする。 ・新聞やテレビ、インターネットなどの天気の変化を知ることのできる情報について調べられる環境をつくる。 ・数時間後の天気や、限られた地域の天気の予想は、自分たちの観測結果が役立つ事を知らせ、意欲をもたせる。 ・観測した結果のまとめ方でよいものを提示する。 ・数日間、観測と天気の予想を行う時間を設ける。 <p>【気象情報を読み取るために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間の経過と雲の動きに着目できるようにする。 ・雲の動きと風向・風速が関係していることに気付かせたい。 ・予想する理由が明らかになるように支援する。 <p>【天気の変化のきまりを生活に生かすために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気に関する地域の言い伝えを祖父母などから聞き取らせておく。 ・地形（山や海）と方位が分かる地図を用意し、天気の変化のきまりがあてはまるか考えられるようにする。 ・数時間後の天気を予想するには、テレビや新聞の情報よりも、自分たちの観測の方が確かであることを判断させ、意欲をもたせる。 ・数日後の天気を予想するには、広い範囲を対象とした気象衛星の雲写真の動画が有効に使えることが分かるようにしていく。 ・山や海での気象変化を的確に予想することが、身を守る上で大切な場合があることを考えられるようにする。

■活用場面のとらえ

発揮させたい思考力・判断力・表現力	活用する知識・技能、考え方
【活用場面①】 ● 気象情報を読み取る ・必要な情報を取捨選択すること。 ・観測結果や気象情報をもとにして、数時間後や明日の天気を予想すること。 ・情報や観測結果を表にまとめること。	・自分の目的に応じた情報の取り出し。 ・雲写真と雨量情報との関係。 ・天気は西から東へ移り変わる。
【活用場面②】 ● 天気の変化のきまりを生活に生かす ・観天望気の妥当性を気象の変化と関係づけてとらえること。 ・気象条件から天気の変化を予測すること。	・天気が崩れる場合の雲の様子や気圧の関係。 ・上越市や自分の身の回りの地形条件と風や雲の動き。

学級の児童の実態「情報を選択・活用することから変化のきまりを読み取ること」

天気の様子を調べる活動では、多種類で大量な情報が学習の対象になります。それらの情報は、子どもにとって見なれていたり、容易に解釈できたりするものもあれば、内容が高度だったり解釈しにくかったりして、学級の子どもの適していない情報もあります。そこで、これらの情報の中から、どれを提供するのかを指導者が選択するだけでなく、子ども自身が自分の必要とする情報を選択し、整理し、加工するなどしていくことが大切です。「いろいろな情報から判断して、自分はこう考える」というように、自分らしい根拠をもって予想する力を身につけさせていくことが大切です。

■思考力・判断力・表現力を発揮させるポイント

1 自分の感覚を通して得た情報（観測）のよさを実感させる

活用場面①で示される気象衛星の雲写真は、西から東へ動くようすがよく分かります。しかし、子どもたちが観測する風向はこの動きと必ずしも一致しません。地形の違いによって、その地域に特有の風が吹いたり気象現象が起きたりするからです。そこで、「自分たちが観測することの重要性」を強調することが大切です。天気予報では、広い地域が対象であり、より詳しい天気を予想するには、そこに住んでいる人の観測が一番頼りになることを考えさせましょう。その意味で、地域に伝わる天気に関する言い伝えを科学的に考えていくことは、郷土の先人の知恵とそのすばらしさを学ぶ絶好の機会になります。

2 学習で得た知識を地域の特色と重ね合わせることで、基礎的・基本的内容の定着を図る。

妙高山の「はね馬」や南葉山の「種まき翁」は、先人が農作業を進めるうえでの大切な指標となりました。天気が農業と大きく関わり、生活を豊かにしていることや、時には災害を引き起こすこと（台風と天気の変化で学習予定）にもふれていきます。また、日本有数の豪雪地である上越市の雪がどのような気象条件で降っているのか雲の動きや地形的な特徴を関係づけながら考えられるようにさせていきます。気象衛星の雲写真で考える大まかなきまりをもとにして、上越市という地域で特有に引き起こる気象現象について学び、定着させていきます。

■単元の指導計画（全10時間）

1次 天気を予想し、きまりをみつける（6時間）

- ・天気の様子を調べる方法を知り活用の仕方を考える

2次 1日の気温の変化を調べる（4時間）

- ・天気と気温の変化について関係づける

【参考資料】新しい理科 教師用指導書（東京書籍）

小，中学校学習指導要領解説 理科編（文科省）

■活用場面のとらえ

発揮させたい思考力・判断力・表現力	活用する知識・技能、考え方
【活用場面①】 ●観察、実験ごとに自分の考えをレポートに書く。 ・自分で問いを立てながら観察、実験を振り返る。	・分かったことや感じたことを書くこと。(総合的な学習の時間) ・観察、実験結果から結論を導き出すこと。(小6「ものの燃え方と空気」「動物のからだのはたらき」「植物のからだのはたらき」)
【活用場面②】 ●地層のでき方を推論して自分の考えをレポートに書く。 ・得た結論に対して、何を根拠にそう考えたのか論理的に考え表現する。 ・推論する地層を選び、変化するもの・変化させるものの関係に着目すること。	・観察、実験結果から推論すること。(小6「ものの燃え方と空気」「動物のからだのはたらき」「植物のからだのはたらき」) ・浸食・運搬・堆積の流れる水の働き。(小5「流れる水のはたらき」)

学級の児童の実態「観察、実験の結果を整理してまとめること」

児童は、総合的な学習の時間を通して、対象をよく見る目、変化を感じ取る目が養われており、短い時間にある程度の量の文章を書くことができるようになっていきます。理科でも、観察、実験結果から分かったことを文章でまとめる経験を積み重ねています。また、単元「ものの燃え方と空気」では、気体検知管や石灰水等を用いた実験により、目に見えない気体をモデル化して、物が燃える前後の気体の変化を推論する活動を行っています。これらの活動を通して、レポートを書くことに慣れてきています。今後は、「なぜそう考えのか」結論と根拠を明確にすること、また、読み手に分かりやすく説明する表現方法を習得させる必要があります。

■思考力・判断力・表現力を発揮させるポイント

1 レポートの書かせ方の工夫

レポートは長く書かせます。レポートを長く書くためには、自分の頭の中にあるあらゆる情報を駆使しなければなりません。あえてそのような状況をつくることで、児童は様々なことを考えます。例えば対象物を見たときの気付き、疑問、驚きや、過去の経験との関係などが考えられます。また、総合的な学習の時間を通して、対象について分かったこと、感じたこと等を日常的に書き綴っていくことで、理科でもその表現力を発揮することができます。

2 行った観察、実験を総合して推論することで、基礎的・基本的内容の定着を図る。

地層の構成物の調査、水の働きによる堆積実験など、個々の観察、実験でそれぞれ分かったことをレポートに書き残しています。これらを読み返しながら活動を振り返り、その後地層のでき方を推論します。この時、児童はそれまでに得た知識・技能、考え方(例えば「地層は小石、砂、粘土でできていること」「水の中で、重い物は速く沈むこと」「地層の外側から力が加わると地層の形が変わること」など)を総動員して推論します。また、友達と意見交流を行うことで、妥当性を確かめます。このように、推論したことをレポートでまとめていくことで、獲得した知識や経験を再構成し定着させていきます。

■単元の指導計画(全15時間)

1次 大地はどのようなものでできているか(1時間)

- ・地層は、小石、砂、粘土などが層になって積み重なったものであることを知る。

2次 地層はどのようにしてできるのか(4時間)

- ・水の働きでどのように地層ができるか調べる。
- ・火山の働きでできた地層の特徴を調べる。

3次 私たちが住む大地はどのようにしてできたのか(10時間)

- ・地層を観察し、どのようにこの地層ができたのか推論する。
- ・地震や火山の噴火による大地の変化の様子について調べる。

【参考資料】新しい理科 教師用指導書(東京書籍)

1年生「身のまわりの物質とその性質」 題材「身近な物質で発生する気体を調べよう」 <11月>

◆単元の目標

- ◎グループの話し合いに基づき、実験計画を立て意欲的に実験に取り組み、実験から得られた結果をまとめ、発表できる。
- 気体の性質について関心を持ち、気体を取り扱うために必要な技能と知識を身につける。
- 気体を発生・捕集し、気体の性質を調べることができる。
- 実験を通して調べた気体の性質をもとに、気体が何かを特定することができる。

◆提案する授業

本単元では、実験を通し身のまわりの物質の性質を調べるのに必要な基礎的な実験技能を身につけます。実験を通して、固体や液体、気体の性質、物質の状態変化について理解させるとともに、物質の性質やその変化の調べ方など基本的な学習内容の定着を図ります。単元の活用場面は、グループで身の周りの物質をつかって気体を発生させる実験を計画する場面、また、実験の結果をまとめ考察し発表する場面です。グループでコミュニケーションを図りながら、見通しをもって実験を計画したり、他のグループの発表と自分たちの結果を比べたりする思考力・判断力・表現力が発揮されます。

活用場面 7.5～9時間（全9時間）

●単元での活用場面	●指導を進めるに当たって
<p>【活用場面①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループごとに実験計画を作る。 ・身近な物質を使った気体の発生方法、発生する気体を予想に基づく捕集方法・特定するための実験方法を考える。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとにコミュニケーションを図りながら実験の見通しをもつこと。 ・話し合いで検討した実験方法をレポートに図や説明文で書き示すこと。 <p>【活用場面②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実験計画に従い、グループごとに気体を発生させて集め、性質を調べる。 ・コミュニケーションを図りながら正しい操作に着目すること。 ・実験で気付いたことや結果を整理してまとめること。 ●実験結果をまとめ、発表する。 ・班ごとに話し合いをし実験結果から気体を特定する。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験結果をグループで話し合い気体を特定するとともにその根拠を考えること。 ・実験結果を話し合い、文章にまとめること。 	<p>【主体的な探求活動を展開するために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が興味・関心を持てるように、身近な物質を用いた気体の発生方法を考えるようにする。自ら考えられない生徒のために、いくつか発生方法を提示できるように準備する。 ・ワークシートを用意し、気体の発生方法、気体の捕集方法、調べ方、手順などをまとめられようにする。図や表などを活用し、他の生徒にもわかりやすいように記入できるようにする。 <p>【課題の決定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の希望にもとづき、気体の発生方法を決定したい。その際、実験に必要な薬品や発生する気体は毒性や危険性のないものであれば生徒の希望を生かしたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><発生方法の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発泡入浴剤にお湯を加える。 ・貝殻に塩酸を加える。 ・マンガン電池の粉にオキシドールを注ぐ。 ・教科書に掲載されていても授業で扱っていない方法 </div> <p>【活発なコミュニケーションのために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験計画を話し合うときの視点を明示する。（発生方法、発生する気体の予想、捕集方法、その気体を特定する方法、実験に必要な器具等） ・話し合いでは、はじめに自分の考え（結論）を述べ、次に理由（根拠）を述べるよう指導する。 ・レポートには、あらかじめ自己評価項目の他に、グループのメンバーの評価項目を入れておく。

■活用場面のとらえ

発揮させたい思考力・判断力・表現力	活用する知識・技能、考え方
【活用場面①】 ●グループごとに実験計画を作る。 ・班ごとにコミュニケーションを図りながら実験の見通しをもつこと。 ・話し合いで検討した実験方法をレポートに図や説明文で書き示すこと。	・気体の性質の調べ方、気体の集め方、水への気体のとけ方と質量の比。(中1年：目に見えない気体を区別するには) ・燃焼と酸素・二酸化炭素の性質(小6：植物)
【活用場面②】 ●実験結果をまとめ、発表する。 ・実験結果をグループで話し合い気体を特定するとともにその根拠を考えること。 ・実験結果を話し合い、文章にまとめること。	・調べる方法・結果を図や表をもとにレポートに書き表すこと。(総合的な学習の時間等) ・気体の性質。 ・視聴覚機器などを用いた発表の仕方。

学級の生徒の実態「コミュニケーションを図りながら課題を追究すること」

中学校では、グループで実験・観察を進めることが多いことから、少人数で話し合う場を重視します。生徒の実態からは、言語活動は必ずしも容易ではない場合もあります。そこで、観察・実験の場を通してコミュニケーション能力の育成を図るようにします。また、振り返りを発表する場を通して、表現力を培うとともに学びを共有することも大切です。日頃の授業から、意見発表の場を大切にし、自分の考え(結論)を述べてから、理由(根拠)を説明するなどの発表の仕方を指導しておく必要があります。

■思考力・判断力・表現力を発揮させるポイント

1 基礎的・基本的内容を定着させる。

本単元の前に、生徒に主な気体の発生方法・捕集方法・気体の性質の調べ方を徹底して学んでおく必要があります。簡単な実験を通して気体の取り扱いになれるとともに実験操作の基礎・基本の定着を図ります。目的の気体を集めるには、既習の気体をもとに予想し、水に対するとけ方と気体の密度を考えて実験計画を立てるようにします。このような学習の進め方は2年時の「物質どうしの化学変化」で化学現象を学習するとき定性的に分析するのに必要な手だてとなります。

2 既習事項を活用しコミュニケーションをとりながら学びあう場を設定する

生徒の興味・関心に基づく課題解決的学習を設定しました。気体の発生方法、捕集方法、気体の性質を扱った経験を想記しながら、自分の意見と他の意見を交流させ、実験の見通しを立てて計画する場を大切にします。また、実験レポートをグループ活動を通して書く場面では、友達と交流しよさを学ぶようにすることから、書く力の向上をはかります。予想した気体と別の気体が発生したり、捕集できなかつたりすることも予想できます。そこときこそ、コミュニケーションをとりながら実験を修正したり、失敗の原因を究明したりする場をとらえ、さらなる追求を促します。

■単元の指導計画

身のまわりの物質とその性質

1次 身近な固体を区別しよう。(9時間)

・金属と非金属を区別するには ・金属どうしを区別する。(質量・密度) ・有機物を区別する。

2次 目に見えない気体を区別しよう。・気体を発生させてその性質を調べよう。

【参考資料】小、中学校学習指導要領解説 理科編(文科省) 習得・活用・探究の授業をつくる(三省堂)
 「活用型」学習をどう進めるか(教育開発研究所)

2年生「物質どうしの化学変化」 題材「化学変化が起きるとき、物質の割合はどうなっているか」 <2月>

◆単元の目標

- ◎実験結果をモデルで考えたりグラフにまとめたりすることにより、化合のきまりを考えることができる。
- 2種類の物質を化合させる実験を進んで行い、反応の前後の物質の性質を調べようとする。
- 化学変化に関係する物質の質量を測定する実験の結果を分析的に考察し、化学変化における物質の質量の関係を見いだすことができる。
- 化学変化の質量を注意深く測定したり、何回かの実験データから結果を考察したりする方法を習得するとともに、自分の考えを導き出した実験のレポートを作成し、発表することができる。
- 化学反応の前後で物質の質量の総和が等しいこと、一定の質量の物質に反応する物質の質量には限度があり比例する事を理解する。

◆提案する授業

単元では「金属に酸素はどこまでも化合するか」を課題として、一定量の金属を加熱し質量の変化を調べます。金属を何回か加熱すると質量の増加が止まる事から、一定の金属に化合する酸素の質量には限界があることを見いだします。さらに、化合する金属と酸素の質量の割合は常に一定であることを見いだします。

この単元の活用の場面は、測定した結果を整理する場面と実験結果を基に科学的事実を求める2つの場面があります。測定した結果を整理する場面では、実験結果をグラフ化することやグラフの結果をモデルで表す過程で思考力・判断力・表現力が発揮されます。実験結果を基に科学的事実を求める場面では、グループごとに測定した金属と化合する酸素の質量の測定結果からきまりを見いだそうとする思考力・判断力・表現力が発揮されます。

活用場面 9～11時間（全11時間）

●単元での活用場面	●指導を進めるに当たって
<p>【活用の場面①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実験結果を読み取る ・グラフの結果から銅と化合した酸素の関係を読み取る。 ・結論を裏付けるモデルを考える。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・測定点をもとにグラフの線を引くこと。 ・グラフの特徴を読み関係を見いだす。 ・グラフの変化をモデルに当てはめて説明すること。 <p>【活用の場面②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●金属と化合する酸素のきまりを考える。 ・各グループの実験結果をもとに、銅と化合する酸素の質量の関係をグラフで表す。 ・銅と化合した酸素の質量のきまりについて考える。 <p>【発揮させたい思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの実験結果をグラフで表すこと。 ・複数のグラフから金属と化合する酸素の質量のきまりを見いだすこと。 ●マグネシウムについても同様に調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「銅に酸素はどこまでも化合するか」を課題に銅を加熱する実験計画を立てる。 ・実験計画を立てるに当たっては、質量が重要なポイントである事を意識させ、実験で注意すべき事を考えるようにする。 ・測定した結果のまとめ方を考えるようにする。 ・グループごとに銅の質量を変えて実験を行う。 <p>【実験結果を読み取るために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・測定点をもとにグラフの線の書き方を考えるようにする。 ・その場合、比例のグラフにはならないことを確認しながら、測定点の並び方全体を見渡しながらかくようにする。 ・グラフがやがて平らになる意味を考えさせる。 ・考えを裏付けるために、化学変化をモデルで表すようにする。 ・モデルは、加熱前、質量が増加しているとき、質量の増加がみられなくなったときと場合を分けて表すようにする。 <p>【金属と化合する酸素の決まりを考えるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銅の質量が違う各グループの実験結果を集めグラフを作成する。 ・測定点をもとに銅と酸素の質量の関係を予想し、グラフの線を引く。 ・グラフから求められた結果をもとに銅の質量と化合する酸素の質量の比を求める。 ・銅と酸素の関係をもとに、マグネシウムと化合する酸素の質量の関係について予想する。

■活用場面のとらえ

発揮させたい思考力・判断力・表現力	活用する知識・技能、考え方
【活用場面①】 ●実験結果を読み取る ・測定点をもとにグラフの線を引くこと。 ・グラフの特徴を読み関係を見いだすこと。 ・グラフの変化をモデルに当てはめて説明すること。	・実験・観察の測定値を表やグラフにまとめること。 (小4：金属、水、空気と温度、天気の様子、 中1：力と圧力、状態変化、中2年：電流) ・物質を粒子で表すこと。(中1年：水溶液、状 態変化、中2年：化学変化と原子)
【活用場面②】 ●金属と化合する酸素のきまりを考える ・グループの実験結果をグラフで表すこと。 ・複数のグラフから金属と化合する酸素の質量のきまりを見いだすこと。	・測定値の関係をグラフで表すこと。(小4：金属、 水、空気と温度、天気の様子、中1：力と圧力、 中2：電流) ・化学変化を物質の比で考えること(中2：化 学変化と原子・分子)

学級の生徒の実態「実験のデータをグラフ化し、科学的事実を読み取ること」

小学4年の「金属、水、空気と温度」「天気の様子」で測定値をグラフで表すことを学びます。また、中学1年の「バネの伸び」で比例のグラフの線の引き方を学びます。2年の「電圧と電流の関係」ではさらにグラフから2つの量の関係を求めたり、データを読み取ったりします。生徒は測定した個々のデータにとらわれ、作成されたグラフから2つの量の関係にまで目がいけない傾向があります。グラフに表す事によって、まだ測定していない実験までも予想できるよさを感じ取らせる事が大切です。測定値からさらに視点を広げ作成されたグラフ全体を見渡し、グラフの変化の様子や2つの量の関係に目が向けられるようにすることが大切です。

■思考力・判断力・表現力を発揮させるポイント

1 グラフから未実験の結果を予測したり、2つの量の関係を読み取ったりする。

場面①のグラフは比例のグラフにはなりませんが生徒は比例の線を引こうとします。測定点から関係の線を引くとき、測定点全体の様子を考えるようにすることが大切です。さらに、このグラフの各変化の時点で起こっている化学変化のモデルを考えることにより、加熱回数を増やしても質量の増加がしなくなってくる理由や、さらにこれ以上加熱しても質量の増加はしないだろうという予測の理解が深まります。場面②は質量の違う銅粉を加熱した各班のデータを集めグラフにする場面です。実験誤差や、加熱不足から比例のグラフが得られにくい実験ですが、場面①で考えたモデルをもとに、比例のグラフになることを予想させながらグラフを作成させます。比例のグラフの線上から大きくはずれたデータがある場合には、理想的なデータにならなかった理由を考えさせることも大切です。

2 習得場面での基礎的・基本的内容の定着を図る。

小学4年の「金属、水、空気と温度」「天気の様子」で測定値をグラフで表すことを学びます。中学1年の「力の大きさとはばねののび」では測定点の関係を読み取り線を引く方法を学びます。グラフで表すことにより、2つの量の関係を導き出すことができます。さらに線を引くことにより行っていない実験の測定値を予測することができます。測定値を「表にまとめる」では読み取れない「未実験の予測」や「2つの量の関係を知る」良さがグラフにはあります。また、このことをさらに「1年状態変化：物質の融点と沸点、2年電流：電流・電圧・抵抗」で学び定着させていきます。

■単元の指導計画(全11時間)

物質どうしの化学変化

1次 物質どうしの結びつき(4時間)

・化合とは ・燃えるとは

2次 化学変化と物質の質量(4時間)

・質量保存の法則 ・化学変化を記号で表す

3次 化学変化と物質の質量の割合(3時間)

【参考資料】新しい科学教師用指導書(東京書籍) 小, 中学校学習指導要領解説 理科編(文科省)

3 上越らしさを学ぶ「ふるさと学習」

(1) 教科等で学ぶ「上越らしさ」

「ふるさと学習」は、上越の人や環境を各教科・道徳の時間等で学ぶことからふるさとを愛する心情をはぐくみます。国語科「わらぐつの中の神様（杉みき子作）」を中心とした発展学習（小学校第5学年）、社会科「上杉謙信公学習」（小学校第6学年）を参考例として、上越らしさを学ぶ実践を示します。

■「ふるさと学習」で目指すもの

ふるさと学習を通して期待することは、ふるさと上越を愛する心情を児童生徒に育むことです。「上越の地に生まれ育ち、学ぶことから、ふるさと上越のよさをしっかりと受け止め成長してほしい」ふるさと学習は、上越市で学ぶ児童生徒へのこうした願いから出発しています。上越市を代表する学習材や各地域にある地域素材を学ぶ中から、児童生徒の心にしっかりとふるさとのよさがとらえられ、授業後も心に印象深く残るような学習活動。ふるさと学習はそうした学習を目指しています。

■上越らしさを学ぶふるさと学習

ふるさと学習では、児童生徒が「上越らしさ」を学ぶように学習を進めます。

「上越らしさ」とは、上越の人や環境が織りなす風土が生むものであり、上越で暮らす私たちが魅せられた愛着でもあります。

上越らしさを学ぶには、学習材として次の要件が必要となります。

『合併により広がった新市上越市、および各小中学校周辺の「人」や「環境」で、各学年・各教科の指導内容を内包し、児童生徒が学ぶことから、ふるさとのよさを感じ愛着を持つことができる学習材』

上越らしさを学ぶ学習材には、広域になった全市のシンボルとされるものと各地域にある「人」や「環境」があります。

実践事例として示した杉みき子さんの「わら靴の中の神様」や「上杉謙信」は共に上越市のシンボルとなる学習材といえます。ふるさと学習は、各教科・道徳の中で、上越の人や環境に

ついて体験を通して学ぶよう活動を構想します。教育課程全体からみれば、総合的な学習の時間と共に各教科等の中で上越の風土が生んだ人や環境を学ぶことから、児童生徒に上越のよさを学ぶ機会を充実させることができます。

今後、各校で校区や身近な地域にある学習素材をもとに、ふるさと上越を愛する心情をはぐくむ学習活動を一層進めることを期待します。

■ふるさと学習で大切にすること

ふるさと上越を愛する心情は教師が教えるものではありません。児童生徒が心を揺さぶるような学習活動を意図的に仕組むことから彼らの心の中に次第に培われていくものと思います。今後、価値ある体験が児童生徒のふるさとを愛する心情の育成にどのようにかかわっていくのか、さらに検討を加える必要があります。

実践例では、この課題をふまえ、次の2点を重視し、活動の構想を試みています。

○単元で学ぶ上越らしさを明らかにする

実践例では、単元を通して児童生徒が学ぶ上越らしさについて明記し、学習活動を設定しています。上越らしさを明らかにすることは、上越の人や環境を学ぶ時、児童生徒がどこに着目し、どのような価値を見いだすのか、指導の見通しを明らかにすることにつながります。

○自分らしい見方や感じ方を大切にすること

ふるさと学習では、上越の人や環境についての知識を学ぶとともに、人や環境から考えたことや感じたことを大切にします。実践例では、地域の作家の作品や歴史的な人物の業績や生き方を学びながら、自分らしい意味を見つけ、それを積むことからふるさとを愛する心情が育つ過程を大切にしていきます。

(2) 国語科 郷土の作家の作品から学ぶ「ふるさと学習」

～杉みき子作品群の教材化の事例をもとに～

実践例では、小学校5年生の「わら靴の中の神様」の実践を示しました。郷土の作家の作品を発展的に読む学習活動を通して、登場人物の心情や舞台となる上越の風土のよさを感じ、上越らしさをはぐくむ学習活動を展開します。

■杉みき子さんの言葉から

杉みき子さんは、「風土がくれた物語」(明治図書：実践国研究No.216)の中で、著作について次のように言います。

「私の書くものは、風土が授けてくれたものだと思います。この土地の、山も川も海も、雪も風も雲も、草も木も古い建物も、鳥も虫もそして死者たちも、みんなそれぞれの物語を持っている。でもかれらは今のところ日本語を話せないのが私たちがそれらの話を勝手に自分の言葉で翻訳して、人々に読んでもらっている。だから私の作品は、いわば風土との合作なのです。」

杉みき子さんの作品の舞台の多くは上越市(旧高田)が中心となります。作品には、そこに住む人々の季節の中で生き生きと過ごす姿が背景の事物とともに美しく描かれています。杉さんがいう「風土との合作」を上越市に暮らす児童生徒が感じることができたなら、自分たちの郷土への愛着が一層確かなることと思います。

■国語科で大切にすること柄

国語科では、郷土の作家の作品を読み進めていくために、次のようにねらいを設定しています。『上越を代表する作家の作品を学年の発達や学習内容に応じて読み進めることから、作品のよさを読み味わうとともに作者の人となりや作者が愛した上越のよさを感じ、ふるさと上越への想いを確かにする。』

作品を読み、それが児童生徒の心情に変容をもたらすためには、作品の個性とともに作者の想いや背景にある風土への気付きも必要です。そこでは、指導内容にある物語文の読みの目標に加え、作者の作品への想いや登場人物の行動や考えを生む風土を学年の発達に応じて読み取

るようにすることも大切です。実践例では、次の事柄を大切にしながら郷土の作家の作品を読み取ろうとしています。

■美しさを感じとる場を大切にすること

作品の美しい表現に触れ、美しいと感じる箇所、主人公の生き方に感動を覚える箇所、郷土の作家の作品からはそうした箇所を見つけることができます。そこでは、自分が心ひかれた箇所がどのような表現に支えられたのかを考えることで、対比や比喩表現を知ることになります。また、読解指導の工夫に加え、児童生徒が一度は見たことのある作品の舞台となる町並みを想起させたり、作品の中で使われる「もの」を教室に持ち込んだりすることも、作品や登場人物に心を寄せることにつながります。

■発展学習の場を意図的に設定すること

図書館に揃えている郷土の作家の作品を読み進めたり、気に入った作品を紹介するブックトークを発展学習として位置付けるようにします。また、教師や読み聞かせの会の方からの読み聞かせを行ったり、作品のよさや作者の人となりや作者を専門家から聞く場を設定することも、郷土の作家を一層身近なものにし、自分で作品を読み進める機会をつくることにもつながります。

上越市出身の作家・杉みき子の世界

1 単元名 「風土がくれた物語 ～杉みき子の作品世界をさぐる～」

2 杉みき子と作品で学ぶ上越らしさ

- ・郷土の作家、杉みき子さんは、1930年新潟県高田市（現上越市）生まれで現在も同地に在住している児童文学者である。大手町小学校に在学中、小川未明が同窓と知り、衝撃を受け後に児童文学への道を歩む要因となった。現在も作品を発表しながら、講演会などさまざまな活動をしている。
- ・舞台となる場所が、上越市近郊である作品が多く、上越の自然・風土を作品の土台としている。妙高山や南葉山、また、市内の町並みやそこに暮らす人々の生活の様子や思いなど、氏の作品には上越を包む暖かさが上越らしさとなって読者の心に残る。子どもたちは普段生活している身近な場所が描かれた作品にふれることによって、ふるさと上越のよさに気付いていくことができる。また、どの作品にも、作者の上越に対する愛着を感じることができ、ふるさとを愛することの大切さにも気付いていくことと思われる。

3 ふるさと上越への思いを確かにする試み

5年生国語科の教科書に長年取り上げられてきた「わらぐつの中の神様」を単元前半の教材として学習し、後半は杉みき子さんの多くの著書の中から自由に選んで読む活動に取り組みせたい。

単元の前半と後半でふるさと上越への思いを確かにする試みを次の2点から構想する。

① 作品を読んで心惹かれる場面を明らかにする

「わらぐつの中の神様」は、読み手の注目のしかたに応じて、様々なおもしろさを見いだすことができる。現在→過去→現在といった構成の巧みさ、個性的な登場人物、小道具（わらぐつ、朝市、雪、雪げた、スキーなど）の味わい、登場人物の印象的なせりふなどたくさん要素をもっている。登場人物の心情の変化を読み取ることと合わせて、子どもたちが作品を読んで感じ取った心惹かれる作中の場面や会話、描写の様子を一人一人が明らかにできるようにしていく。さらに、作品を読んで子どもが感じたことや考えたことを話し合うことで、自他の違いに着目し、上越を舞台とする作品に対する愛着を高めていく機会とする。

② 発展学習の場を設定する

単元の後半では、杉みき子さんの作品を読み広げていく時間を保障する。ここでは、「わらぐつの中の神様」を読んで心に残った言葉や表現、季節などから、自分が読みを広げていくためのキーワードを決めるようにする。心に残ったキーワードから作品を探し、読み進めていくことで、自分が作品からもった印象を一層強くすることが期待できる。また、自分のキーワードを紹介したり、友達と読み終わった後でのブックトークを行ったりする場を設定し、作品に対する多様な見方や感じ方、杉さんの作品を読むことに一層関心を高めることができるようにする。

3 指導計画（全10時間・ふるさと学習として5時間）

第1次 「わらぐつの中の神様」を読もう。（5時間）

- ・単元のねらいを知る。登場人物やあらすじを確認しながら全文を読む。
- ・登場人物の考え方や生き方を読む。
- ・おばあちゃんの思い出話の前後でマサエの心情の変化を読み取る。
- ・「わらぐつ」「おみつさん」「若い大工さん」の関係に気をつけておばあちゃんの思い出話を読み取る。

第2次 杉みき子さんの作品を読もう。(2時間)

- ・読み広げていくためのキーワードを決めて杉みき子作品を数点選んで読む。
- ・読み広げていくためのキーワードとして、作品の構成・登場人物の人柄・イメージをかき立てる小道具、心に残る言葉や表現を選ぶ。
- ・読み広げていくためのキーワードに沿って読む中で、友だちに知らせたい内容や言葉などをメモする。

第3次 杉みき子さんの世界をさぐる。(3時間)

- ・ブックトークの準備をする。(あらすじや気に入った表現、キーワードなどをまとめる。)
- ・ポスターセッションのように、ブックトークする人と聞く人に分かれて、ブックトークを行う。
- ・活動全体を振り返り、杉みき子の上越に対する思いや考えなどを意見交流する。

4 上越らしさを学ぶ展開例(2・3次 6/10時間~10/10時間)

2次1時間目 「読み広げていくためのキーワードを決めて杉みき子さんの作品を読もう」

(1) 本時のねらい

「わらぐつの中の神様」での学習を生かし、読み進めていくためのキーワードを決め、作品を選ぶことができる。

(2) 評価規準

- ・学習のねらいを理解し自分の着目するキーワードを決めることができる。(関・意・態)
- ・読み聞かせの作品から印象に残った言葉や文章を選び出すことができる。(読む)
- ・メモの取り方を知り、メモを書くことができる。(書く)
- ・既習教材からキーワードを探し発表したり聞き合ったりすることができる。(話す・聞く)

(3) 展開にあたって

1次の学習を生かして、杉みき子作品によく登場するモチーフを探す活動である。

子どもは雪国上越らしい風物を挙げてくると思われる。ここでは、そうしたものが子どもたちの身の回りに自然と存在する物であることに気付かせていきたい。読み広げていくためのキーワードとして、子どもたちが着目するものには、「作品の構成の仕方」、「登場人物の人柄」、「イメージをかき立てる小道具」、「心に残る言葉や表現」、「季節」、「作品の舞台となる場所」などが考えられる。ここでは、一人一人の着眼点を大切にしながら、学校図書館や近隣の図書館から参考となる作品を集め、子どもたちに提示できるようにしたい。また、既習教材からは見つけにくいキーワードについては、教師から積極的に他の作品をもとに紹介する。

(4) 展開

○学習活動	・配慮事項
○2次1時間目(別紙細案①) 「わらぐつの中の神様」での学習を生かし、読み広げていくためのキーワードを決める。 ・作品リストの中から自分の読み広げていくためのキーワードに合った作品を数点選ぶ。 ○2次2時間目 読み広げていくためのキーワードに沿って読む中で、友だちに知らせたい内容や言葉などをメモしておく。	・読み広げていくためのキーワードとして、作品の構成、登場人物の人柄、イメージをかき立てる小道具、心に残る言葉や表現、季節、作品の舞台となる場所などが考えられる。(例:朝市、雪、山、海、物語のしかけ等) ・数行のあらすじが書かれたりリストがあると選定に時間を取らずにすむ。また、同時に同じ本を読む児童もいるので、同時に同じ物語を読める工夫も必要である。 ・自分の読み広げていくためのキーワードを意識させながら活動できるように、常にメモをとれるようにしておく。

3次1時間目 「杉みき子さんの世界をさぐるう」

(1) 本時のねらい

ブックトークの方法を知り、分かりやすい発表となるように準備を行う。

(2) 評価基準

- ・ブックトークのやり方に興味を持ち意欲的に準備を進めることができる。(関・意・態)
- ・読書メモを読み返してブックトークに必要な情報を選び出す事ができる。(読む)
- ・ポスターのレイアウトを決めて、書きはじめることができる。(書く)
- ・ブックトークでの意見交換のルールを知り、実際に練習することができる。(話す・聞く)

(3) 展開に当たって

前時まで読み進めてきた作品の読書メモを元にポスターを作り、ブックトークの練習をする時間である。ブックトークの方法を最初に理解することで、どのようなポスターを作ればよいかを考えさせたい。ここでは、自分がどのようなキーワードを選び、読書を進めてきたのか、自分のキーワードに対する思いをポスターに書き、他者に伝えることができるようにしたい。また、作品を読んだ感想や作者の上越に対する思いについてもポスターに表現できるようにする。また、ポスターを作り、発表の練習を行う場では、相手に自分のポスターに示した内容が十分伝わるように話す速度や真野取り方、紹介する作品の雰囲気伝えるための挿絵の有効的な使い方についても指導したい。(多くの作品の挿絵が郷土の画家：村山陽氏)

(4) 展開

○学習活動	・配慮事項
○3次1時間目 (別紙細案②) ブックトークの準備をする。(あらすじや気に入った表現、キーワードなどをまとめる。)	・自分の読み広げていくためのキーワードは何かをはっきりと示した発表になるようにする。発表の資料としてキーワードや挿絵のコピーなどを用意するとより分かりやすい発表となる。
○3次2時間目 ポスターセッションのように、ブックトークする人と聞く人に分かれて、ブックトークを行う。	・発表する側と聞く側の両方を体験できるようにする。聞く側も質問や感想などを述べて対話形式で進められるとよい。
○3次3時間目 活動全体を振り返り、杉みき子の上越に対する思いや考えなどを意見交流する。	・聞く側の人数が多すぎると効率のよい対話ができないので、学級の実態に合わせて人数を調整していく。 ・自分の読み広げていくためのキーワードを窓口として、作者がふるさと上越をどのようにとらえているかを考えるようにする。作文などに書いて活動を振り返らせることも有効である。 ・時間が許せば、作品の舞台となった場所を訪ねて見ることも作品の理解に役立つ。家庭学習や休日の活動として、作品の舞台を訪ねて写真を撮りブックトークの中で使うことも可能。

5 実践を振り返って

○ 上越らしさを学ぶポイント

子どもたちがキーワードを決め、作品を読み進め、互いにブックトークを行う中での子どもたちの学習活動を振り返ると、上越らしさを学ぶ際の支援のポイントは次の通りである。

① 自分の観点から作品群を読み広げる場をつくる

展開例(1)では作品群のリストを提示し、子どもが読み進めたいキーワードからさらに読んでいけ

るように支援した。「わらぐつの中の神様」を読んで子どもたちが見つけたキーワードは、「わらぐつ」「雪
げた」「おミツさん」「大工さんの言葉」「いい仕事の本当の意味」「神様」など、作品に登場する「小
道具」や「登場人物」「登場人物の言動」が主である。ここでは、「わらぐつの中の神様」を印象づ
ける「もの」や「こと」に子どもたちが着目していることが分かる。選んだキーワードから、他の
作品群へ読みを広げる場面では、次の点を支援のポイントとする。

ア：一人一人のキーワードを確かめ、次に生かせるように支援する

子どもが実際に選んだキーワードは「神様」や「鳥」「花」などである。子どもたちは「わらぐ
つの中の神様」を読み、自分で選んだキーワードから他の本を探そうとする。ここでは、選んだキー
ワードを生かせるように一人一人に合った本の紹介文を提示することも大切である。また、実態に
よっては、キーワードに込めた子どもたちの思いを聞き取ることも必要となる。例えば、当初「お
じいさん」や「おみつさん」をキーワードとして選んだ子どもの中には、中心的に読み進めたいも
のは「登場する人物」や「温かい気持ち」の場合もある。一人一人の子どものキーワードや選んだ
理由を聞き取り、子どもが心惹かれる箇所を明確にできるようにする教師の見とりと支援が大切で
ある。

イ：読書環境の整備を行う

子どもがキーワードに沿って読み進めていけるように読書環境を整備することも大切となる。

授業展開に当たっては、学校にある作品に加えて市立図書館から関係する作品を借用（団体貸し
出し）して子どもたちの読書活動を進めた。子どもの関心に合うように読書環境を計画的に整備す
ることも課題となる。

② 自分らしい読み取りを交流するブックトークの行い方

展開例(2)では読み広げてきた作品の読書メモをもとにポスターを作り、ブックトークという手法
を使って読みの交流を行った。

「すごくおばあちゃんのことが書けていてよかったです。(相手のキーワード:おばあちゃん)「ほ
たるの夜のせりふでほたるは土の上の星さという言葉がいいと思いました。自分の言葉で感想が書
いてあっていいと思いました。(相手のキーワード:木)」

子どもたちは、相手の話し方やポスターのできのよさに加えて、相手が着目したキーワードへの
感想をまとめることができた。キーワードをもとにしたブックトークを行うことで、友達の感じた
事柄に対して、自分らしい感じ方を表現していることが分かる。相手の感じたことに自分の感想を
加えるには、繰り返し交流の場を設定し十分ブックトークの仕方に習熟することも必要である。一
人一人の子どもの上越らしさを残すには、こうした学習活動の積み重ねが大切となる。

6 その他

- ・ 作品リスト作成に参考となるサイト

上越市立大手町小学校ホームページ < <http://www.ohtemachi.jorne.ed.jp/> >

* 地域素材のページ「杉みき子作品紹介」(作品と短いあらすじが書かれている。)

「杉みき子の世界」モデルプラン 授業細案①

2次1時間目「読み広げていくためのキーワードを決めて杉みき子さんの作品を読む」

① 本時のねらい

「わらぐつの中の神様」での学習を生かし、自分なりの読み広げていくためのキーワードを決め、キーワードに合った作品を選ぶことができる。

② 評価規準

- ・学習のねらいを理解し自分の着目するキーワードを決めることができる。(関・意・態)
- ・読み聞かせの作品から印象に残った言葉や文章を選び出すことができる。(読む)
- ・メモの取り方を知り、メモを書くことができる。(書く)
- ・既習教材からキーワードを探し発表したり聞き合ったりすることができる。(話す・聞く)

③ 展開に当たって

1次の学習を生かして、杉みき子作品によく登場するモチーフを探す活動である。

雪国上越らしい風物が上がってくるであろうが、児童の身の回りに自然と存在する物(者)であることに気付かせていきたい。

既習教材からは見つけにくいキーワードは、「杉みき子さんの作品にはこのような物もよく登場する」という紹介をしながら、教師から提示することも必要である。

④ 展開

時間	○学習活動 ・予想される反応	◇配慮事項 等	*資料等◆評価
5	○2次以降の学習内容について理解する。 読み広げていくためのキーワードを決めて杉みき子さんの作品を読み、紹介し合おう。	◇地元の児童文学作家であること、たくさん作品を作っていることを紹介し、今後の学習内容を理解させる。	*図書室にある杉みき子作品数冊
10	○「わらぐつの中の神様」の物語から読み広げていくためのキーワードを探す。 ・雪(吹雪) ・スキー ・がんぎ ・朝市 ・雪下駄 ・おじいさん ・おばあさん ・女の子 等	◇登場人物、イメージをかき立てる小道具、作品の舞台などに分類しながら板書する。 ◇作品の構成については児童からは出にくいと思われるので教師から提示しても良い。	◆既習の教材を思い出しながらキーワードを探ることができたか。
18	○教師の読み聞かせを聞きながらメモの取り方を知る。 ・本文のコピーに線を引きながら聞く(作品を読む場合は、メモに書き写すことを指示しておく)	◇例として読み広げていくためのキーワードが「雪」「おじいさん」とした場合に選んだ作品として『きたかぜどおりのおじいさん』を読み聞かせる。 ◇心に残った言葉や文章を見つけてラインを引かせた後メモに写す。	*本文のコピー
7	○自分の読み広げていくためのキーワードを決める。 ・板書されたものを見ながら、自分の読み広げていくためのキーワードを考える。	◇「わらぐつの中の神様」のキーワードだけにこだわらなくてよいことを知らせる。	*作品リスト 資料①
5	○作品リストから読みたい作品を選ぶ ・自分の読み広げていくためのキーワードに従って、読みたい作品を選んでいく。	◇児童の読み広げていくためのキーワードの傾向をとらえてブックトークの持ち方についての資料とする。	◆自分の興味を持てるキーワードを決めることができたか。

「杉みき子の世界」モデルプラン 授業細案②

3次1時間目「杉みき子さんの世界をさぐる」

① 本時のねらい

ブックトークのやり方を知り、分かりやすい発表となるように準備のしかたを考える。

② 評価規準

- ・ブックトークのやり方に興味を持ち意欲的に準備を進めることができる。(関・意・態)
- ・読書メモを読み返してブックトークに必要な情報を選び出す事ができる。(読む)
- ・ポスターのレイアウトを決めて、書きはじめることができる。(書く)
- ・ブックトークでの意見交換のルールを知り、実際に練習することができる。(話す・聞く)

③ 展開に当たって

読み進めてきた作品の読書メモを元にポスターを作り、ブックトークの練習をする時間である。ブックトークのやり方を最初に理解することで、どのようなポスターを作ればよいかを考えさせたい。次の活動に見通しを持ちながら活動できるようにさせていく。

紹介する作品の雰囲気伝えるために、挿絵を有効に使うことも教えていきたい。(多くの作品の挿絵が郷土の画家：村山 陽氏)

④ 展開

時間	○学習活動 ・予想される反応	◇配慮事項 等	*資料等◆評価
5	<p>○3次の学習のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ブックトークで杉みき子さんの世界をさぐる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と同じ観点で読み進めた子は誰だろう。 ・どんな作品を読んできたのかな。 	<p>◇一覧表を見ながら、自分と同じ観点で読み進めた子や注目した作品などを確認する。</p> <p>◇それぞれがどのように読み取ったのか、作者が作品で伝えたかったことはどんなことか考える活動であることを知らせる。</p>	<p>*児童の読みの観点・読んだ作品一覧表</p> <p>◆友だちの読みの観点や読書の傾向に興味を持つことができたか。</p>
5	<p>○教師の例示を見て、ブックトークのやり方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵があると分かりやすい。 ・あらすじをまとめることも必要だ。 ・心に残った言葉はメモから選んでこよう。 	<p>◇教師は作ったポスターを示しながらテーマ(読みの観点)に沿って発表の例を示す。</p>	<p>*ブックトーク用例示ポスター 資料②</p>
8	<p>○発表を聞いた後の意見交換の練習をする。</p>	<p>◇ルールを示し、実際に意見交換を試みる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <意見交換のルール> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答をする。 ・聞いた感想を言う ・必ず1人1回以上意見感想を言う。 </div>	<p>*意見交換のルールを明記したもの</p> <p>◆ブックトークのやり方を理解したか。</p>
27	<p>○各自、ブックトークの準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書メモを見直す。 ・ポスターに入れることを考える。 ・挿絵をコピーする。 ・レイアウトを決める。 ・発表の練習をする。 	<p>◇個々に巡視しながら必要に応じてアドバイスをする。</p>	<p>◆発表の見通しを持ちながら作業を進めているか。</p>

※各種データは、「スクールオフィス」内「リンク集」からダウンロードできます。

**私のキーワードは
これ！！**

☆「おぢへい」の中の神様「から、作品のキーワードを見つけよう。

キーワードを決めて、杉みき子さんの作品を読み広げよう。

5年 氏名

<p>題名</p>	<p>題名 きたかぜどおりのおじいさん</p>
<p>.....</p>	<p>.....</p>
<p>題名</p>	<p>題名 夜明けの足あと（金谷山ものがたり）</p>
<p>.....</p>	<p>.....</p>

読書メモ 5年 氏名

☆ 私の決めたキーワード
雪・おじいさん

読書メモ

5年 氏名

☆ 私の決めたキーワード

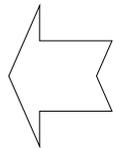
題名	題名
題名	題名

キーワードを決めて、杉みき子さんの作品を読み広げよう。

5年 氏名

☆「わたぐつの中の神様」から、作品のキーワードを見つけよう。

私のキーワードは
これ！！



<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 100%; text-align: center;">題名</td> </tr> <tr> <td style="height: 300px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div> </td> </tr> </table>	題名	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 100%; text-align: center;">題名</td> </tr> <tr> <td style="height: 300px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div> </td> </tr> </table>	題名	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div>
題名					
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div>					
題名					
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div>					

☆ 読書メモ

私の決めたキーワード

5年 氏名

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 100%; text-align: center;">題名</td> </tr> <tr> <td style="height: 150px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div> </td> </tr> </table>	題名	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 100%; text-align: center;">題名</td> </tr> <tr> <td style="height: 150px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div> </td> </tr> </table>	題名	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div>
題名					
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div>					
題名					
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div>					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 100%; text-align: center;">題名</td> </tr> <tr> <td style="height: 150px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div> </td> </tr> </table>	題名	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 100%; text-align: center;">題名</td> </tr> <tr> <td style="height: 150px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div> </td> </tr> </table>	題名	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div>
題名					
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div>					
題名					
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div>					

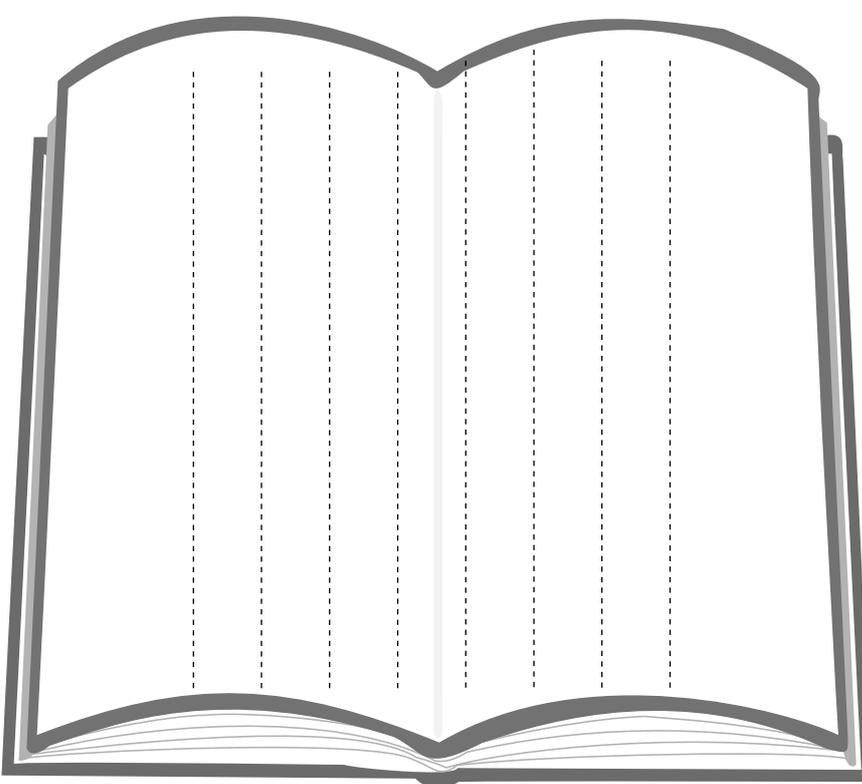
☆ 読書メモ

私の決めたキーワード

5年 氏名

キーワード	名前	キーワード	名前
キーワード	名前	キーワード	名前

☆友だちのブックトークを聞いて、感想を書こう。
ブックトークをしよう
 五年



☆学習を終えて…(今回の学習について感想を書きましよう。)

キーワードを決めて、杉みき子さんの作品を読み広げよう。

【児童がつくったポスター（例）】



(3) 社会科 郷土が生んだ偉人の生き方から学ぶ「ふるさと学習」

～「上杉謙信公学習」の事例をもとに～

社会科では、郷土を代表する歴史上の人物として「上杉謙信公」の学習活動例を事例として選定しました。児童生徒が謙信公について学び、謙信公の生き方から考えることを明らかにしていく学習を通して、ふるさと上越への想いを育むことを期待します。ここでは、社会科の構想にあたって大切にすることを示します。また、今後の課題として社会科でのふるさと学習を小・中で学び、ふるさと上越への想いを確かにできるようにカリキュラム編成の視点についても触れます。

■地域の事象の活用

ふるさと学習はふるさと上越を愛する心情を培うという情意的な変容を期待します。その過程では各教科固有の学び方や認識の仕方など、その教科で大切にすることがあります。社会科では地域の事象について学び、また事象から学ぶ見方や考え方を大切にしていきます。限られた時間の中でいかに地域の人や環境の活用を図るかが、ふるさと学習を展開する上でポイントになります。総合的な学習の時間とリンクさせたり、年間の指導計画での重点化を図ったりしながらの学習を構想します。

■上杉謙信の教材化にあたって

事例として示した「上杉謙信公」の学習活動は、社会科の時間を中心に、発展として道徳、総合的な学習の時間も加えて学習活動を構想する例を示しました。総合化して歴史上の人を学ぶことから「謙信公について学ぶ」「謙信公から学ぶ」という事実の確認や自分の考えを明らかにする学習活動を展開することができます。また、謙信公の業績に加えて、道徳の内容から成長のエピソードを資料として提示し、謙信公の人となりや学び、自分自身を振り返ることも期待できます。

こうして歴史上の人物を自分とのかかわりで学ぶことから地域の人や環境がより身近なものとなります。地域の人や環境への愛着を児童生徒に培うために、教科・領域の枠を超えた学習活動も構想することができます。

■ふるさと学習、編成の視点

「ふるさと学習」をカリキュラムに位置付けるために社会科では歴史的事象の学習内容について単元配列の視点を次のように設定しました。

『郷土の生んだ歴史上の人物の業績や文化遺産の意味について、当時の世の中の状況や人々の願いを学ぶことから、その価値をとらえ、歴史的遺産あふれる上越への思いを確かにする』

この編成の視点は、小学校高学年から中学校で学年の発達や指導内容の違いに応じ歴史的事象を配列することを意図したものです。編成の視点に従って、小学校6年生と中学校1年生で、郷土の人や環境について学習活動を構想し、上越らしさを様々に学ぶようにすることができます。また、実践例として示した「上杉謙信公」についても、小学校と中学校とで指導内容に応じた学習を経験させることから、謙信公に対する多面的なとらえも可能になり、郷土の偉人に対する愛着を育むことも期待できます。

共に今後の課題ととらえています。

単元配列の視点は小学校から中学校への学びの連続・発展を意図したものです。ふるさと学習を各校のカリキュラムに位置付けるとき、こうした縦系列の配列に加え、「自然環境」「歴史的環境」といった視点から素材を整理し、配列することもできます。また、ふるさと学習の本来のねらいに立ち返り、地域の人・環境を事実に基づいて資料化を図り、ふるさと上越のよさを生かし豊かな人間性をはぐくむという道徳教育としてのカリキュラム編成も可能となります。

戦国の武将「上杉謙信公」と上越

1 単元名 戦国の武将「上杉謙信公」と上越

2 単元で学ぶ上越らしさと謙信公の業績

上越市はかつて越後の中心として栄え、その後の長い歴史の中でも多くの人材を輩出して現代に至っている。これらの多くの人材の中から上杉謙信公を取り上げ、社会科や総合的な学習の時間、道徳の時間を使って学習を進めていく。

現在、地元上越市の学校であっても、謙信公についての学習は、ほとんど行われていない。しかし、謙信公の生涯や歴史的業績を学ぶことにより、上越の歴史を日本の歴史とのかかわりの中で捉え直したり、現代の上越を過去との繋がりで見直しすることができる。

また、謙信公の生き方に照らして今の自分をみつめることで、これまでの生き方を振り返るとともに、これからのあり方を考えることが可能となる。さらに、義を重んじた謙信公の人間としての生き方に学ぶことを通して、400年の時を経てなお日本人の心の中で大きく輝き続けている謙信公を生んだ郷土上越のすばらしさに気付いたり、愛着や誇りをもったりすることが期待できる。

上杉謙信公（1530～1578）は、上越が生んだ春日山城を居城とする戦国時代の名将である。以下の点を、謙信公の業績と特徴として考えることができる。

- 戦乱に明け暮れていた戦国時代の越後の国を統一し、一応の平和をもたらした。
- 青苧、越後上布の生産や金銀山の開発等の独自の経済政策で越後の国の繁栄を目指した。
- 関東出兵や川中島の合戦に見られる謙信公の戦い方は、下克上の戦国時代にあつて、義を重んじるものであり、私利私欲の戦いをしなかった。
- 謙信公の義は、二度の上洛や関東管領への就任に見られるように、朝廷や幕府に対して最後まで臣下の礼を尽くし、中世的体制を維持しようとしたものであった。
- 謙信公は戦国時代を代表する武将であるとともに、時代を超えて現代にも生きる崇高な義の理念を生涯追い求めたことにより、越後上越の名を高め、後世に生きる人間に郷土上越への誇りを与えたのみならず、多くの全国の人々の生き方に影響を与え続けている。

3 単元の設定に当たって

この単元では、謙信公という一人物の生涯や業績を学び、自分自身の生き方を振り返るというトピック的な学習を行う。特定の教科領域の学習に限定できないことから、社会科3時間・総合的な学習の時間3時間・道徳1時間を使って合科的に指導を進めていく。

社会科については、6年の社会科の標準授業時数が100時間、その中で歴史学習が70時間程度であることを考慮し、指導時数を3時間に設定した。

(1) 社会科学習3時間の構成と、社会科での日本の歴史学習との関連

- 1時間目では、川中島の戦いの原因などを調べることを通して謙信公の「義」を重んじた崇高な生き方に共感させ、自分なりの謙信公像をもたせていきたい。
- 2時間目では、謙信公が強力な軍事力を持っていたにもかかわらず、將軍を倒し天下統一することを目指していたわけではなかったことに気付かせる。
- 3時間目では、謙信公が強力な軍事力を持っていたにもかかわらず、関東管領として、あるいは將軍のための関東平定や天下平定ができなかった理由を、兵農分離とのかかわりから考えさせていく。
- この3時間の学習を通して、中世的価値観の一言で片付けることのできない人間上杉謙信の魅力

に気付かせた上で、兵農分離できなかった謙信公の軍事力を、越後を基盤とした戦国大名の限界としてとらえ、中世から近世への過渡期の歴史的事象として捉えさせていく。

そして、教科書で学習した信長による家臣団の安土城城下町への定住化や秀吉の検地・刀狩りの意味を兵農分離という点から改めて考えさせることにより、中世から近世への移行を具体的に認識させたい。以上のことにより、謙信公学習を通して、地域から日本の歴史の動きを考えさせていくことが可能となる。

(2) 各校での実践に当たっての留意事項

○各時間の細案を提示するとともに、資料や学習プリントも用意し、活用できるようにした。ただし、これらの内容は、この指導案や資料を必ず使うことを強制するものではない。各学校や児童の実態に応じて修正したり、自校化を図ることが必要であり、あくまでも、一実践例として考えてもらう必要がある。(このことは、道徳についても当てはまる。)

各校での実践を工夫することにより、謙信公についての興味関心を高め、謙信公の生き方、考え方にふれ、自分なりの問題意識をもち、これからの生活の中で謙信公のことを考えていこうとする、そうした出発点にできればよいと考える。

○社会科の学習を深めるためには、春日山や林泉寺での現地学習等を取り入れ、実感に裏打ちされた学習にしていくことが望ましい。しかし、特設単元であり社会科としての時数の制約があることから、総合的な学習の時間を活用して発展的な学習を行うような計画にした。自分の目で見たり、肌で感じたりすることを通して謙信についてのイメージをより確かなものとし、学習を深めていきたい。

○総合的な学習の時間を活用した学習については、社会科学習の前に行うことも可能である。それにより、謙信公の生涯や業績の概要を理解でき、そこでの成果や問題意識を生かした社会科学習に入ることが可能となる。

4 指導計画 (全7時間)

* 「3人の武将と天下統一」(教科書では5時間の取扱)の単元の学習終了後に実施する。

第1次 資料をもとにして上杉謙信公のことを調べよう。(社会科・3時間)

・資料を活用したり、話し合ったりしながら謙信公の生涯や人物像などについて理解を深め、天下統一や関東平定の問題について考えていく。

第2次 春日山や林泉寺で謙信公について調べよう。(総合・3時間)

・春日山城址や林泉寺での調査、見学を通して、資料では分からなかった疑問を解決したり、謙信公についてのイメージを豊かにしたりする。

第3次 謙信公の生き方について考えよう。(道徳・1時間)

・謙信公について学習したことをもとに、謙信公の生き方を考えたり、これまでの自分を振り返ったりすることを通して、今後の自分の在り方をみつめる。

5 上越らしさを学ぶ展開例

1次、2次の学習を通して、謙信公は越後を統一した武勇に優れた戦国大名であっただけでなく、下克上の時代にあつて義を重んじる優れた人間性を兼ね備えた、郷土の誇りうる歴史的人物であることをとらえることができるようにする。

(1) 第1次 「上杉謙信は、どんな人だったのかな？」

「謙信公も天下統一を目指していたの？」

「謙信公は、なぜ関東平定や天下平定ができなかったの？」(社会科・3時間)

<別紙細案1 参照>

(2) 第2次 「春日山や林泉寺で謙信公について調べよう」(総合・3時間)

<「特色あるカリキュラム編」参照>

○学習活動	・配慮事項
○1次の学習では解決できなかった問題を、春日山での現地学習を通して解決したり、謙信公関連の史跡を自分の目で確かめたりする。 ・春日山山頂での観察(全国的にも規模の大きい山城としての春日山城の特色、周辺の山城の配置) ・春日山城址と毘沙門堂・林泉寺、宝物殿、謙信公の墓	・全体や各自の問題、調査方法を明確にして、現地での学習を有効なものとしたい。 ・林泉寺、宝物殿では、住職に説明をお願いし理解を深めたい。

(3) 第3次 「謙信公の生き方について考えよう」(道徳・1時間)

社会科の学習を通して膨らんできた謙信公像を道徳的視点からとらえ直す。謙信公の生き方や考え方、行動をもとに、道徳の内容項目で整理する。また、謙信公の生き方に照らして今の自分をみつめさせる。

○学習活動	・配慮事項
○謙信公について学習したことをもとに、敵対する武田信玄の領土に塩を送るという行動を通じて、謙信の生き方を考えたり、これまでの自分の考え方や行動と重ねてみたりする。 ・敵に塩を送った謙信公の考え方や行動について ・「義」の心について	・自作の資料を用意する。 ・導入で、今までの自分の生活で、困っているときに助けてもらった経験等を振り返らせる。 ・「義」の心を大事にした謙信公の生き方にまつわる説話をする。

6 その他

○参考文献

加藤章・花ヶ前盛明 監修『まんが上杉謙信ものがたり』上越市(2001)

『上越市「謙信・兼続」検定公式テキストブック』上越市「謙信・兼続」検定実行委員会(2008)

『上越市史 通史編2 中世』上越市(2004)

『新潟県史 通史編2 中世』新潟県(1987)

矢田俊文 著『上杉謙信』ミネルヴァ書房(2005)

永原慶二 著『戦国の動乱』小学館(1975)

○参考ホームページ

「上越観光ネット」<<http://www.city.joetsu.niigata.jp/kankou/>>

「謙信公学習」モデルプラン 社会科授業細案①（3時間）

1 目標

- 上杉謙信公が天下統一を目指していなかったことや、関東平定（天下平定）ができなかった理由が兵農分離できていなかった点にあることを理解できるようにする。
- 写真資料や年表、地図などの多様な資料を活用して謙信公の生涯や戦いの様子などを調べ、謙信公の義を重んじた生き方について共感することができるようにする。

2 評価規準

- 関心・意欲・態度
謙信公の生涯に関心をもち、業績や生き方などを意欲的に調べようとしている。
- 思考・判断
謙信公の天下統一への思い、関東平定（天下平定）ができなかった理由、生涯戦い続けたことの意味などを、資料をもとに考えることができる。
- 技能・表現
各種資料を読み取りながら、謙信公の行動や考え方を調べ、自分の考えを他の児童と伝え合うことができる。
- 知識・理解
謙信公が関東平定（天下平定）できなかった理由や、義の精神の意味などが分かる。

第1時「上杉謙信は、どんな人だったのかな？」

① 本時のねらい

「義」を重んじ、平和を夢見て戦い続けた謙信公の生涯が分かり、謙信公の生き方について考える。

② 展開

時間	◎学習活動 ○取り上げる内容 ・児童の反応	◇配慮事項 等	○資料 ◆評価
	◎戦国時代の武将の価値観を確認し、謙信公の人物像を予想する。 ・「他国を攻め滅ぼし支配し、天下統一したい。」 ・「謙信は、他の武将と違うのではないか。」	◇導入として、春日山、謙信公像などを見せ、児童の既知識も簡単に確認した上で、課題を提示する。①②	○学習プリント ○日本地図 (教室掲示) ○謙信公生涯年表 ○謙信公画像など (スマートボード) ○漫画「川中島合戦の原因」(上杉謙信物語より作成)
	上杉謙信は、どんな人だったのかな？		
8	◎川中島の戦いの原因などを調べ、謙信公の「義」について話し合う。 ○川中島の戦いの原因(村上義清の要請)⑥と、第4回合戦の概略③④⑤ ○関東への13回の出陣の原因(里見氏や上杉憲政の要請)(年表) ○手取川の戦いの原因(本願寺の要請等)⑦⑧ ○「敵に塩を送る」の故事の由来 ○義の戦いを支えた財政基盤 ・「他国を攻め滅ぼそうとはしていない。」 ・「弱者を助けようとしている。」 ・「自分の損得を考えて行動していない。」 ・「正しいと思ったことをしている。」 ・「信玄のことはよく思わなかったと思うが、甲斐の人を助けるために塩を送ったと思う。」	◇謙信公の戦いの原因を他の戦国大名のそれ(下克上、私利私欲、弱肉強食)と対比的に捉え、話し合うことにより、「義」の意味を子どもたちなりに考えさせる。 ◇子どもたちの意見が十分に出た段階で、彼らの考えた義の意味を認め、謙信公の義を第一とした生き方「第一義」を簡単に説明する。 ◇画像資料や検定テキストをもとに、義の戦いを支えた青苧、越後の金銀山について教師が簡単に説明する。	○漫画「川中島合戦の原因」(上杉謙信物語より作成) ○川中島合戦図等 (スマートボード) ○漫画「手取川の戦いの原因」(上杉謙信物語より作成) ○青苧刈り取り写真 (スマートボード) ⑨⑩ ○「謙信・兼続」 検定公式テキストブック
35	◎謙信公の義の戦いの支えとなった経済政策があったことが分かる。 ○越後上布の原料になった青苧 ○全国有数の算出量だった金山や銀山	◇地元の人々が謙信公という呼び方に込めた、「公」の意味(敬称)について説明する。	◆(技表) 謙信公の戦いの原因を資料から読み取り、わかったことを話し合う。(話し合い・プリント)
40	◎義を重んじた謙信公の生き方から学ぶこと、今日の学習を終え考えていること、さらにこれから自分で考えたり、調べたりしていきたいことなどをまとめる。 ・「義を大事にした謙信公の生き方は素晴らしいと思う。」	◇義を重んじた謙信公は天下統一を目指していたのかどうかを最後に投げかけ、次時への課題としていく。	◆(思判) 謙信公の義の意味を自分なりに捉え、その生き様から学ぶことができる。(プリント)

第2時「謙信公も天下統一を目指していたの？」

① 本時のねらい

謙信公は強力な軍事力を持っていたにもかかわらず、信長のように将軍を倒し、天下統一を目指していたわけではなかったことに気付く。

② 展開

時間	◎学習活動 ○取り上げる内容 ・児童の反応	◇配慮事項 等	○資料 ◆評価
	<p>◎謙信公が他の戦国大名同様に天下統一を目指していたのかを予想した上で、天下統一に必要な条件を考える。</p> <p>○（条件1・軍事力）戦いに強い。</p> <p>○（条件2・統一願望）将軍を倒し、日本を支配したいという気持ちがある。</p>	<p>◇同じ立場の児童でグループを作り、相談することにより、2つの条件に当てはまる事実を拾い出し、読み取っていくようにする。</p>	<p>○学習プリント</p> <p>○日本地図（教室掲示）</p> <p>○謙信公生涯年表</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">謙信公も天下統一を目指していたの？</div>		
8	<p>◎グループでの話し合いを通して、謙信公の軍事力（条件1）について考える。</p> <p>○生涯戦績「70戦・43勝2敗25分け」から分かる謙信の強力な軍事力①</p> <p>○手取川の戦いで、天下統一間近の信長軍を撃退した上杉軍の強さ②</p>	<p>◇資料①②から強力な軍事力に気付かせることができる。強さを確認することに重点を置き、合戦の内容には深入りしない。</p>	<p>○謙信生涯戦績表（都道府県別戦績）①</p> <p>○漫画「手取川の戦いの勝敗」②③④</p> <p>○上洛時の将軍との会見内容①（下）</p>
25	<p>◎グループでの話し合いを通して、謙信公の統一願望（条件2）について考える。</p> <p>○謙信上洛時の将軍との会見の内容（将軍のために尽くしたい）、幕府を支える役職としての関東管領に就任したこと（①下と年表）</p> <p>○名前に込められた幕府のために尽くそうという気持ち（長尾→上杉、政虎・輝虎という名前の由来）（年表）</p>	<p>◇①（下）から条件2について考えることができる。それ以外にも、年表を見直すことにより、二度の上洛や関東管領への就任、そして姓名の変更の意味を考え、条件2について判断するよう支援する。</p>	<p>◆（技・表、関・意・態）謙信公が天下統一を目指していたのかどうかを2つの条件から各種資料を基に読み取り、話し合うことができる。（プリント、話し合い）</p>
40	<p>◎学習を終えて考えたことをまとめる。</p> <p>・「謙信公は戦いでとても戦いに強かったが、天下統一を目指していたわけではない。」</p> <p>・「天皇や幕府のためにつくそうとした。」</p> <p>・「とても強いのに、なぜ敵をやっつけられなくて13回も関東で戦ったのか？」</p>	<p>◇謙信公が他の戦国大名と異なり天下統一を目指していなかったことを確認した後、関東での13回の戦い、生涯68回の戦いに目を向けさせ、疑問を出させることで、3時の学習課題に結びつけていく。</p>	<p>◆（知・理）謙信公が天下統一を目指していなかったことが分かる。（プリント、話し合い）</p>

第3時「謙信公は、なぜ関東平定や天下平定ができなかったの？」

① 本時のねらい

謙信公が強力な軍事力を持っていたにもかかわらず、室町幕府維持のための関東平定や天下平定ができなかった理由を兵農分離に見出し、信長・秀吉の兵農分離策と天下統一との関係を考えることができる。

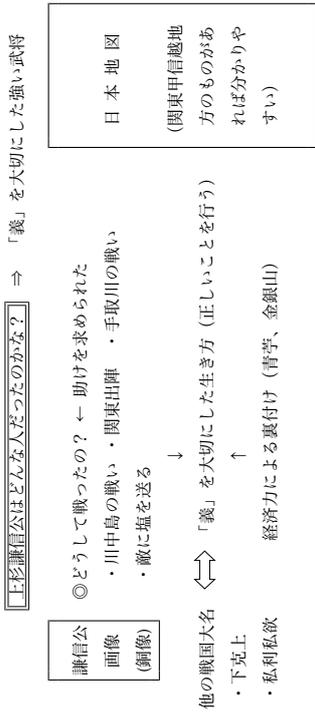
② 展開

時間	◎学習活動 ○取り上げる内容 ・児童の反応	◇配慮事項 等	○資料 ◆評価
	◎課題を確認し、関東出陣に至るまでの経緯と出陣の意味を年表で確認する。 ○幼少の混乱期から越後統一、上杉憲政等の出陣要請と関東管領への就任 ○室町幕府の関東管領として、関東を脅かす存在（北条）を成敗するための関東遠征	◇本時での、天下統一と天下平定の言葉の使い方の違いを確認する。 ◇最初は上杉憲正等の要請、その後は管領としての大義名分があることを確認する。	○学習プリント ○日本地図（教室掲示） ○謙信公生涯年表
	謙信公は、なぜ関東平定や天下平定ができなかったの？		
8	◎戦いに強かったはずの謙信軍がなぜ繰り返し関東に出陣することになったのか、話し合う。 ○晩秋から冬に出陣し、春先に帰ってきている事実から考えられること ⑮ ○家臣の大部分が足軽であるという事実、そして足軽が農民でもあるという事実 ⑯ ○13回の出陣でも、関東を支配できなかった理由としての兵農分離	◇いくつかの資料を順に読み取ったり、比較したりしながら、足軽（農民）主体の軍隊が冬期間しか長期の遠征ができないこと、関東に年間を通して兵隊をおけなかったことに気付かせ、他国の支配を維持できない理由を考えさせていく。	○謙信公関東出陣の時期一覧 ⑮ ○謙信公家臣団の構成 ⑯ ○中世から近世への兵農分離図 ⑯（下）
33	◎天下統一を進める上での兵農分離の意味を考える。 ○兵農分離と軍隊の強さ ○信長による家臣団の城下町への定住化、秀吉が進めた刀狩りと兵農分離	◇天下統一を成し遂げた信長や秀吉の政策が、兵農分離を促し、強力な軍隊を作るものであったこと、謙信公の限界はそれができなかったことに気付かせる。	◆（技・表）資料から関東出陣の季節性や兵農分離していない事実を読み取ることができる。（プリント、話し合い）
40	◎学習を振り返り、謙信公の生き方から学ぶことを振り返る。 ・「70回も戦ってほとんど負けていないのに、なぜ天下平定ができないのかよく分かった。」 ・「天下平定はできなかったが、謙信公はやはり素晴らしい武将だと思う。」	◇1時から本時末までに出されたさらに調べたい事柄を、今後の生活の中で解決していくことを勧める。	◆（思・判）謙信公の事例から、天下統一に兵農分離が必要であることを考えることができる。（プリント・話し合い）

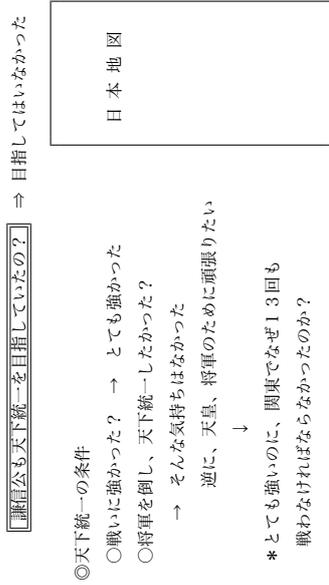
※学習プリントや各種資料等のデータは、「スクールオフィス」内「リンク集」からダウンロードできます。

板書計画 (例)

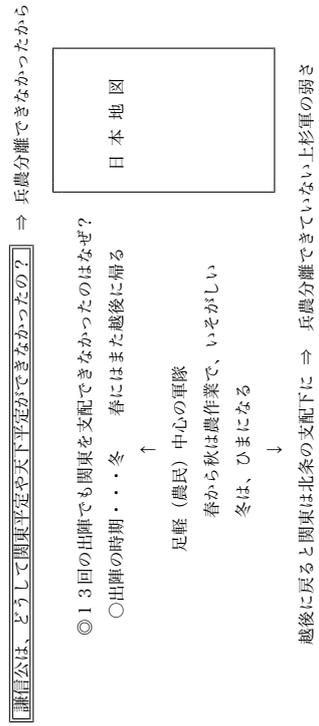
○ 1 時



○ 2 時



○ 3 時



【学習カード①】

上杉謙信公は、どんな人だったのかな?

6年 名前 ()

1 戦国時代は下克上の時代です。多くの武将は、信長のように他国を攻め滅ぼし、天下統一して將軍に取って替わりたいたいと考えていました。上杉謙信公は、どんなことを考えていたと思いますか。

2 上杉謙信公と、ほかの戦国大名とのちがいを考えてみましょう。

(1) 戦い方から

① 川中島の合戦の原因は? (他国を攻め滅ぼし、支配するため?)

② 関東への13回の出陣の原因は? (他国を攻め滅ぼし、支配するため?)

③ 手取川の戦いの原因は? (他国を攻め滅ぼし、支配するため?)

(2) 「敵に塩を送る」の故事からわかることは?

(3) 謙信公は他の戦国大名とは、ちがうそうですね。謙信公が大事にしたことはどんなことでしょうか。

3 さて、今日のまとめです。

(1) 謙信公はどんな人だったと思いますか。

(2) 謙信公の生き方からあなたは何を学びますか。

(3) これからどんなことを勉強していきたいですか。

【学習カード②】

謙信公も天下統一を目指していたの？

6年 名前 ()

1 天下統一に必要なことは、何だろう？

- 1番目の条件 …… 戦いに、とても ()
- 2番目の条件 …… まずは近くの大名に戦いをしかけ、攻め滅ぼす。
最後は、() に替わって、日本を支配したい。

この2つを満たすのが、織田信長や豊臣秀吉、徳川家康、武田信玄などです。
さて、謙信公は天下統一を目指していたのでしょうか？

☆ 自分の考え …… 天下統一を ()

2 そこで、1番目の条件について考えてみよう。

- (1) 戦いに強かった(または弱かった) ことがわかるできごと
強かったことがわかるできごと

弱かったことがわかるできごと

- (2) 戦いに強かったのでしょうか。あなたの結論は？

3 2番目の条件について考えてみよう。

- (1) 将軍に替わって日本を支配しよう(将軍のためにつくそう)ということが
わかるできごと

将軍に替わって支配したかったことがわかるできごと

将軍のためにつくそうとしたことがわかるできごと

- (2) 将軍に替わって日本を支配したかったのでしょうか。あなたの結論は？

4 さて、謙信公は天下統一を目指していたと思いますか。

- 5 今日の学習で考えたことや、疑問、もっと調べたいことなどを
書いてください。

【学習カード③】

謙信公は、どうして関東平定 (そして天下平定)ができなかったの？

6年 名前 ()

1 謙信公は70回戦って2回しか負けなかったと言われています。
それほど強かったのに、なぜ関東平定や天下平定ができなかった
のか、考えてみましょう。

- (1) 資料1を見て、わかること、不思議に思うことはないですか。

- (2) 謙信公の家来の大部分はどんな人だったのでしょうか。
(資料2を見て考えましょう。)

- (3) その人たちは、ふだんどんな仕事をしていたのでしょうか。そして、いそが
しい時期や、ひまな時期を考えてください。
(資料3の戦国時代の部分を見て考えましょう。)

- (4) 以上のことから、冬場に関東に遠征した理由、春になると越後に帰って
きた理由を考えてください。

- (5) 謙信公の軍隊が春に越後に帰ってくると、関東はまた北条氏に支配されて
しまいます。そこで、次の冬になると、また関東へ出兵するわけです。

- 2 これで、謙信公が関東平定や天下平定ができなかった理由が分
かったと思います。()の中に理由を書いてください。

謙信公の軍隊が、関東平定や天下平定ができなかったのは

() できていなかったからです。

- 3 信長や秀吉は、天下統一するために自分の軍隊の兵農分離を進めたり、日
本全体で兵農分離を進めたりしていきます。このことを、みなさんが学習した
ことで考えてみます。

- (1) 信長は、自分の家来を自分の住んでいる () 城の近くに住む
ようにさせ、家来の足輕に農業をすることをやめさせました。
このように兵農分離の結果できた町を () 町 といいます。

- (2) 秀吉はこれをもう一步進めました。自分の家来に兵農分離をするだけでな
く、日本中を兵農分離させました。今までの足輕のように兵隊でも農民でも
ある状態をやめさせ、農民と武士を完全に区別しました。
そのためには、今までの足輕がもっていた刀のような武器を取り上げる
ことが必要でした。
これが、() ということになります。

- 4 兵農分離ができないために、天下平定ができなかった謙信公で
すが、学習を終えて、どんなことを考えましたか。また、謙信公
の生き方を改めてどう思いますか。(裏にも書いていいですよ。)

資料 1



資料 2



資料 5



資料 6

上杉謙信 年表

6年 名前 ()

西 暦	年 齢	おもなできごと	日本のできごと
1530	1歳	越後守護代長尾為景の子として春日山城で誕生する。名は、虎千代。	1534 織田信長 誕生
1536	7	春日山城下の林泉寺に入り学ぶ。	1537 豊臣秀吉 誕生
1542	13	父死去。謙信は、よろいや、かぶとを着て葬儀に出る。	1542 徳川家康 誕生
1543	14	元服し、景虎と名を改める。	
1544	15	栃尾城にて、近隣の豪族を打ち破る。	
1548	19	春日山城に入り、守護代・長尾家を相続する。	
1551	22	長尾政景(六日町の親類)が謙信に降伏。謙信は越後国主としての地位を確立する。	
1552	23	関東管領・上杉憲政が北条氏康に破れ、上野国(群馬県)から謙信を頼って来る。	
1553	24	謙信、川中島に出陣し、武田信玄と戦う。(第1回川中島の戦い) 初めて上洛(京都に行く)し、天皇に拝謁する。「戦乱を鎮めよ。」との命を受ける。	
1555	26	信玄と戦う。(第2回川中島の戦い)	
1557	28	信玄と戦う。(第3回川中島の戦い)	
1559	30	将軍足利義輝の要請で謙信上洛する(2回目)。将軍に忠節を誓う。	
1560	31	安房(千葉県南部)の里見氏が北条と戦い、謙信に助けを求める。 北条と戦うため、初めて関東に出陣。(以後、関東遠征は13回にも及ぶ。)	1560 桶狭間の戦いで、信長が今川を破る。
1561	32	上杉憲政を奉じ、越後・関東の武将を率いて、北条氏康の小田原城を包囲する。 鎌倉で関東管領職を譲られ上杉の姓と憲政の「政」の字をいただき、上杉政虎と改名 9月、信玄と戦う。(第4回川中島の戦い) 12月、将軍足利義輝の「輝」の字をいただき、上杉輝虎と改名。	
1564	35	信玄と戦う。(第5回川中島の戦い)	
1570	41	上杉謙信と改名。	1573 信長が将軍を京都から追放し、室町幕府が滅亡。
1576	46	本願寺は信長に対抗できる唯一の人物として、謙信に救いを求める。	1575 長篠の戦いで織田・武田連合軍が武田軍を破る。
1577	48	7月、七尾城(石川県)を攻略。 9月、七尾城を救おうとして出陣した信長軍を、加賀(石川県)、手取川で破る。	
1578	49	1月、関東出陣令を出す。 3月、脳溢血のため春日山城で突然の死去。	

資料 7



資料 8



手取川の戦いの原因は?



資料 9

葶 (からむし) の刈り取り



資料 10



青葶 (あおそ)

2 時間目 資料 1

上杉謙信の生涯戦績

70 戦して、43 勝 2 敗 25 引き分け

☆ 戦いをした場所と勝敗

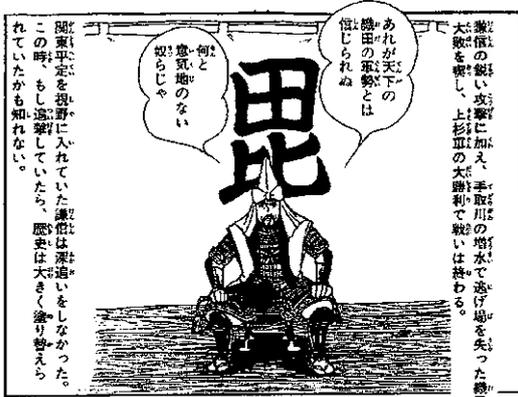
新潟県	7 回 (7 勝)	
長野県	7 回 (2 勝)	5 引き分け)
富山県	14 回 (10 勝)	4 引き分け)
石川県	5 回 (4 勝)	1 引き分け)
群馬県	17 回 (11 勝)	6 引き分け)
栃木県	10 回 (5 勝)	5 引き分け)
茨城県	3 回 (2 勝)	1 引き分け)
埼玉県	4 回 (2 勝 1 敗)	2 引き分け)
		1 敗は、生山の戦いで、北条氏康に
千葉県	1 回 (1 敗)	
		1 敗は、白井城攻めで、原という武将に
神奈川県	1 回 (1 引き分け)	
東京都	1 回 (1 引き分け)	

2 時間目 資料 3

2 回目の上洛

☆ 將軍足利義輝に、^{はいまつ}拜謁(会っていただくこと)することができました。その時、謙信は次のように言いました。

「私は、たとえ越後を失っても、將軍のために忠節を尽くします。」



手取川の戦いの勝敗は？





手取川古戦場付近の石碑



拡大した石碑

上杉・織田手取川の戦

天正五年（一五七七）九月二十三日、上杉謙信と織田信長軍の戦いが、この手取川一帯で行われ、この地より退却することができた。

九月十五日、上杉謙信は七尾城を攻めしたが、織田信長軍総勢五万が加賀手取川を越えたという情報を受け、九月十八日、馬を走らせ南下した。

柴田勝家を総大将に前田利家、滝川一益らの勇將が謙信を待ち受けていた。折しも七尾落城の悲報が伝わると、織田軍は浮足立ち、士気が低下したため、不利を悟った織田軍は九月二十三日、夜攻に紛れて退却を始めた。

ところが運悪く手取川の増水で逃げ場を失い、織田軍は千余人が討ち取られ、川に流された者、その数を知らず、といわれたほどの大打撃を受けて退散した。このとき、謙信は「信長と陣地を決する覚悟で臨んだが、意外弱く、この命なら天下を統一することは簡単だ」と言っている。

手取川での両軍の激突の様子を後世の人は

上杉に逢ふては織田も名取川（手取川）
はねる謙信進くるこふ長（信長）

という狂歌に詠んでいる。

謙信は関東情勢が気にかかっていたので、織田軍を退撃せずにはいたらん歸国し、関東を平定した上で上洛しようと考え、春日山城に凱旋した。

越後の宮居多神社宮司

花ヶ前查明氏エ、上杉謙信、

資料 15

3時間目 資料 1

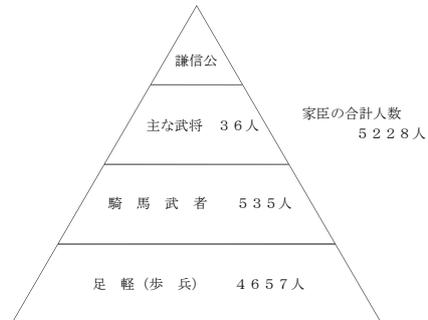
謙信公関東出陣の時期

第1回	1560年(31歳)	8月末、上杉憲政と関東へ出陣、越年。	翌年6月、帰国。
第2回	1561年(32歳)	11月、関東出陣、越年。	翌年4月、帰国。
第3回	1562年(33歳)	12月、関東に出陣、越年。	翌年4月、帰国。
第4回	1563年(34歳)	11月、関東に出陣、越年。	翌年4月、帰国。
第5回	1565年(36歳)	11月、関東に出陣、越年。	翌年4月、帰国。
第6回	1566年(37歳)	10月、関東に出陣、越年。	翌年2月、帰国。
第7回	1567年(38歳)	10月、関東に出陣。	12月、帰国。
第8回	1569年(40歳)	11月、関東に出陣。	翌年4月、帰国。
第9回	1570年(41歳)	10月、関東に出陣。	ほどなく帰国。
第10回	1571年(42歳)	11月、関東に出陣。	翌年1月、帰国。
第11回	1574年(45歳)	2月、関東に出陣。	5月、帰国。
第12回	1574年(45歳)	8月、関東に出陣。	11月、帰国。
第13回	1577年(48歳)	5月、関東に出陣。	ほどなく帰国。

資料 16

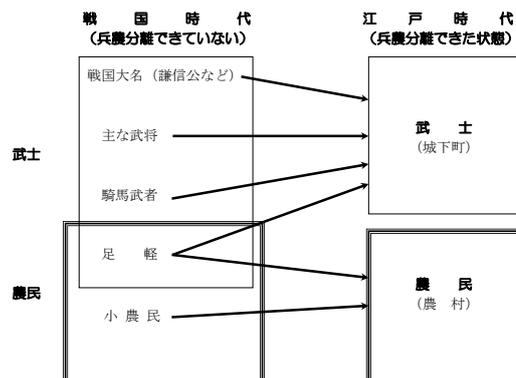
◆3時間目 資料 2

謙信公の家臣の構成(1575年・46歳)



◆3時間目 資料 3

兵農分離(へいのうぶんり)



<参考資料>

「敵に塩を送る」

越後の上杉謙信と甲斐(今の山梨県)の武田信玄は戦国時代を代表する有名な武将です。この二人はこれまで何度も合戦を繰り返し、敵対していた間柄でしたが、次のような話が昔から伝わっています。

1567年(永禄10年)武田信玄は13年間戦いで協力してきた今川氏(駿河・今の静岡県)との同盟を破棄し、東海方面への進出を企てます。自分の領内に入られた今川氏は、親戚関係にあった北条氏(相模・今の神奈川県)の協力を求め、武田領内への塩の流通を止めてしまいました。もちろん、このことはすぐに越後の上杉謙信の耳にも入りました。謙信は、武田の領民たちの苦しみを考えると胸が痛みました。武田の領地は甲斐(山梨県)と信濃(長野県)にあり、海に面していないため、「塩」を取ることができないことを謙信は知っていたのです。このまま塩が手に入らなければ、甲斐と信濃に住む領民たちの生死にかかわります。謙信の家来たちは、反対しました。しかし、「義」を重んじる上杉謙信は、家来たちにこう言いました。「信玄と戦っているのは弓矢であって、米や塩ではない。」そして、越後から信濃へ「塩を送る」ことを謙信は決意したのです。

* 「義」…正しい行いを守ることであり、上杉謙信公はこの「義」の心を大事にしたといわれる。

(4) その他の教科における参考事例

「ふるさと学習」参考事例集

	教科等	単元名・題材名	対象学年
小学校	生活	■探検活動で知る地域のよさ 「わたしの〇〇コレクション」	第1, 2学年
	社会	■たぐみな水利用と先人の願いや苦心 「中江用水と私たちの暮らし」	第4学年
	理科	■「関川」から学ぶ上越の自然 「関川を調べよう」	第5学年
	音楽	■上越地方の音楽に親しむ 「上越地方の音楽（民謡）に親しもう」	第5, 6学年
	図画工作	■地域の施設を生かした鑑賞学習 「ふるさとの画家・小林古径」	第5, 6学年
	家庭	■毎日の食事から「食」をみつめる 「見つめよう！毎日の食事」	第6学年
	道徳	■郷土の偉人の生き方に学ぼう 「ワインの父・川上善兵衛」	第5, 6学年
中学校	国語	■杉みき子の作品世界が誘う上越の魅力発見 「わたしの発見！杉みき子の世界・上越の魅力」	第1学年
	数学	■上越市の市章・自校の校章の設計図をつくろう 「平面図形 いろいろな作図」	第1学年
	理科	■上越の大地1000万年の歴史 「大地の変化」	第1学年
	英語	■英語で表現「私たちの上越」 「ALTに上越を紹介しよう」	第2, 3学年
	美術	■校歌の世界を描く 「校章の秘密を知る, 校歌の世界を描く」	第1学年
共通	社会, 道徳等	■「上越の先人 アラカルト」 ～地域素材で社会科, 総合的な学習の時間, 道徳にトライ！～	

上越への愛着を深めよう

－探検活動で知る地域のよさ－

1 単元名 「わたしの〇〇コレクション」(〇〇には学校名が入る)

2 単元で学ぶ上越らしさ

地域の人々、様々な場所やものとかかわる探検活動を経験した子どもは、さらに地域と深くかかわりをもとうとする。これは、自分が生活する地域のよさや特徴に気付いたことにより、自分が大好きで大切にしたい場所や人を見つけ、この地域に暮らしている喜びを感じているからである。自分と地域とのつながりや広がりを感じることから、ふるさと上越で生きる喜びを感じさせていくとともに、ふるさと上越を学ぶ素地を育むことができる。

上越市は多様な資源に恵まれており、海や山、田畑などの自然に恵まれている地域、雁木の町並みなど歴史を感じさせる地域、商店街が立ち並ぶ地域など様々なよさに分けられる。互いの地域のよさを交流させることにより、上越らしさを多面的に把握したり、地域への愛着を共有したりすることができる子どもの姿を期待している。

探検活動は、1年生と2年生の2年間というスパンで行い、活動エリアを学校周辺から校区へと広げ、十分に地域の特色に触れる活動を行えるようにする。本単元は、地域の特徴が顕著に表れる時季をとらえ、自分が見つけた地域のおもしろさを、絵や工作、写真や実物などで表現する。そして、まわりの人に伝えることを通して親しみの気持ちや愛着をさらに深めていく。

3 指導計画(全11時間)

第1次 〇〇へとびだそう(6時間)

- ・通学路や自分の家のまわりの自然や人々の様子を紹介し合う。
- ・紹介し合ったことをもとに、校区地図を見ながら、行ってみたい場所について話し合う。
- ・行きたい場所や目的別にグループを作り、探検の計画を立てる。
- ・地域探検に行き、地域の様子や自然、人々の様子など自分が気になることを見つける。
- ・発見したこと、体験したこと、考えたことなどを写真や絵、文などで集める。
- ・探検後、見つけたり体験したりしたことを伝え合う。
- ・詳しく調べたいことを整理し、探検に行く場所を決めたり、インタビューする内容を考えたりする。

第2次 わたしの〇〇コレクション(3時間)

- ・地域探検を通して発見したことや思ったことなどを、写真や絵、工作などで工夫して表現する。
- ・発表会で伝えたい内容や方法を考え、練習する。
- ・自分のコレクションを友達や地域の人に紹介する。

第3次 〇〇コレクション発表会(2時間)

- ・コレクションとして紹介したいことを話し合い、まとめる。
- ・近隣の小学校とコレクション発表会を開き、自分の発見したことや地域のよさなどを紹介し合う。

4 上越らしさを学ぶ展開例（第2次～第3次 7/11時間～11/11時間）

(1) わたしの〇〇コレクション

自分が見つけたよさやおもしろさを、絵や工作、写真や文などでまとめて、友達や地域の人に紹介することで、地域への愛着を共有する。

○学習活動	・配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> ○自分のコレクションを紹介する。すてきなこと、おもしろいこと、自慢など、コレクションに入れた理由を付け加えながら話す。 ○よかったことやもっと聞いてみたいことを話し合う。 ○友達の発表を聞き、自分のコレクションに付け加えをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のあとに質問や感想発表の時間をとることを知らせる。 ・友達の発表から、自然、人、場所、出来事など、様々な視点で地域をとらえられることに気付くようにする。 ・友達の気付きのよさを共有できるよう、よい質問や感想を取り上げて全体への確認の言葉がけをする。

(2) 〇〇コレクション発表会

近隣の小学校と、自分の地域を紹介し合うことを通して、地域を思う気持ちを共有したり、上越らしさの多面性をとらえたりする。

○学習活動	・配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> ○小グループに分かれ、〇〇コレクションを紹介する。 ○よかったことやもっと聞いてみたいことを話し合う。 ○互いの地域のよさを認めたり、いろいろな上越の姿があることを知ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のあとに質問や感想発表の時間をとることを知らせる。 ・同じところ、違うところ、初めて知ったことなど感想を発表する視点を与えておく。 ・自分の地域のよさを見つけられたことを賞賛し、活動に対する満足感がもてるようにする。

中江用水とわたしたちの暮らし

－たくみな水利用と先人の願いや苦心－

1 単元名 「中江用水とわたしたちの暮らし」

2 単元で学ぶ上越らしさ

中江用水は、上江用水、稲荷中江用水、大澁用水とともに、高田平野の主要な用水であり、関川右岸の水田を潤している。野尻湖及び乙見湖(笹ヶ峰ダム)を水源としている。水源を発した用水は、板倉発電所調整池下流で取水され、板倉発電所、方水路を経て放水され、板倉区熊川で中江幹線用水路に流入する。幹線水路部分は、熊川～四辻間9.9km、最大通水量は、毎秒7.9トンである。大熊川、別所川、櫛池川をサイフォンで横切り、各付帯水路に続き、約3,000ヘクタールの水田を潤した後、排水路などを経て、保倉川、関川に注いでいる。

4年生社会科で地域の発展に尽くした先人の働きを学ぶ際、開祖である小栗美作の業績や現在までの用水の改良の歴史を調べたり、地域の人から用水の恩恵や水田に水を引く工夫について聞き取ったりすることから、高田平野の米の生産には人々が水を追い求め、また、たん水と戦った歴史があることを学ぶことができる。事例では、中江用水を現地観察で学び、水田に水を送る工夫やその歴史について知り、さらに発展として自分たちの地域を流れる用水路について学ぶ流れを示した。現地で本物に触れ、取水の工夫や歴史を見聞きするとともに、学んだことを活用し、自分たちの地域ではどのような工夫をしているのか調べることから、地域の人や環境に対して自分らしい見方や考え方を培いたい。また、学んだことを他者に伝える国語科の学習活動ともリンクさせ、学んだことを要点を整理してまとめ、相手に伝える活動を設定するようにする。

展開にあたっては、第一次で示す中江用水を資料で学んだ後、学校近くの用水路の見学を第二次で実施することも可能である。そのため、展開例の第二次では、「稲荷中江用水」を現地観察で学ぶ場合としても活用できるように示した。

3 指導計画 (全13時間)

第1次 中江用水の取水口の仕組みを現地で観察し、水田に水が行き渡る工夫について調べる。

(事前学習1・現地見学4・まとめ2)

- ・写真や資料をもとに用水路の役割やサイフォンの仕組みについて学ぶ。
- ・現地見学を行い、用水路の役割や働きについて専門の方からお話を聞く。
- ・用水路から水田へ水が流れる経路をたどりながら実際に水が使われる様子を確認したり、用水の恩恵について現地の人に聞き取りを行ったりする。

第2次 学校周辺の用水路について、中江用水との共通点や異なることについて調べ、分かったことや考えたことをまとめ友達と交流する。(6時間)

- ・中江用水で学んだことから自分で興味を持った事柄についてさらに調べ、友達と交流しながら学ぶ。
- ・関川の水を巧みに水田に取り入れてきた歴史や学んだことの感想をまとめる。

4 上越らしさを学ぶ展開例（1次 2/13時間～5/13時間）

(1) 取水口見学とサイフォンの働きを学ぶ

- ・板倉町熊川の取水口と大熊川と別役川のサイフォンを見学地に選定した。見学に当たっては、関川地区土地改良区の方から現地説明を受けることもできる。見学前には「私たちの上越3・4年生」にある資料を基に上越地域の主な用水路やサイフォンの原理について事前に学んでおき、疑問やさらに聞いてみたいことを明らかにして見学に望みたい。また、関川近くには、石碑や中江用水の守り神、サイフォンを作る前の掛樋の跡もある。写真等に納め、二次で学校周辺の用水路を学ぶ際、共通点や違いについて着目できるようにすることも児童の追究意欲を高めることになる。

○学習活動	・配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> ○写真や資料から聞いてみたいことや自分で見学したいポイントを決める。 ・用水路の長さや工夫 ・1日の水量 ○取水口見学やサイフォンの実際について自分の目で確かめる。 ・発電の水との関係や工事の仕方 ・巧みな水の利用 ○石碑の由来や掛樋について現地の方にインタビューする。 ・水の守り神としての石碑 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地見学を意味あるものにするため、写真や中江用水の資料をもとに用水の役割について事前に把握できるようにすることが望ましい。 ・中江用水土地改良区の方をお願いして、現地での説明をしていただけるようにする。また、見学途中で石碑や掛樋について着目できるようにすることで、用水路にかける人々の願いをとらえることができる。

(2) 中江用水にかかわる人の働きと小栗美作

- ・土地改良区事務所へ見学を通して用水路からの水の取り入れの仕組みや歴史をとらえるとともに、水を守る人の働きや実際の水田への水の巧みな引き込みについて学ぶ。また、見学後、中江用水の開祖である小栗美作の願いや努力について、資料をもとに当時の農民の願いや苦労を知ることから自分らしい考えを明らかにする。

○学習活動	・配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> ○土地改良区事務所へ見学を通して、用水路の歴史や現在の働きについて多くの人がかかわっていることを知る。 ・用水路の水源や取水口の今と昔の違い ・土地改良区の人たちの仕事 ○小栗美作の働きについて資料をもとに当時の農民の願いと共に調べ、自分の感想をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取水口見学と引き続き、用水路を維持管理している方の取組の様子を聞く中から今と昔の水田の水の確保にかける人々の願いに触れさせたい。 ・現在まで用水の改修が繰り返し行われていることや今後どのような工事があるのか聞き取るようにしたい。 ・開祖としての小栗美作の業績について、資料をもとに考えることができるようにする。

(3) 学校区の水田の水はどこから来るのか（2次 7/13時間～13/13時間）

- ・中江用水を現地で学んだ児童は、取水口の存在やかかわった人の願いや努力について学んでいる。二次では、こうした児童がさらに学んだことを活用して、自分の学校区の用水路の働きや歴史について、自分で学べるように配慮したい。中江用水との共通点や異なる点を探しながら用水の現在と過去について対比しながら学ぶようにする。単元での見学ポイントを学校近くに流れる用水路とし、教室で中江用水について、その仕組みや歴史、かかわる人の存在を学んだ後に、現地で用水路の起こりや工夫を調べるように展開することもできる。（※として示した）
以下の展開例は稲荷中江用水を事例としている。

○学習活動	・配慮事項
<p>○仲町二丁目にある河波良神社の写真を示すことから用水路づくりにかかわった人の存在や業績を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 榊原政令や塚田五郎衛門 <p>※稲荷中江用水の取水口や各地域に分かれていく「せき」の存在を知るとともに、実際に水田づくりを行っている人からの聞き取りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関川頭首工と用水路の分岐 ・ 水の管理の大切さと収穫の喜び。 ・ 中江用水と稲荷中江用水の歴史 <p>○学んだことをさらに資料やインターネットを使って一人一人が新聞にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取水口や排水路について ・ 農家の人の願い ・ かかわった人や歴史 <p>○友達と新聞を読み合い、自他の違いについて着目し、用水路と私たちの生活について感想をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用水路の歴史について、資料をもとに考えたり、当時の農作に使った昔の道具なども資料として提示したりすることも児童の関心を高める。 <p>※土地改良区の方をお願いして、現地での説明をしていただけるようにする。また、見学途中にある石碑に着目させるようにする。中江用水との違いにも着目させたい。</p> <p>※用水からそれぞれの水田に水を引く経路をたどってみることも用水の水を実際に使っているという実感をもたらすことになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人の児童の興味関心に応じてグループを作り新聞にまとめていけるよう支援する。 ・ 水利権についての歴史では、児童が分かるように事前に資料を用意していくことも必要となる。 ・ 着眼の異なる友達の発表を聞き合うを設定するとともに「地域の人や環境について自分はどう思うか」活動を通しての自分らしい感想をまとめる場も大切にしたい。

5 その他

○中江用水や稲荷中江用水を学習材に活動を考える際、次の書籍が参考になる。

- ・ 参考：「中江用水史」・「新中江用水史」 中江土地改良区
- ：「稲荷中江用水史」 中江土地改良区
- ：「歩いて探る上越の史跡」 新潟県社会科教育研究会編
- ：「中江用水」 <http://www.valley.ne.jp/~nakae/>

「関川」から学ぶ上越の自然

—川の現地学習に出かけませんか—

1 単元名 「関川（「学校近くの〇〇川）」を調べよう」

2 単元で学ぶ上越らしさ

・高田平野を貫く全長64kmの関川。関川は上越を代表する1級河川であり、誰もが目にしている自然の事象である。関川での現地観察を通して、浸食・堆積・運搬作用をリアルに学ぶことができる。また、学習の発展として「自然災害」について、平成7年の7・11水害時の堤防決壊による田畑への冠水についても学ぶこともできる。子どもは、関川の雄大さや人間生活に影響を与える自然の力を学び、ふるさと上越の自然事象を確かに心に残すことができる。上流域から下流域までの観察ポイントを示す。

■上流域：苗名滝付近、狭い川幅と流れの速さでU字型に浸食された様子が観察できる。復旧工事跡より当時の水害の状況や自然災害と闘う人間の姿を学ぶことができる。

■中流域：妙高市の新関川橋付近、穏やかな流れと堆積物から流水の変化や礫の様子が観察できる。妙高市月岡付近では7・11水害の堤防決壊による冠水で被害を受けた工場や田畑の様子について学ぶことができる。

■下流域：上越市島田橋および直江津地区の日本海に流れ込む場所では、丸みを帯びた礫や石の並び方（将棋倒し状の配列）から流水の変わってきた様子がとらえられる。また、市内には正善寺川、青田川、保倉川、飯田川など関川に流れ込む支流がある。学校の位置する場所によっては身近な川を学び、その上で関川との合流点や海に流れ込む場所を学ぶという展開も考えられる。

3 指導計画（全12時間）

第1次 流れる川の働きを調べよう（4時間）

- ・川や川岸の土地の変化と流れる水の働きについて、地面に水を流し、流れの速さや地面の削られ方について実験を通して調べる。
- ・実験結果をもとに、流れる水の働きには、地面を削ったり、土や砂を運んだりする働きがあることを確認し、疑問点についてさらに実験を通して明らかにする。

第2次 川の水はどのように土地を変化させるのか話し合う（2時間）

- ・実験を通して調べた結果が、実際の川にもあてはまるのか、川の上流と中流、下流の写真資料を見ながら話し合う。

第3次 関川（学校近くの〇〇川）を観察しよう（6時間）

- ・関川の中流域と下流域の現地調査を通して、実験の結果を確かめる。
- ・自然災害について、7・11水害で田畑が冠水したり、堤防が決壊した場所について当時の様子や現在の災害を守る工夫について聞き取り調査を行う。【発展学習】

4 上越らしさを学ぶ展開例（3次 6/12時間～12/12時間）

今まで実験を通して調べてきた流れる水の働きについて、関川での現地学習から学ぶ。ここでは、妙高市の新関川橋から関川橋までの地点と月岡地区での新しくつくられた護岸を観察地点として選ぶ。関川の中流域の観察と災害を防ぐ工夫（発展学習）として堤防決壊後の新しい護岸を観察したり、地域の方への聞き取りを行ったりする。

(1) 関川現地学習①

- ・関川の現地調査を通して、堆積物の違いや丸みを帯びた石の様子に着目し、実験の結果を現地で確かめる。

○学習活動	・配慮事項
○新関川橋から関川橋までを歩きながら堆積物や流水の変化の様子をとらえる。 ・石の形 ・流れる水の量や速さ ○川の観察地点を決め、流水の大きさを実際に調べてみる。 ・流水の働きの違いや運ばれ土砂の様子	・実験結果を整理する中から、実際の川ではどのように水が働くのか、子どもらしい予想を大切に、現地観察に臨みたい。 ・丹念に見ていくと礫の形状の違いや流水の変化の様子をとらえることができる。 ・土砂を流す板等があるとよい。川を下流に向かって歩く中から観察ポイントを決め比較できるようにする。

(2) 関川現地学習②【発展学習】

- ・妙高市の月岡地区での現地調査を通して、自然の力について聞き取り調査を行う。
新しい堤防がつくられた家の周辺の方に7・11水害当時の関川の様子について聞き取る活動を入れることによって、当時の被害状況を明らかにすることができるとともに災害を防ぐ工夫をとらえることができる。

○学習活動	・配慮事項
○妙高市月岡地区の関川の復旧した護岸の見学や現地での聞き取りを行う。 ・石が転がる音や決壊当時の様子 ・冠水した田畑の様子と復旧への取組 ○当時の水害の様子について、被害や復旧活動といった視点から振り返り感想をまとめる。	・95年の「7・11水害」の被害の実際について、松下電子工場や川周辺の民家への聞き取りを行う。 ・水害当時の様子について写真資料も提示し流れる水の力について着目させたい。 ・工事事務所への聞き取りやインターネットを活用した調べ活動も可能である。

5 その他

- 参考文献：東京書籍教師用指導書北陸・信越版 P28～29
：「7・11水害」新潟日報事業社

上越地方の音楽に親しもう

1 題材名 「上越地方の音楽（民謡）に親しもう」

2 題材で学ぶ上越らしさ

世界中にはたくさんの歌があるが、それは、それぞれの国や地方のふるさとのわらべうたや民謡から生まれたものが多い。また我々が今、演奏したり歌ったりしている曲の中にも、わらべうたや民謡を素材とした作品も、たくさん残されている。ふるさとに伝わっている音楽を聴いたり、歌ったりして音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てていくことは大切なことである。

上越の各地域には、それぞれ地域に伝承されている民謡や遊び歌や盆踊り唄等がある。直江津の祇園祭の祭囃子のように、地域において大人から子どもへ伝承される形が整っているものもあるが、これら地域素材が各学校での指導に生かされている例は少ない。また、地域に伝承されている音楽（民謡等）を上越地域の小学校で指導（導入）できるかという点、人的環境や物的環境等で困難であると考えられる。

そこで、音楽を表現する活動に重点を置くのではなく、上越地域の音楽を鑑賞し、親しむことで、「音楽（歌詞）」に込められた「上越で生きてきた人々の思いや願い」を感じ取り、味わっていききたい。

上越の旧市町村すべての代表的な音楽（民謡等）を取り上げられればよいのであるが、それには音源（CDやDVD等）として残されていることが条件となる。現存するもので、使用可能なものを精査して指導に当たることが大切になる。

3 指導計画

(1) 5年（2時間）

- ・新潟民謡「上越の民謡」に収められている「高田の四季」「赤倉音頭」「妙高高原音頭」「直江津甚句」「越後いたこ」「八社五社」「直江津小唄」「春日山節」等を、歌詞カードを見ながら全体的に味わって聴く。
- ・「直江津甚句」にあるような「アリヤサノヤッサ」などの合いの手を取り出して練習し、音楽に合わせて歌うことで、「歌」と「間合い」の掛け合いを楽しむ。
- ・それぞれの民謡に合わせて、手拍子を入れてみる。

(2) 6年（2時間）

- ・「瞽女うたⅡ（高田瞽女篇）」に収められている「門付唄（かわいがらんせ）」「葛の葉の子別れ」「松前口説」等を、歌詞カードを見ながら全体的に味わって聴く。
- ・（高田）瞽女は、三味線を抱え、上越地区の農・山村、町の各戸を回った女遊芸人で、各地域の民謡の伝承に大きな役割を果たしてきたことを知る。

4 上越らしさを学ぶ展開例（5年）

○学習活動	・配慮事項
<p>○上越地方に伝承されている民謡を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの民謡の特徴を感じ取って聴くとともに、聴いて感じたことや考えたことを数行言葉で記述する。 歌詞を見ながら、口ずさみながら聴く。 <p>○「アリヤサノヤッサ」などの合いの手を取り出して練習し、音楽に合わせて歌いながら「歌」と「間合い」の掛け合いを楽しむ。</p> <p>○それぞれの民謡に合わせて、手拍子を打つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 上越地方の地図を掲示し、どこの地域に伝承されているかを確認する。 音源が古く、ノイズが入っていて聴きにくい曲もあるが、貴重な音源であることを児童に伝える。 歌詞を印刷して配付する。 歌いやすい合いの手の入っている曲をいくつか選んでおきたい。 「歌」と「間合い」のグループに分けて掛け合いを楽しむこともできる。

5 その他

(1) 本題材を指導する際に参考になるCD

- 新潟民謡 「上越の民謡」 多田金 NC-602
「高田の四季」「赤倉音頭」「妙高高原音頭」「直江津甚句」「越後いたこ」「八社五社」「直江津小唄」「春日山節」 他 全18曲
- 「越後酒造り唄の世界」 茂手木潔子 日本コロムビア COCF-15050
「吉川・柿崎の酒造り唄」 他 全17曲
- 「瞽女うたⅡ」 監修・解説一市川信夫 高田瞽女篇 ON-39

また、上越音楽教育研究会の教材開発研究部で、上越地方のわらべ歌や民謡の中で、音楽の授業の鑑賞用教材用としてまとめたCDが、上越音楽教育研究会事務局（上越教育大学附属小学校内）に保管してある。興味のある方は参照されたい。

(2) 上越地方の伝統芸能（上越音楽教育研究会編「じょうえつ ふるさとのうた」教育芸術社参照）

上越地方には、舞楽・風流踊り・火祭り・神楽・おはやし・春駒など、いろいろな伝統芸能が伝承されている。各校区にも、いろいろなものがあると思われるので音楽と国語、社会、図工、総合的な学習の時間等と関連を図った学習が可能である。上越地方に残っているものの中から、3つ紹介する。

- 春駒（中郷区岡沢地区）……今から200年程前に、岡沢に立ち寄った旅芸人の一行の中の一人から、若い衆が習いおぼえたと言われている。太鼓、三味線、笛などの楽器が伴奏する。
- 天津神社の舞楽（糸魚川市一の宮 天津神社）……4月10日の祭りに、境内の舞台で演じられる。稚児の舞が主体で、振鉦（えんぶ）、陵王（りょうおう）等12曲からなる。
- 関山神社の火祭り（妙高市関山）……7月17日18日に行われる祭り。柱松の式の中で、若松に火をつけ、その年の豊作を占う。「めでためでたの若松さまよ、枝もさかえる葉もしげる」と歌う。

地域の施設を生かした鑑賞学習

～美術館に行こう！～／～美術館がやって来た！～

1 題材名 「ふるさとの画家・小林古径」

2 題材で学ぶ上越らしさ

学習指導要領では、「鑑賞の指導の充実」として、「すべての学年での独立した鑑賞の指導」「美術館や博物館等の施設や地域の文化財等の積極的活用」を示している。しかし、現状を見ると、鑑賞の指導が積極的に行われているとは言えない。地域にある美術館（博物館）を積極的に活用することにより、「ふるさと上越」を意識した学習活動が可能となる。

ここでは、上越市ゆかりの小林古径の作品や人柄にふれ、作品のよさや美しさ、表現の意図、生き方などに関心をもって鑑賞することをねらいとしている。

<小林古径（こばやし こけい）>

1883年（明治16年）中頸城郡高田土橋町（現上越市大町1）に生まれる。日本画家。写生を基本とし、大和絵や琳派、日本及び中国の古画などを徹底的に研究し、近代的な感覚を吸収し成熟させた「新古典主義」と呼ばれる画境に到達し、近代日本美術史における一つの頂点を築く。日本美術院評議員、東京芸術大学教授をつとめ、昭和25年には文化勲章を受章した。

<小林古径記念美術館・小林古径邸（上越市本城町7-7）>

古径の作品、約1,300点を収蔵（最近は、「デジックアート」：原寸大デジタル複製画も収蔵）

3 指導計画（全6時間）

第1次 「小林古径って、どんな人？」「日本画ってなーに？」（1時間）【事前学習（調べ学習）】

第2次 「小林古径記念美術館に行ってみよう！」（4時間）【現地学習】

第3次 「マイ・アートコレクション」（1時間）【事後学習（まとめ）】

※実際に美術館に行けない場合は、出前授業を要請すれば、対応可能。（デジックアートを持ち込んで鑑賞授業を行う。）…第2次として、2時間は必要。

※美術館学芸員とのT・T指導を行う。事前に、電話等で、簡単な打ち合わせをしておく。

※可能な範囲で、表現活動と関連させる。（「書く活動」・簡単な模写・ぬり絵・墨で描く 等）

4 上越らしさを学ぶ展開例

(1) 第1次【事前学習】

○学習活動	・配慮事項
○小林古径について調べる。 ○日本画の技法や材料, 用具について調べる。(西洋画との違い) ○調べたことをまとめる。 ○調べたことを発表し合う。	・参考図書やインターネットの情報等から調べるようにする。 ・調べたことは, 「マイ・アートコレクションカード」①にまとめていく。

(2) 第2次【現地学習】

○学習活動	・配慮事項
○古径の生き方, 交友関係, エピソード等を知る。 ○作品を介してギャラリートークを行う。	・美術館学芸員とのT・T授業で行う。(例: 説明や発問は主として学芸員が行い, 児童の発言の拾い出しや交流は, 教師が主に行う。等) ・気付いたことや感じたことは, その場でメモする。 ・最後に, お気に入りのポストカードを1枚選ぶ。

(3) 第3次【事後学習】

○学習活動	・配慮事項
○「マイ・アートコレクションカード」②に, お気に入りのカードを差し込み, 印象(感想)等をまとめる。 ○互いの印象(感想)を交換し合う。 ○カード①と一緒にし, 「マイ・アートコレクション」を完成させる。	・ポストカードは, 実際に使えるように, コレクションカードに貼り付けず, 差し込み式にする。 ・小林古径という人物(生き方)と作品の両面からまとめられるカードにする。 ・時間にゆとりがある場合は, コレクションカードに, 簡単な模写をさせることも考えられる。

5 その他

- ・「小林古径記念美術館」 〒943-0835 上越市本城町7-7 (高田公園内)

<Tel 025-523-8680 Fax 025-522-7205 E-Mail kokei@city.joetsu.lg.jp>

◇休館日: 月曜日 (月曜が祝日の場合は翌日)

◇入館料: 市内の学校に通う小・中学生は無料

- ・美術館にお願いしておく, デジックアート作品(複製画)の期間貸し出しを受けることができる。学校の一角に「小林古径コーナー」を設けることも有効な手立てである。
- ・参考となるホームページ:

「小林古径記念美術館」 <http://www.city.joetsu.niigata.jp/sisetu/kokei/index.htm>

「東京国立近代美術館」 <http://www.momat.go.jp/Honkan/Kokei/#intro>

「フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』」HP

「上越市観光HP」 <http://www.city.joetsu.niigata.jp/kankou/ijin/ijin4.html>

毎日の食事から「食」をみつめる

—新潟・上越の米（みそ）文化を味わってみませんか—

1 題材名 「見つめよう！ 毎日の食事」～ごはんのみそしるをつくらう～

2 題材で学ぶ上越らしさ

- ・米を中心とする農耕文化が発達してきた日本である。時代の推移と共に今や外食産業花盛りとなり、自分で調理する米離れの平成の世となった。しかし、新潟といえばコシヒカリがイメージできるほど、新潟と米は切ってもきれない関係である。コシヒカリブランドを立ち上げ、作付面積はじめ取れ高の高い我が県に暮らすことを、「食」を学ぶことから児童にとらえさせたい。
- ・家庭科の題材として、「ごはんのみそしる」は必須の学習材である。日本の伝統的なごはんを主食としてきたこと、ごはんと並んでみそしるは、一食の献立の中でも実の取り合わせで栄養のバランスをとる汁物として、長い間伝統的に食べ続けてきたものである。単元では、ごはんのみそしるを食するための調理実習を主眼とした展開ではなく、発展学習として、上越の地が育てた米や味噌や野菜を使った郷土料理を扱い、歴史的背景や食物への思いを理解することで、上越の食をさらに知る授業構成とすることができる。他教科との内容の関連を図り、地域の生活から創意工夫した題材を構成することが大切となる。
- ・市内の学校で「食」をテーマに総合的な学習を展開している学校では、単元配列を組み替え、収穫後に自分の手で育て作った米やみそを食する感動を味わうことで、ふるさとが生んだコシヒカリやみそのおいしさを実感し、欠かすことのできない食材への思いを一層深めることが可能になる。自分たちで協力し育て作った稲が米となり、また、大豆から味噌作りへの過程は、上越の自然から農法の工夫や労働の重み、人とのかかわりから感謝、自然の大地への感謝の思いを抱かせる学びの機会を生み出していく。

3 指導計画（10時間）

第1次 どんな食べ物を食べているのかな（1時間）

第2次 ごはんのみそしるをつくらう（7時間）

第3次 おかずの必要性を考えよう（2時間）

4 上越らしさを学ぶ展開例

(1) 導入時の工夫により、コシヒカリの存在を再認識する。(2/10)

○学習活動	・配慮事項
○導入時に外米とコシヒカリの食べ比べをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・一口の食べ比べとするため、味だけでなく、じっくり見ることで形状の違いやつや、光など、コシヒカリの特徴をつかむ。普段気付かないコシヒカリの甘みやねばりなどおいしさを実感する。 ・全国米マップや作付面積・取れ高等のグラフを活用する。
○コシヒカリ誕生の歴史的背景を理解する。	
○新潟が誇るコシヒカリを炊く。	

(2) みそしるの実に上越の地場産物を生かしたものを使う。(4/10)

- ・みそ汁をつくる中で地場野菜を取り入れるようにする。地場産の野菜の大切さについて安全性や生産者の願いについて資料をもとにとらえることができるようにする。

○学習活動	・配慮事項
○みそしるの実の組み合わせを考える。 ・地域によってみそ汁の具が違うこと ・地域の特色ある物が入っていること ○季節の食材や地場野菜を知る。 ・季節によって食材が豊富にあること ・地場産の野菜のよさ	・だし・みその種類は、家庭や地域によって多様であることを友達との交流で気付かせる。 ・季節の食材や地場野菜の特徴を知り、みそしるの実に生かす。 ・生産者の願いや地場産の野菜の有用性をとらえることができるように参考資料等を用意したい。

(3) 米文化を代表する行事食や郷土料理を調べる。【発展学習：3時間】

○学習活動	・配慮事項
○節句を祝う行事食や昔から伝わる郷土料理を調べる。 ・成長や生きていくことの節目としての食 ・地域による郷土料理の違いや意味 ○作り方を地域の方に聞き取りをしたり、家庭で調べたりする。 郷土料理に込められた願いや工夫 ○地域の料理の師匠を招き、お米を中心とする行事食や郷土料理と一緒に作る。 ・地元に残る郷土料理のよさ ・普段の食生活と郷土料理との違い	・調べ活動を通し、行事食や郷土料理の存在から、自然環境とのかかわり、子どもの成長への願いや祝い、豊作祈願等、生きる上で食を通した人々の思いを理解させる。 ・全てを作ることが困難な場合、笹寿しでは、上に載せる具材を給食で活用できる場合もある。栄養士との連携を図ることも大切となる。 ・親子活動としての展開やお世話になった人を招待し活動の節目とするとともに、地域の食生活改善推進委員を招き、自分たちの食生活を振り返る機会とするような活動も可能である。

5 その他

地場産の野菜のよさや郷土料理について学ばせる活動を考える際、食生活改善推進委員会でまとめたものが書籍になっている地区も多い。他に参考になる書籍として：新潟県農業改良協会「にいがたの味」：日本スポーツ振興センター「学校給食における地場産物活用事業報告書Ⅰ」があげられる。

川上善兵衛の生き方から学ぶ道徳学習

－郷土の偉人の生き方に学ぼう－

1 主題名 「ワインの父 川上善兵衛」

2 本主題で学ぶ上越らしさ

(1) 川上善兵衛の業績

川上善兵衛は、明治元年(1868年)に現在の上越市(旧高士村)北方の庄屋の長男として生まれた。当時の北方は冷害や洪水のため、思うように米の収穫ができないこともあり、農民は苦しい生活をしいられていた。川上家は裕福な地主であったため、農民の納める年貢によって安心して生活を送ることができた。ところが、善兵衛はそんな苦しい農民の生活を黙ってみていることができず、雪の降る上越の気候にもあい、あれた土地や山の斜面でもできる作物を探した。

一方で、善兵衛は交友関係が広く、有名な人とのつきあいも多かった。幕末の政治家である勝海舟とも親しく、いろいろと相談にのってもらっていた。あるとき、勝海舟の助言がきっかけで、ワイン作りに興味をもち、ぶどう栽培とそれを使ってのワイン作りを人生の目標にして挑戦を始めた。

善兵衛は山梨のぶどう園に下働きとして住み込み、三年間ぶどう栽培を学んだ。ふるさとに帰ってから、家族の反対を押し切って、先祖代々大切にしてきた広い庭園を畑にし、たくさんのぶどうの苗を植えた。ところが、苦勞して育てたぶどうで作ったワインはすっぱくてとても飲めるものではなかった。一時はやる気を全くなくした善兵衛であったが、不作にも負けず米作りに取り組む農民を見て、再び挑戦を始めた。外国からも書物を取り寄せ、熱心にワイン作りの研究に打ち込んだ。外国からたくさんのぶどうの苗木を取り寄せ、上越の風土にあったぶどうの品種改良に根気強く取り組んだ。また、冬の雪を貯蔵し、夏にワインを冷やすために利用した。数々の失敗を繰り返しながら、ようやく納得のいくワインが完成した。

(2) 川上善兵衛の生き方から学ぶ上越らしさ

川上善兵衛は岩の原ワインの創始者であり、日本のワインの父と呼ばれている。上越のみならず日本を代表する偉人である。子どもたちは上越出身の善兵衛に親近感をもち、興味・関心を高めるであろう。郷土のために尽くした先人の業績を通して、その人の生き方を学ぶことは、地域素材としての人材から学ぶことであり、地域に密着した学習である。郷土のために貢献した先人を学ぶことで改めて郷土のよさを実感し、郷土への誇りを高めることにつながる。

社会科や総合的な学習と関連させた総合単元的な道徳学習を構想することもでき、郷土の先人の生き方を学ぶことを通して、ふるさとを愛する心情を豊かにすることが期待できる。

(3) 川上善兵衛の生き方として考えさせたい場面

- ① 裕福な生活を捨て農園の下働きとして努力したり、家族の反対を押し切って大切な庭園をぶどう畑にしたりする場面
- ② 周囲の農民からの冷たい視線にも負けずぶどう栽培に励んだにもかかわらず、その努力が報われず、全くやる気をなくしてしまう場面
- ③ 不作に負けず米作りに励む農民を見て気力を取り戻し、努力を続ける場面
- ④ 雪を利用した貯蔵方法によってワイン作りを成功させた場面

資料を基に、善兵衛の心情を共感的にとらえさせながら、失敗にもくじけず、夢に向かって努力していこうとする心情や態度を育てたい。

3 指導計画（事前事後指導の工夫）

事前にこれまで挫折した経験を想起させておく。どのような失敗体験か、どうした失敗したのか、その理由も振り返らせておく。

事後には目標の立て方、目標に向かっての努力事項を具体化させる。そして、活動の節々で目標や努力事項に対して自己評価させる。努力の成果を実感させるとともに、努力を賞賛したり激励したりしていく。目標に向かって根気強く努力することのすばらしさを実感させていく。

4 上越らしさを学ぶ展開例

(1) ねらい

川上善兵衛のワイン作りに対する努力を学ぶことを通して、目標に向かって根気強く努力しようとする心情を育てる。

(2) 展開例

○学習活動	・配慮事項
<p>○目標に向かって努力したが、うまくいかなかった経験について発表し合う。</p> <p>○資料を読んで川上善兵衛の業績について知る。</p> <p>○善兵衛の生き方が表れている場面における心情や生き方のすばらしさを話し合う。</p> <p>① 善兵衛はどんな思いから山梨の農園へ下働きに出たのだろうか。</p> <p>② 苦労の結果、すっぱくてとても飲めないワインができたとき、善兵衛はどんなことを思っただろうか。</p> <p>③ 不作に負けないで米作りに励む農民を見てもう一度努力する善兵衛のどんなところがすばらしいのか。</p> <p>④ 努力が報われてワイン作りに成功したとき、善兵衛はどんなことを思っただろうか。</p> <p>○善兵衛の生き方とこれまでの自分を比較し、これからのあり方を考える。</p>	<p>・どのような経験か、なぜ、うまくいかなかったのかを発表させる。失敗は悪いことではなく、成功への過程であることを補足する。</p> <p>・発表を通して、ねらいへの方向付けを行う。</p> <p>・岩の原ワインの実物、岩の原ぶどう園の写真などを提示し、関心を高める。</p> <p>・資料提示に当たっては、必要に応じて善兵衛の心情の表れている文章をカットして提示する。</p> <p>・これまでの自分の生活を振り返るとともに、これからどのようにしていきたいか、考えさせることができるようにする。</p>

5 その他

- 参考文献：「いのちをかがやかせて」道徳教育用郷土資料 新潟県教育委員会
- ：「越佐の心 改訂版」（道徳教育用郷土資料 新潟県教育委員会）には、高橋翠効（スキーの普及）や柳沢謙（結核予防の父）などの資料と指導の手引きが掲載されているので、活用することができる。

杉みき子の作品世界が誘う上越の魅力発見

－「小さな町の風景」表現リサーチ，ウォッチングとフィールドワーク－

1 単元名 「わたしの発見！ 杉みき子の世界・上越の魅力」

2 単元で学ぶ上越らしさ

杉みき子——。上越の中学生なら誰でも知っている，郷土の作家である。豊かなテーマの数々を，風土の日常生活を背景に，巧みな構成と表現で描いてみせる杉作品の世界は，子どもたちの心をひきつけずにはおかない。

本単元は，第1学年の終盤に，国語学習の総まとめとして位置付く特設単元である。本単元では，杉みき子の代表作「小さな町の風景」を丸まる一冊，教材とする。「小さな町の風景」には45の短編が「坂のある風景」「商店のある風景」等の八章に配置され，作者在住の地，上越市をイメージさせる風景，抒情が，作品のテーマと絡めて巧みに描かれている。また，作品全体に，杉さんのあふれんばかりの郷土愛，あたたかな人柄が表れている。

生徒は，これまでの国語学習を生かしながら，「小さな町の風景表現辞典」，「わたしの発見！ 杉みき子の世界・上越の魅力（追究結果のまとめレポート）」づくりといった学習活動を行う。これらの活動を通して，生徒が杉さんの豊かな感性や杉作品の優れた構成や表現に誘われて，自らの感性を研ぎ澄ませ，想像力をはたらかせて作品を味わいながら国語力を高めることが期待できる。あわせて，作品に登場する「坂」や「海」などの風景，それにかかわる登場人物の心情から，生徒が上越のよさ（四季それぞれに美しい山や海や町並み，歴史ロマン，雪国ならではの豊かな人情など）を発見して，郷土愛を高め，上越に生きることに誇りを感じながら，上越と自分の未来に夢をはせることが期待できる。

なお，杉作品を教材として取り上げ，上越の風土という共通の基盤で学習を展開するよさは，下記のとおりである。

- 「杉さんも同じ雪を見たんだ」「杉さんはこの雪をどう感じたのか」「友達は，地域の方は雪をどう感じているか」と，共感や発見，疑問をもちやすいこと。
- 同じ空を見，風を感じ，雪に触れている生徒たちであるから，互いの読み取りや表現の共通点や差異を見出しやすいこと。
- 生徒が，身近な杉作品からやすらぎと温かさを感じ，勇気づけられること。
- フィールドワークによる体験的な学びが可能なこと（作品に登場する風景に実際に足を運んで，自分の目で見，耳で聞き，じかに触れて，そのよさを実感できる。また，杉さんをはじめ，学習にかかわりのある方と，じかにふれ合うことができる）。

3 指導計画（全10時間）

第1次 「文は人なり」について考え，「風船売りのお祭り」の表現リサーチ，表現ウォッチングをしよう（1時間）

- ・「文は人なり」という言葉から，作品が作者の感性，人格の表れであり，作者の感性，人格は風土によってはぐくまれることを知る。
- ・表現リサーチ（語句の調査），表現ウォッチング（語句をよく観察して，その語句のイメージ，役割，その語句を用いた作者の気持ち，状況などを発見すること）の方法を知り，「風船売りのお祭り」を表現リサーチ，ウォッチングする。優れた表現を味わいながら，杉さん（上

越)の祭のイメージを想像する。

第2次 表現リサーチで「小さな町の風景表現辞典」を作ろう(2時間 家庭学習)

- ・担当項目を表現リサーチしながら「小さな町の風景」を読み、杉作品の優れた表現にふれる。(項目「坂」を担当した生徒は、「小さな町の風景」の全編から「坂」にかかわる表現を探し、何ページ何行目に出てくるかを表現リサーチプリントにまとめる)
- ・表現リサーチをまとめて「小さな町の風景表現辞典」をつくる。(全員配布)

第3次 表現ウォッチングにより追究テーマを決め、追究計画を立てよう(2時間)

- ・「表現辞典」を活用して、興味のある項目を表現ウォッチングする。
- ・追究テーマを決め、追究計画を立てる。

第4次 追究活動により杉作品への思いを深め、広げながら、上越の魅力を発見しよう(5時間)

- ・追究計画に沿って追究活動(表現ウォッチングの見直しや調べ学習、現地見学やインタビューなど)をする。
- ・追究結果を「わたしの発見!杉みき子の世界・上越の魅力」にまとめ、紙面交流する。
- ・学習を振り返り、「文は人なり」や杉作品、上越の魅力を確認する。

4 上越らしさを学ぶ展開例

(1)「風船売りのお祭り」表現リサーチ・ウォッチング(第1次 1/10時間)

「文は人なり」という言葉から作品と作者、風土のかかわりについて知り、「風船売りのお祭り(お祭りの時期の過ぎた坂の上で、風船売りの老人と出会う少女の姿を描く作品)」の表現リサーチ、ウォッチングをする。冬には雪化粧で白一色となる坂の上の一角に、夏が訪れ、お祭りの日となると「はなやかな色彩」に満ちあふれた屋台が立ち並ぶ。お祭りのはなやかさや活気を、少女は(たぶん作者も)心待ちにし、お祭りからエネルギーを得ていたと予想できる。生徒は、表現リサーチ、ウォッチングで表現にしっかりと立ち止まり、杉さんの優れた表現を味わいながら、上越の温かな祭りのイメージをもつことができる。

○学習活動	・配慮事項
<p>○「文は人なり」という言葉を知る。</p> <p>○学習のねらいと主な学習活動を知る。</p> <p>○表現リサーチ、表現ウォッチングのねらいと方法を知る。</p> <p>○「風船売りのお祭り」を黙読し、表現リサーチをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「坂」=坂の上 ・「色彩」=はなやかな色彩 青空 ・「見る表現」=まぶしい ふりあおぐ <p>○表現ウォッチングで、優れた表現にふれながら、杉さん(上越)の祭のイメージを想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「坂の上」=わくわくするところ ・「青空」=希望がかないそう 上越のきれいな空 ・杉さんの祭のイメージ=夢に向かう元気を 得る、はなやかな行事 	<ul style="list-style-type: none"> ・「文は人柄を表す」という文意を考えさせてから、文学作品が作者の感性や人格の表れであり、感性、人格は風土によってはぐくまれることを説話する。 ・作品世界を味わうために、表現を見つめる表現リサーチ、ウォッチングを行うことを告げる。 ・学習プリント「風船売りのお祭り表現リサーチ・ウォッチング」 ・作品で重要な役割を担う項目「坂」「色彩」「見る表現」をリサーチ項目として示す。 ・多くのウォッチング(発見)ができるよう、表現にかかわるこれまでの経験や知識を想起し、多様な視点から表現を見つめるよう助言する。

(2) 「わたしの発見！杉みき子の世界・上越の魅力」のための追究活動②

(第4次 5/10～8/10時間)

各自が設定した追究テーマを追究するために、①校内での再度の表現ウォッチング、図書資料やインターネット検索による調べ学習、②現地見学やインタビュー活動などを行う。海辺の子どもたちには見慣れたテトラポットも、杉さんの作品世界に登場すると特別なものとなる。テトラポットを杉さんが好きだと知れば、不思議と魅力あるものに映る。時には「もう降らないで」と思う雪も、雪道を譲り合う話を聞けば上越人の人情に心がぽつと温かくなり、杉さんが「雪はりんごのにおいがする」と言えば、思わず雪に鼻を寄せてみたくなる。上越市の美しい絵葉書のような杉作品を手に、生徒は追究活動のために自ら足を運んで、上越の魅力を体験的に学ぶ。

○学習活動	・配慮事項
追究テーマ「杉さんが愛した上越の祭り」 ○追究計画書を作成する。 ・訪問アポイント ○祭り会場を見学する。 ○祭り保存会を訪れ、神輿等の見学、インタビュー活動を行う。 ・お祭りは地域の伝統、宝。 ・祭りの色彩に黄色は欠かせない。 ・お祭りのはなやかさは、皆で祭りを愛し、盛り上げる証だ。	・効果的な追究活動となるよう、追究計画書について指導、助言する。 ・学習で得た知識（杉作品には黄色がよく出てくること）や自分のイメージ（杉さんは黄色を活力ある色と考えているようだ）と関係付けて見たり聞いたりしてくるよう、助言する。

5 その他

○参考文献

・実践国語研究別冊216「杉みき子の児童文学」明治図書2001

○参考資料

・新井中学校1年1組「杉みき子表現辞典」「杉みき子さん発見記」藤田所有2001

上越市の市章・自校の校章の設計図をつくろう

1 単元名 「平面図形 いろいろな作図」

2 単元で学ぶ上越らしさ



(意匠説明) 上越市の「上」を草書体であらわし、若葉を思わせる形は、新しい日本海時代に向かって限りない発展を表現したものである。

上越市章には、上記のように上越市民に寄せる思いや願いが込められている。「上」という文字の草書体であることや、若葉の形をデザインしたことを知る上越市民は、意外と少ない。「新しい日本海時代に向かって」限りなく発展することを願う思いを知ることが、生徒に郷土に対する誇りと未来への希望を感じさせるであろう。

また、各小中学校の校章には市章と同様に、郷土の由来や学校に寄せる思いがデザインされている場合が多い。例えば、上越市立城西中学校の校章とそのいわれは学校沿革誌に次のように記されている。



(校章のいわれ) 三つの三角形は、金谷・和田・三郷の3地区と「団結」を表わし、バックの円は、「和」と「統合」を意味しています。また、三角形の組み合わせは「西(West)」の頭文字を地色の白は「雪」を表しています。

そこで、中学1年数学の平面図形(作図)の発展課題として、上越市章と校章の作図を指導計画に位置付け、我が故郷(=上越市)を誇りに思う心を育成したい。

3 指導計画(全14時間)

第1次 平面図形の基礎(5時間)

- ・2つの等しい図形を重ね、合同の意味を理解する。また、2つ折りにした紙を切り線対称な図形を作り、その特徴を考えてまとめる。
- ・トランプ等の具体的事例から点対称について理解し、その特徴をまとめる。特殊な三角形や四角形、正多角形などについて対称という立場から分類し、正多角形の意味について確認する。
- ・直線、半直線、線分の意味、その違いについてまとめる。三角形、角について記号による表記を理解する。
- ・紙に2本の折り目を入れ、直線の交点、垂直、平行の意味を知り、記号を用いて表す。円に関する用語(接線、弧、弦など)についてまとめ、円と直線の間の性質を調べる。

第2次 いろいろな作図(7時間)

- ・垂線、垂直二等分線、角の二等分線の作図方法について、紙を折ったりしながらまとめ、作図の練習をする
- ・上越市の市章を作図するための設計図をつくろう。
 - (1) 市章を方眼紙に重ねて型取りをする。
 - (2) 座標を用いて、線分、円弧として表現する。
 - (3) 設計図としてまとめる。

第3次 まとめの問題(2時間)

4 上越らしさを学ぶ展開例（2次 8/14時間～12/14時間）

○学習活動	・配慮事項
<p>○上越市の市章と意匠について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;">  <p style="text-align: center;">上越市の「上」を草書体であらわし、若葉を思わせる形は、新しい日本海時代に向かって限りない発展を表現したものである。</p> </div> <p>○上越市の市章を方眼紙に重ねて型取りを行い、円弧や線分として表現する。</p> <p>○設計図としてまとめる。その際に、図の順番も設計図に書く。そして、設計図を学級内で交換して、その設計図の通りに作図して相互評価し合う。</p> <p>○学校の校章についても、その意味を知り設計図を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに提示するのではなく、「上越市の市章ってどういう形か知っていますか？」のようにクイズ形式で興味・関心を高めたい。 ・意匠については、知らせて終わるのではなく、学級掲示をするなどして数学の学習時間以外にも読めるようにしておきたい。 ・市章の円の直径が10cmになるように大きさを整える。 ・前单元「比例・反比例」の座標を用いて表現すると、より正確に表現できることを理解させたい。 ・設計図を交換して作図する活動では、分からない所をお互いに質問し合うことを通して、よりよい設計図へと練り上げることを期待する。作図の技能を身に付けるだけでなく、よりよい設計図を作るという目標を志向したネゴシエーションを期待する。 ・自分が毎日通う学校の校章にも、地域に由来する願いや思いがあることを強調したい。

5 その他

上越市の市章については、上越市HPから引用した。
各学校の統合前の校章についても、調べておくとよい。

「大地の変化」で上越の大地の歴史を調べる

－上越の大地1000万年の歴史－

1 単元名 「大地の変化」

2 単元で学ぶ上越らしさ

上越市は妙高山、南葉山、米山、関田山脈とそれらの山に囲まれた高田平野からなっている。特にまわりに見られる山々は、私たち上越市民に心の安らぎを与えている。

上越市を囲む山を調べると火山に由来する山と隆起に由来する山があることに気付く。同じく並んでいても、妙高山は火山であり、火打山は火山ではない事実は生徒に大きな驚きを与える。上越の大地の歴史はおよそ次の通りである。

春日山、金谷山、南葉山、火打山：1000万年前に海に堆積し、その後隆起する。

米山：400万年前から170万年前にかけて活動した海底火山により堆積する。後に隆起する。

関田山脈：180万年前から隆起し80万年前に現在の形になる。

妙高山：成層火山 火打山を形成する基盤に30万年前に古妙高山が形成され4000年前に現在の形になる。

高田平野：15万年前に愛の風層、10万年前に平山層、現在の高田平野は5000年前にできる。

古砂丘：潟町砂層 5万年前に形成される。

焼山：ドーム状の火山 3500年前から活動をしている。

各中学校はそれぞれの地域で地層観察をするフィールドをもっている。その資料を共有したり文献を調べたりすることにより、上越全体の大地の変化を知ることが出来る。

このように上越の大地の変化の歴史を学ぶことにより、私たちが日々生活し、見ているこのふるさとへの愛情が深まることを期待する。

3 指導計画 (全22時間)

第1次 火をふく大地 (5時間)

- ・上越地域の火山の種類やその歴史を知る。妙高山の噴出物を調べたり火山灰に含まれる鉱物を観察したりする。火山の形と火山の噴出物、マグマの性質との関連について知る。
- ・火成岩の観察を通して、火山岩、深成岩の特徴を見いだす。また、火成岩の構成する鉱物の種類や鉱物の割合と火成岩の色の関係を見いだす。

第2次 ゆれる大地 (5時間)

- ・中越地震、中越沖地震のゆれの様子や被害について調べる。
- ・中越地震、中越沖地震のデータを基に、ゆれの大きさやゆれの伝わり方の規則性を調べる。
- ・地震が起こる仕組みについてプレートの動きと関連付けて考える。

第3次 地層から読みとる大地の変化 (12時間)

- ・流水のはたらきや地層の重なり方の規則性を知る。
- ・堆積岩の観察や実験を通して、岩石の構成物が異なることが分かる。
- ・堆積岩に見られる化石から堆積地層が堆積した環境や時代が推定できることを知る。
- ・上越地域の路頭を観察し、地層に含まれる岩石や化石、地層の重なり方から大地の過去から現在までの変化を推察する。資料を基に上越の大地の歴史を調べる。

4 上越らしさを学ぶ展開例

(1) 火をふく大地（1次 1/5, 2/5時間）

高田平野を囲む山や山脈を調べる学習を通し、火山によってできた山とそうでない山があることを知る。妙高山の噴火の歴史を調べたり、火山の噴出物を調べたりして、妙高山の火山の特徴を学ぶ。この妙高山の火山の学習を通して、他の火山への関心を持たせる。

○学習活動	・配慮事項
○高田平野を囲む山や山脈の名前を調べる。 上越地域の火山を知りその火山の歴史を調べる。 ○妙高山の噴出物を観察する。 ○ローム層から鉱物を取り出し観察する。 ○噴出物や鉱物から妙高山の火山の特徴を考察する。	・米山が海底火山、妙高山、焼山が火山であることを資料から調べる。 ・妙高山の噴火の歴史について調べる。 ・妙高山の火山の噴出物を採集して観察できるようにする。

(2) 地層から読みとる大地の変化（3次 5/12~12/12時間）

地層観察に出かけ、地層の広がりや地元の大地の変化を推測する。さらに、上越の他の地域の資料を基に、上越地域全体の大地の歴史をまとめる。

○学習活動	・配慮事項
○地層観察を行い、地層の広がりや地元の大地の歴史を推測する。 ○資料をもとに他の上越地域の大地の歴史を調べる。 ○調べたことをもとに、上越の大地の歴史をまとめる。	・地元の地層観察を行う。 地層の中見られたローム層や岩石と火山の活動を関連づけて考えるようにする。 ・「砂丘」「高田平野」「米山から関田山脈」「春日山から妙高山」とグループに分けた資料をもとに、上越の各地域の大地の歴史を調べる。 ・調べたことをもとに上越地域の全体の大地の変化をとらえさせる。

5 その他

- 参考文献：「地域の資源」を生かす理科教育 「地域の資源」を生かす理科教育編集委員会編集
：「上越市の自然シリーズ・3 大地」 上越科学技術教育研究会編集
：「大地のロマンを求めて」 地学団体研究会新潟支部編著
：国立妙高少年自然の家、ねらい別活動プログラム集「妙高火山～現在の姿から過去の出来事を想像しよう～」 濁川明男編集

英語で表現「私たちの上越」

－ALTに上越を紹介しよう－

1 単元名 「ALTに上越を紹介しよう」

2 単元で学ぶ上越らしさ

(1) 上越らしさ

私たちのふるさと上越は、NHK大河ドラマ「風林火山」で人気ミュージシャンGacktが上杉謙信を演じたことに加え、次回の作品でも上越の武将、直江兼続が取り上げられたことで、一躍全国的に注目を浴びている。小学校、中学校の社会科や総合学習の中であらゆる面から上越のことについて調べてきた生徒は多いと思う。これを機会にふるさと上越についての見識を深め、上越再発見の場にしたい。

上越市の一つの特徴といえば、ALTの配属数が多いということが上げられる。それを生かして、生徒の書く力、話す力はもちろん、調べようとする意欲や調査力を伸ばしたいと考えた。ALTに紹介したいテーマを決め、情報を集める。習った英語で分かりやすく相手に伝えることを目標に取り組みたい。

(2) 単元を通してつきたい力

英語の能力の中で差がつきやすい分野が書く力である。英語を書く機会を多く設定することで、書くことに対する慣れを感じさせ、英語作文への抵抗感を取り除きたと考えた。平常の題材やテーマについては上越のことについてだけでは無理がある時もあるが、無理であればその時より自然なテーマを設定するのが良いと思う。

3 指導計画

(1) 指導目標

- 自分の書いた「ふるさと上越」レポートを、ALTにプレゼンテーションする。
- 英作文に慣れる。「書ける生徒」の育成を目指す。

(2) 指導計画（全8時間）

第1次 テーマを決めて、情報を集めよう（2時間）

- ・各自テーマを選択し、インターネットや文献等から情報を集める。

例：上越出身の有名人、歴史、祭り、気候風土、産業、「高田の四季」の和訳

（すでに社会科や総合学習等で十分に生徒が情報をもっている際は割愛する。）

第2次 分かりやすい英語で表現しよう（4時間）

- ・習った英語、文法に加え、今回必要な英語表現を調べながら作文する。自身の英語力をフルに活用し、友だちの作文を参考にしながら、表現の幅を広げていく。
（グループワークにすることも可能で、テーマごとにチームを組んでスピーチを作成する。発表時の役割分担もする。）

第3次 ALTに伝えよう（2時間）

- ・自身で書いた英作文をもとに音読練習をして、プレゼンテーションにつなげる。必要に応じて特産物や民芸品、写真等を用意して、相手に伝わるスピーチを行う。
（グループ別に作業してきた場合も、グループ別に発表する。）

* 日常の授業の中で、その単元終了時に習ったばかりの英語を用いて上越についての作文練習を

積ませておくが良い。そのまとめ学習としても位置付けられる。

*長期休業での課題として提示することも考えられる。ALTが2学期から変わることを想定し、夏休みの課題として（もしくは1学期末から）設定し、学習を始めることも可能である。夏休み中の質問は大いに受けるようにし、夏休み後の授業で訂正、改善を図る。そしてプレゼンテーションにつなげていく。スピーキングテストとしてのとらえでも良い。

4 上越らしさを学ぶ展開例（第2次 3/8時間～6/8時間）

第1次で設定したテーマ、用意した情報をもとに作文書きを始める。今まで習った表現をもとに分かりやすい英語で書くことを心がける。

直訳にこだわるあまり日本語をそのまま英語にしようとして苦勞する生徒も出てくるのが予想されるが、今までの既習の英語で表現できる幅は意外に広いことを知る場にもなるだろう。

○学習活動	・配慮事項
○ふるさと上越についての英語作文を書く。	<ul style="list-style-type: none">・習熟度に応じて、事前に「便利な英語表現」をまとめたプリント等を配布し、ヒントとして使用させることも考えられる。・分からない単語、文法に関しては極力、生徒が調べ、探すようにさせていきたい。しかし場に応じて、重要であったり、便利な英語、覚えて欲しい英語だったら、板書提示する。・生徒間の教え合いを推奨し、低位の生徒への助言が教師からだけにならないようにする。・早く終わった生徒は、この後に続くプレゼンテーションに備え、音読の助言をしたり、必要な小道具の用意をさせたりする。
○自分で調べる。	
○教え合いの中で英語表現の幅を広げる。	
○プレゼンテーションの練習をする。	

「校歌の世界を描く」

1 単元名 「校章の秘密を知る，校歌の世界を描く」

2 単元で学ぶ上越らしさ

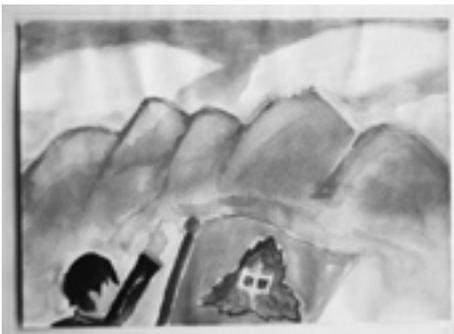
上越市内の小，中学校の校章や校歌には，上越らしさやふるさと（地域）の特色が表されているものが多い。校章のデザインには，学区の自然環境を単純化，抽象化したものや，「学び」を表すペンを組み合わせたものが多く，これに校名や小，中などの文字を組み合わせて作られている。例えば海の近くにある学校は，単純化した波が描かれ，稲作が盛んな地域では，稲穂が描かれている。

校歌にも上越らしさやふるさとの特色が表わされている。上越地域の典型的な校歌は，1番は，妙高山を遠く望むと歌詞にあり，高さ，雄大さ，気高さを表し，2番は，日本海や寄せては返す波の姿によって，広大さや時間の流れなどを表している。3番では，児童生徒が目指す理想の姿を表している。これら校歌に描かれた世界をイメージして絵に表すことで，生徒は，校区や地域に対する理解を深めたり，学校が目指す姿を具体的に捉えたりすることができる。

牧中学校校歌の1番は，妙高山ではなく，「県境の峰の雄姿」と歌われている。実際に教室の窓からは，長野県との県境の山々が遠く望める。生徒は，それぞれに自分の峰を見つけ，それを絵に表した。また「自治の旗高くかざして はつらつと羽ばたきゆかん」の歌詞について，生徒は，オオタカを始めとする野鳥の宝庫であるという牧区らしさが「羽ばたく」に込められているのではないかと気付き，絵に描く生徒がいた。

本単元では，生徒が歌詞を丁寧に味わい，校歌に対する作詞者の思いや願いに気付きながら校歌の世界をイメージして描いていくことを通して，上越らしさやふるさとのよさに気付き，大切にしていこうようにしたい。

作品例



3 指導計画

第1次 校章の秘密を調べよう。(1時間)

- ・小学校の校章を思い出し、スケッチする。互いの校章のデザインについて紹介しあう。
- ・中学校の校章をスケッチし、デザインについて考える。

第2次 校歌の世界を描こう。(4時間)

- ・校歌が表す世界をイメージし、絵に表す。
- ・校内に掲示し、互いに鑑賞し合う。

4 上越らしさを学ぶ展開例

- ・入学間もない頃の最初の単元として設定するならば、互いの出身小学校を校章や校章を通して紹介することもできる。
- ・校歌は、4月、5月の音楽の授業でも扱うことから、連携を図って行うとよい。

(1) 校章の秘密 (1次 1/5時間)

○学習活動	・配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> ○自分の出身小学校の校章をスケッチする。 ○校章のデザインの意味を互いに説明する。 ○中学校の校章をスケッチする。 ○校章のデザインの意味を想像し、意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴をとらえてあればよいこととする。 ・統合前の校章を紹介してもよい。 ・市内の他の学校の校章も参考例として示し自然物の単純化、抽象形態などグループ分けさせてもよい。

(2) 校歌の世界を描く (2次 2/5～5/5時間)

○学習活動	・配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> ○用紙に校歌の歌詞を書く。 ○校歌の1番、2番、3番……から好きな歌詞を選ぶ ○歌詞からイメージした世界をスケッチする。 ○彩色する。 ○互いに鑑賞する。学級や廊下などに掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙の下半分に歌詞、上半分に絵が描けるようにレイアウトする。 ・グラウンドや屋上などから、周囲の風景を見渡したり、校歌に歌われている事物を調べる活動を行う。 ・1番、2番などにこだわらず、全体から好きな歌詞を選んで構成してもよい。 ・カレンダーのようにして年間を通して掲示してもよい。

5 その他

参考：上越市内の校章

波をデザインした例



名立中



直江津中



八千浦中



板倉中



牧中

自然物をデザインした例

抽象形態を使用した例



城北中



城東中



雄志中

上越の先人アラカルト

地域素材で、社会科・総合的な学習の時間・道徳にトライ！

合併により広大になった上越市。近代史を紐解いて見ると、地域・日本の発展に貢献した先人が数多く見受けられます。私たちの郷土上越を知り、愛する心を育む意味からも、これらの先人を素材にした学習に挑戦してみませんか。

敬称略 50音順に記載

資料提供：上越市、上越タイムス社



発電事業に貢献

飯田 茂勝

茂勝は、1876年に衆議院議員山本健治の次男として菖蒲村（現大島区）に生まれた。幼少期に飯田家の養子となり、後に郡会議員として活躍した。保倉川電気株式会社の設立に尽力し、初代社長に就任。発電所を建設し、地域一帯に送電するなど旧東頸城の電力事業に力を注いだ。

小3・4社会科<地域の発展に尽くした先人の働き>
小高学年道徳<郷土愛>



宮大工として活躍

江崎長三郎

長三郎は、1831年に現在の名立区で生まれた。昔から、「名立大工に能生左官」と言われるが、中でも、弟・弥代吉と共に名工として知られる。

代表作に五智国分寺三重塔がある。後進の指導にも熱心で、自身の経験と技をまとめた「新選規矩階梯」は長年読み継がれた。

小高学年中学校道徳<不撓不屈><個性慎重>
小・中社会科資料



頸城鉄道を創立

大竹 謙治

謙治は、1878年百間町（頸城区）に生まれ、20歳のとき大竹家の養子となる。土地改良事業、衆議院議員、病院理事長、商工会議所会頭など多方面で活躍。中でも、頸城鉄道社長として直江津―浦川原間を鉄道で結び、その後バスを運行させるなど上越地域の交通王としての功績は大きい。

小3・4社会科<地域の発展に尽くした先人の働き>
小5社会科<わが国の農業>資料



日本初の石油パイプライン

笠尾 惣治

惣治は1848年深沢村（現清里区）で生まれ、板垣退助とも親交があったと言われる。前の石油ブームに沸く明治期の清里区で、パイプライン敷設の責任者として活躍したのが惣治である。その後、上越石油の社長として長く石油産業に携るほか、郡道の開通や小作争議の解決にも尽力した。

小3社会科<地域の発展に尽くした先人の働き>
小高学年中学校道徳<創意進取>



人々の健康と福祉に尽力

小林富次郎

富次郎は1852年に生まれ、父母の郷里である直海浜村（現柿崎区）で漁業と酒造業に励んだ。

数々の失敗や病気にもめげず、39歳のとき、自分で小さな商店を始める。石鹼や歯磨きなど独自の商品開発を進め、現在のライオン株式会社の基礎を築く。

小高学年中学校道徳<勤勉努力>
<不撓不屈>



今も歌い継がれる

小山 作之助

作之助は1864年潟町村（現大潟区）に生まれ、16歳のとき向学心に燃え、上京する。東京音楽学校（現在の東京芸大）で学び、その後、専任教授となる。「夏は来ぬ」でよく知られる作曲家としての顔のほか、滝廉太郎のドイツ留学を支援するなど、教育者としても手腕を発揮した。

小・中音楽 資料
小高学年中学校道徳<個性伸長>



信用組合を設立

富永孝太郎

孝太郎は1866年神田村（現三和区）で生まれた。米国イリノイ大学で学んだ後、農業技術と生産性の向上に貢献。

産業組合の必要性を預城各地で説き、上越信用組合連合会を設立し、初代会長となる。また、農村医療振興にも努め衆議院議員を2期務めた。（川上善兵衛 義兄）

小高学年中学校道徳<公德心>
<郷土愛>



「人頭税」の廃止に尽力

中村 十作

十作は稲増（現板倉区）で庄屋の子として生まれる。没落した中村家再興を願い真珠養殖のため、沖縄を目指す。

そこで重税に苦しむ農民の姿を目の当たりにし、人頭税廃止に向けて立ち上がった。運動は困難を極めたが、帝国議会への直訴を経て、ついに人頭税廃止を勝ち取った。

中社会科 資料
小高学年中学校人権・同和教育資料



牧油田の開発に尽力

西條 太造

太造は1848年湯谷村（現牧区）に生まれ、明治期の町村合併の中で村長を務め、行政手腕を發揮した。

また、石油事業にも乗り出し、牧油田の開発に取り組むほか、天然ガスを利用したガラス製造会社、石炭採掘事業を行い、地域振興に大きく貢献した。

小3・4社会科<地域の発展に尽くした先人の働き>
小高学年中学校道徳<郷土愛>



日本郵便の父

前島 密

密は1835年下池部（現上越市）に生まれ、苦学の末、江戸から明治にかけて国の中枢で国策事業推進に邁進した。

中でも第一の功績として挙げられるのは、郵便制度の確立である。切手・郵便ポスト・全国均一料金制など郵便の基礎を築き、貯金・為替の制度も確立した。

小3・4社会科<地域の発展に尽くした先人の働き>
小6社会科資料



台湾製糖の発展に尽力

丸田治太郎

治太郎は1866年下保倉村（現浦川原区）で生まれた。慶応義塾で学んだ後、銀行勤務を経て、台湾製糖に入社。

当時の台湾は治安が悪く、思うように仕事は進まなかったが、治太郎の尽力により安定した会社経営ができるようになり、東頸城からも多くの労働者が台湾に渡った。

小高学年中学校道徳<不撓不屈>
<役割・責任>



「確率過程論」の権威

丸山 毅夫

毅夫は、1936年吉川町（現吉川区）で生まれ、米国に留学し、博士号を取得した。帰国後、国立遺伝学研究所の研究者となり、研究に没頭する。集団遺伝学分野に確率過程論を取り入れ、後に世界的権威と呼ばれるようになる。また、「日本DNAデータバンク」の設立にも尽力した。

中学校道徳<向上心・個性伸長>
中学校数学・理科資料



ろうあ村長

横尾 義智

義智は1893年小黒村（現安塚区）で大地主の長男として生まれた。

家督を継いだ義智は村内の窮乏ぶりを目の当たりにし、救済策に奔走する。その後、消防団組長、村会議員を歴任し、1934年、日本でただ一人のろうあ村長となり、3期12年間、献身的に村政に尽くした。

小高学年中学校道徳<郷土愛>
小高学年中学校人権・同和教育資料



地域トラック運送の先駆

陸川 三治

三治は1887年ごろ中郷村藤沢（現中郷区）で生まれ、家業の藤沢焼を受け継いだ。しかし、昭和に入り鋳物生産の影響を受けて、藤沢焼きの生産を中止。その後、頸南地域の先駆けとして、トラックによる運送業、さらにハイヤー業を始めた。三治は、エンジンを含む全てを自身で修理した。

小高学年道徳<創意進取>
<勤勉・努力>